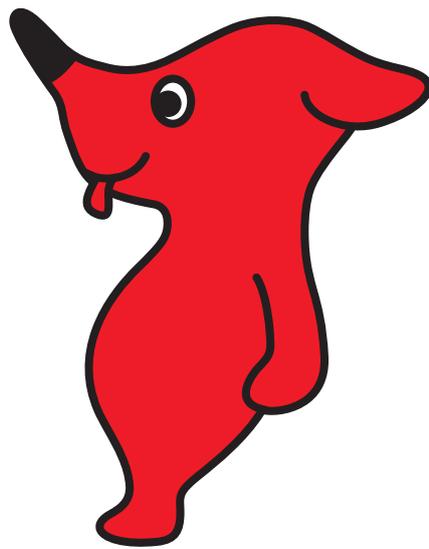


学校卒業後における
障害者の学びの支援に関する実践研究事業
(平成 30 年度から令和 2 年度)



千葉県マスコットキャラクター

チーバくん

令和 3 年 3 月
千葉県教育委員会

はじめに

これまでの障害者への教育施策は、特別支援学校等の学校教育の場を中心に展開されてきました。しかし、平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行、平成29年には文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」が発出され、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進することが急務であるとされました。

このような状況の中、千葉県教育委員会では、平成30年度から文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究事業」を受託し、障害者の学校卒業後の学びの支援を充実させるため、具体的な学習プログラムの開発や実施体制等に関する研究を行う「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」に取り組んでまいりました。この事業では、特別支援学校と県生涯学習センターであるさわやかちば県民プラザにおける障害者の生涯を通じた学びを充実させる「学習プログラム開発」、コンソーシアム（関係団体代表者による連携組織）の設置による「連携体制の構築」、その成果を県内全域に広げる「成果の普及・啓発」を3つの柱として進めてきました。

本冊子は、3年間の事業で得た成果を障害者の生活に関わる方々と共有し、障害者にとって身近な場所で生涯学習が実施される環境が県内に構築されていくことを目的とし、コンソーシアム会議の取組とその効果や、試行錯誤を重ねながら作成した「学習プログラム」、今回参加した障害者の学習に対する思いなどをまとめました。今後、各市町村や関係機関での障害者の学びを支援する際の参考としていただければ幸いです。

最後になりますが、3年間にわたり、本事業の実施に御協力、御尽力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

令和3年3月

千葉県教育委員会

もくじ

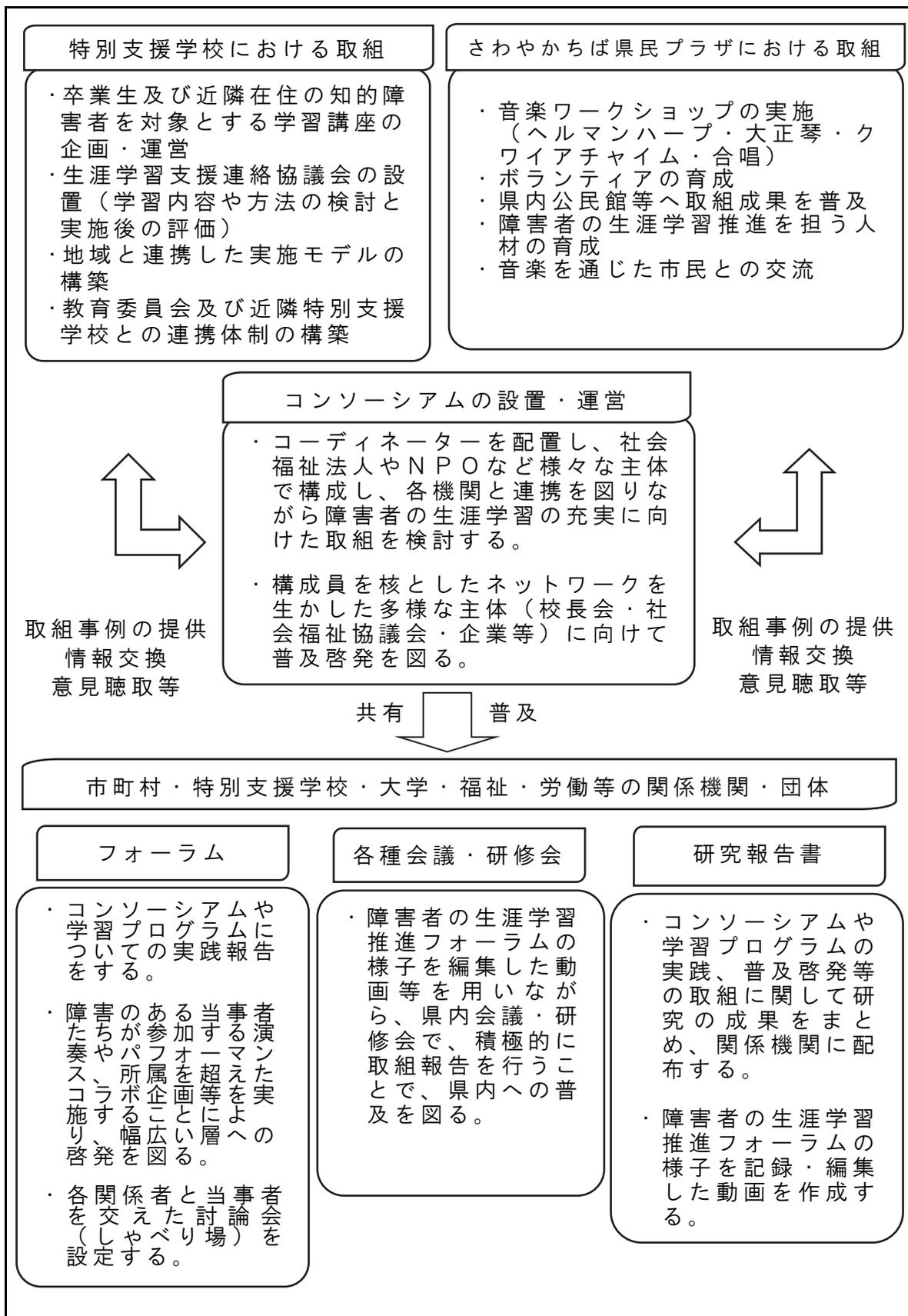
1	実践研究事業概要 千葉県の実践研究事業について	1
2	連携体制の構築	7
3	学習プログラム開発 1 特別支援学校の取組	15
4	学習プログラム開発 2 さわやかちば県民プラザの取組	63
5	普及・啓発	83
6	実践事例 我孫子市湖北地区公民館の取組	85
7	成果と課題、共生社会への思い	93
8	令和3年度の取組 学校卒業後における障害者の学びの支援事業	99
参考	文部科学省の実践研究事業について	101

1 実践研究事業概要

千葉県の実践研究事業について

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

1 事業の実施に係る全体像



2 各事業内

(1) 学習プログラムの開発

学習プログラムの開発については、先進事例の視察・研究やコンソーシアム会議での意見を踏まえながら、特別支援学校及びさわやかちば県民プラザにおいて、企画から運営までの実践研究を進める。その際、事業の企画・実施に当たっては、特別支援学校高等部の学習指導要領等の趣旨を踏まえた効果的な学習プログラムの開発、実施体制や連携モデルの構築等に取り組む。

ア 特別支援学校における取組

県立特別支援学校市川大野高等学園を拠点に、卒業生及び近隣在住の知的障害者を対象とし、学校から社会への移行期、人生のライフステージにおいて、必要となる学びを明らかにし、具体的な学習プログラムや実施体制等について実践研究に取り組む。

企画に当たっては、アンケートの結果やコンソーシアム及び、特別支援学校広域同窓会連絡協議会での意見聴取をもとに、内容や方法について計画するとともに、「学ぶ（ライフプランや社会生活等）」、「楽しむ（スポーツやスキルアップ等）」、「つながる（地域の社会教育施設の行事等への参加）」の3つの分野の講座を経験できるように計画を立てる。実施に当たっては、地域住民との共同活動や地域の人材を講師として招聘したり、地域の施設を活用したりしながら生涯学習講座を実施する。

また、学校所在地を中心とした連携体制を作るため、教育・行政・労働・地域の関係者からなる「生涯学習支援連絡協議会」を設置し、情報交換を図りながら、講座の内容や方法について検討し、より地域に根付いた活動を展開していく。

(ア) 取組内容

① 「学ぶ」プロジェクト

【ライフプラン】

年金等のお金の管理や福祉制度等の生活上必要となる内容

【社会生活】

社会人としてのマナーやコミュニケーションなど生活や人間関係づくりに役立つ内容

②「楽しむ」プロジェクト

【リフレッシュ】

運動や仲間との交流をとおして心身の健康を維持する内容

【豊かな人生】

余暇の充実や、自分自身のスキルアップ等、興味関心のあることを広げ、深める内容

③「つながる」プロジェクト

【卒業生をつなぐ】

ホームページやSNSを使った情報提供、放課後相談、電話・メール相談等

【在校生をつなぐ】

生涯学習講座、総合的な探求の時間、外部指導者による部活動の実施

④アンケート調査

生涯学習講座の内容や情報収集手段等に関する意識調査

⑤先進事例の視察

視察先：各地区コンファレンス等

⑥生涯学習支援連絡協議会

教育、行政、労働、地域の関係者による連携体制の構築と情報交換、企画、運営（年3回実施）

イ さわやかちば県民プラザにおける取組

人生をより豊かに送り、コミュニケーション能力や物事をやり遂げる力を育成することを目的に、ヘルマンハーブ、大正琴、クワイアチャイムの演奏や合唱などによる体験型の講座（音楽ワークショップ）を実施する。

実施に当たっては、受講生一人一人がメロディーを奏で音楽に親しむ喜びを感じ、演奏の上達やコンサートでの披露などの達成感を味わうことができるようにする。障害の有無にかかわらず「さわやかおんがく隊」として活動することで他者と交流する喜びを感じることができるようにするとともに、近隣の社会福祉施設への出張発表や他の団体との合同コンサートを通して、周囲に認め

られる経験をすることができるよう意識して計画を作る。また、講座を定期的に行うようにし、受講生の生活サイクルの一部となるようにすることで、受講生の生きがいや目標となるようにする。

同時に、サポーター（ボランティア）の育成にも力点を置く。より実践的な育成をするために、座学とさわやかおんがく隊ワークショップでの実践、振り返りを繰り返し、受講生との交流を深め、障害理解や意識改革の促進を図るとともに受講生個々の特性に即した活動ができるようにする。

（ア）取組内容

①「さわやかおんがく隊ワークショップ」

ヘルマンハーブ、合唱、大正琴に取り組む。講座は、自主練習会を含め月2回実施する。

②「目標の設定」

近隣福祉施設での演奏会や障害者の生涯学習推進フォーラムにて発表をする機会を設ける。

また、他団体との合同発表も行い交流を深める機会を設ける。

③「サポーター（ボランティア）養成講座」

座学、実践、振り返りを繰り返し行うことでより実践的な講座とする。同時に障害理解や個々の特性を知る機会ともする。

（２）連携体制の構築

生涯学習・社会教育、特別支援教育、障害者福祉、労働、障害者本人など、様々な主体から構成する「障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム（以下、コンソーシアム）」を設置する。コンソーシアムを組織するに当たり、事業全体のコーディネーターを主査（まとめ役）として配置する。

会議では、特別支援学校やさわやかちば県民プラザにおける学習プログラム開発の内容について助言や検証を行うとともに、県内外の先進事例研究や関係者からのヒアリング、コンソーシアム委員相互の実践についての情報交換等を実施することで、連携体制を構築・強化する。

加えて、コンソーシアムの連携を通して、障害者を対象とした生涯学習講座を実施するために必要な専門的な知識をもった人材を講師として派遣していただけるように協力を得る。これにより、特別支援学校や障害者団体、地域の生涯学習センターが活用できるようにし、障害者の学びの充実を図る。また、コンソーシアム委員を起点として、他の障害者関係団体や関係機関等への連携を広げる。そして、教育庁各課・健康福祉部の事業との連携を図り、さらに障害者の学びの環境づくりの充実に取り組んでいく。

また、市町村の公民館（障害者の生涯学習講座）へのアンケート調査を行い、地域の障害者の学びの場の状況を把握し、地域の学びの場の情報を発信するとともに、地域の生涯学習センターに向けて障害者の学びの場づくりの支援を行っていく。

ア 取組内容

①コンソーシアム

主査を配置する。年4回実施。学習プログラム開発の助言と検証、連携体制の構築、情報共有を行う。

②専門的な知識をもった人材の協力

専門的な知識をもった人材を障害者団体や生涯学習講座実施者に紹介する。

③アンケート調査

地域の公民館に障害者対象生涯学習講座や障害者団体の利用の状況を把握し、地域に学びの場の情報を発信していく。

④庁内他課や外部団体との連携

特別支援教育課、障害福祉事業課、障害福祉推進課
障害者福祉法人等

《ホームページの活用について》

コンソーシアム会議での連携により、障害者を対象とした生涯学習講座を実施するために必要な講師の派遣情報や地域の公民館講座の情報を掲載し、情報入手の環境を整える。

①連携した企業、法人等による講師の派遣等

②地域公民館の講座情報 等

(3) 成果の普及・啓発

ア 障害者の生涯学習推進フォーラムの開催

(ア) 目的

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業の取組についての実践報告や、障害者本人による学びの成果発表等を通して、市町村行政職員や教職員、公民館をはじめとする社会教育施設職員等、障害者を取り巻く関係者が、生涯学習の重要性を再認識するとともに、障害者を交えた座談会「しゃべり場」を設け、障害者の学びに対する思いを共有することで、今後の学習機会の充実の契機とする。

(イ) 内容

①事業報告

- ・障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム会議報告
- ・特別支援学校における学習プログラム
- ・さわやかちば県民プラザにおける学習プログラム

②発表

- ・さわやかおんがく隊による発表
- ・障害のある方が所属されている団体による発表
※展示物等も含む。

③しゃべり場（シンポジウム）

行政、有識者、障害者、ボランティア、事業関係者等による座談会

イ 実践研究事業のまとめ（冊子・リーフレット）の作成・配布

特別支援学校及びさわやかちば県民プラザにおける学習プログラムの実践や、コンソーシアム会議及びフォーラムの開催結果についての成果をまとめ、県内市町村、特別支援学校、社会福祉法人等の関係団体へ配布し、普及を図る。

2 連携体制の構築

連携体制の構築

1 連携体制の構築（コンソーシアム）の目的

「連携体制」として組織したこのコンソーシアムは、各関係団体の取組に関する情報交換により連携するとともに、「学習プログラム」や「成果の普及・啓発の在り方」について協議し、「学校卒業後における障害者の学びの機会の充実」を目指した。

また、連携体制を構築することは、地域と連携をすることにつながり、地域の協力を得ながら長く継続できる取組となると考えた。

2 コンソーシアム委員・会議について

- (1) コンソーシアムは、教育、福祉、労働、障害者等の関係者による委員により構成され、その代表として主査を配置し、会議の事務・運営を総括する。

なお、主査には事業全体に係るコーディネーターをもって充てる。

《コーディネーターについて》

コーディネーターは、障害者が学校段階でどのような能力・技能を獲得し、卒業後、就労先など社会においてどのようにして維持・開発・伸長されているのかについて識見をもち、実際に障害者に対する指導を行ってきた経験をもとに、学びの成果の評価においても中心的な役割を担うことができる人材が適当である。

- (2) コンソーシアム会議は、年間4回実施する。学習プログラム開発や成果の普及・啓発等、各事業の進行状況の確認や内容等、事業全体への評価を行う。

主な委員からの意見

- ・地域で活躍する人材を活用することも考えてはどうか。
- ・地域の公民館や生涯学習センターなどを活用できるとよいのではないか。
- ・家の近くに講座を受けることができる場所がない。遠くまで通うのは大変だ。 . . . 等

※会議の記録は「千葉県ホームページ」に掲載

<https://www.pref.chiba.lg.jp/>

[kyouiku/shougaku/shingikai/shougaisha/r3index.html](https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/shingikai/shougaisha/r3index.html)

《障害当事者の参加（令和2年度）》

令和2年度は、コンソーシアム会議の内容はもとより事業全体をより障害者の思いに即した取組とするために、障害者に委員の委嘱を行った。

コンソーシアム会議の中で、過去2年間のコンソーシアム会議には無い視点からの意見を得ることができ、当事者の思いの大切さを気づかされた。

主な例として

実際に使用した「生涯学習講座の動画配信」についての協議

「ほとんどの委員の意見」

動画の内容に好印象を得る

「障害者委員の意見」

「視聴したが、ただ淡々とやっているだけで興味が湧かない。時間が長く、空いた時間に視聴できない。他の人とのやり取りもなく孤独である。ユーチューブ等のほうがおもしろい…。」

（「千葉県ホームページ」議事録掲載）



視聴者の立場に立った作成が必要！と気づく

3 専門的な知識や人材の提供

コンソーシアムにより連携を深めたNPO法人や民間企業等から専門的な知識をもった人材を生涯学習講座の講師として派遣できる環境を整え、障害者団体や生涯学習事業者（生涯学習を主催する者）が、より県内各地域において学びの計画を立てやすい環境を整える。

《コンソーシアムの連携を基に》

- ・千葉アール・ブリュットセンターうみのもり
（社会福祉法人フラット）
⇒芸術・文化面での講師等の派遣
- ・千葉県特例子会社連絡会
⇒一般企業の専門的な知識、ビジネスマナー等の講師等の派遣
- ・NPO法人みんなでサポートちば
（保険労務士、会計士、弁護士等の団体）
⇒社会生活上必要な知識等の講師の派遣

4 地域の公民館の障害者対象講座実施状況

地域の公民館は、地域の生涯学習の拠点と考える。そのため、アンケートを実施し、地域の公民館の実態を把握することで、地域の公民館が他の公民館の状況を知り、課題を共有するとともに、障害者団体が学びの場所の参考となるようにする。

(1) 「アンケートの結果」

アンケート配付数	291 館	
回答数	149 館	51.2%

《実施講座の有無と状況》

講座有り	66 館	44.3%
そのうち全講座で参加可能	17 館	25.8%
講座無し	83 館	55.7%
そのうち開講検討中	6 館	7.2%
そのうち計画が実現しなかった	15 館	18.1%

《サークル等の利用の有無》 未記入14館

利用有り	49 館	32.9%
利用無し	86 館	57.7%
そのうち利用についての相談はあった	17 館	19.8%

※主な対象：千葉県公民館連絡協議会加盟公民館

(2) 講座「有り」の回答より

「障害者が対象となる講座を設けている」公民館と「特に設定していない」、「相談があればどの講座も受講可能」という回答もある。

また、講座の内容については、文化的な講座、体育的な講座、地域の探索等の地域の特色を生かす講座や社会生活・家庭教育等、生活に必要な情報・知識を学ぶ講座まで多岐にわたっている。

公民館の講座の主な実施内容

- ・ パラスポーツ講座・手工芸に関する講座・調理に関する講座
- ・ 音楽に関する講座・映画や劇の鑑賞・英会話・手話や点字
- ・ 消費者教育や家庭、社会教育の講座 等

※どこの公民館でも実施しているわけではありません。

(3) 講座「無し」の理由

- ①利用のニーズがない。相談がない。
- ②募集をしても来なかった。

(4) 困っていること

- ①施設のバリアフリー化。特に身障者トイレとエレベーター。
- ②何をやっていいかわからない。
- ③対応に不安がある。
- ④人手が足りない。
- ⑤手話、点字の対応等ができない。

(5) サークル活動「有り」の回答より

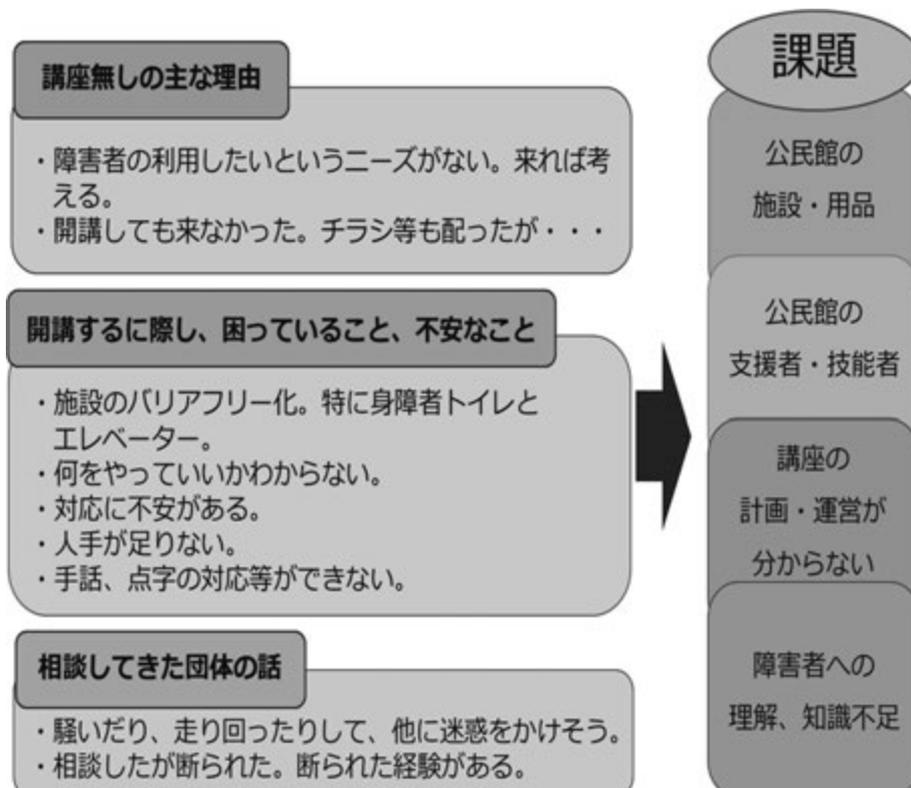
障害者団体や地域の障害者が在籍するサークルが公民館を借用している団体には、保護者の会や地域のスポーツ団体、協議会等が活動を行っており、ダンスや手話交流会等様々な活動を行っている。

(6) 団体からの相談

公民館の借用に際し、団体からの相談も受けている。内容は、利用に際しての不安が原因となっていることが予想されるものが中心となっている。

(7) アンケートから見えた課題

- ・施設、用品、備品等の講座を開設する際の環境面を整えること。
- ・支援者・講師等、講座の開設に必要な人材面の確保をすること。
- ・何をしたいのか？どのように計画をすればいいのか？等、計画・運営面にかかわる知識や経験が不足していること。
- ・障害者への支援に対す知識や経験が不足していること。



障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム設置要綱

(目的)

第1条 学校卒業後における障害者の学びの支援の充実のため、関係者による連携組織として「障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム」(以下、「コンソーシアム」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 コンソーシアムは以下の事務を所掌する。

- (1) 障害者の学びの推進に係る現状分析や、先進事例の研究に関すること。
- (2) 特別支援学校及びさわやかちば県民プラザをはじめとする県内社会教育施設における学習プログラム開発に係る助言と検証に関すること。
- (3) 県内市町村や関係機関への普及・啓発等、推進体制づくりに関すること。
- (4) その他、必要な事項に関すること。

(委員)

第3条 コンソーシアムの委員は、生涯学習、スポーツ、文化、福祉、労働等の関係機関・団体の代表者や有識者等で構成する。

2 コンソーシアムの委員の任期は、委嘱した日から当該年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

3 コンソーシアムの委員は、千葉県教育委員会教育長が委嘱する。

(組織)

第4条 コンソーシアムには、主査を置く。

2 主査は、コンソーシアムを代表し、その事務を総括する。

3 主査に事故があるときは、主査が指名する委員がその職務を代理する。

4 主査は、別に定める「学校卒業後の障害者の学びの支援に関する実践研究事業」に係るコーディネーターをもって充てる。

(会議)

第5条 コンソーシアムの会議(以下、「会議」という。)は主査が招集し運営する。

(会議の公開)

第6条 会議は、次に掲げる場合を除き、公開して行う。

(1) 人事に関する事項を審議する場合

(2) 前号に掲げる場合のほか、主査が、公開することにより公平かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認める場合その他正当な理由があると認める場合

(会議の傍聴)

第7条 会議を傍聴しようとする者は、あらかじめ、第10条に規定する事務局が別に定める手続により、会議開会の30分前から20分前までに許可を受けなければならない。傍聴できる定員を10名とし、傍聴希望者が定員を上回った場合は、抽選を行い、傍聴人を決定する。

- 2 前項の規定にかかわらず、報道機関に所属する者であって主査が認めるものは、会議を傍聴できるものとする。
- 3 傍聴人は、主査の許可を受けて、会議を撮影し、録画し、又は録音することができる。
- 4 傍聴人は、前項の許可を受けようとするときは、予め事務局に申請しなければならない。また、会議を撮影し、録画し、又は録音するに当たっては、事務局の指示に従わなければならない。
- 5 傍聴人は、会議の進行を妨げる行為又は他の傍聴人の傍聴を妨げる行為をしてはならない。
- 6 主査は、第4項の規定による事務局の指示に従わずに会議を撮影し、録画し、若しくは録音したとき、又は前項に規定する行為をしたときは、退場を命ずる等適当な措置をとることができる。

(会議資料の公開)

第8条 主査は、会議において配付した資料を事務局に公開させなければならない。ただし、主査は、公開することにより公平かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認めるときその他正当な理由があると認めるときは、会議資料の全部又は一部を非公開とすることができる。

(議事録の公開)

第9条 主査は、事務局に会議の議事録を作成させ、これを公開しなければならない。ただし、主査は、公開することにより公平かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認めるときその他正当な理由があると認めるときは、議事録の全部又は一部を非公開とすることができる。

- 2 前項の規定により議事録の全部又は一部を非公開とする場合には、主査は非公開とした部分について議事要旨を作成し、これを公開するものとする。

(事務局)

第10条 コンソーシアムの事務局は、千葉県教育庁教育振興部生涯学習課内に置く。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関し必要な事項は事務局が定める。

附 則

この要綱は、平成30年7月19日から施行する。

「障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム」日程

	実施日	協議事項
平成 30 年度		
第 1 回	8 月 10 日 (金)	1 関係機関の連携体制と研究の全体像について 2 県内先進事例に係るヒアリングについて
第 2 回	10 月 18 日 (木)	1 学習プログラム開発について ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組
第 3 回	11 月 6 日 (木)	1 障害のある方の保護者からのヒアリングについて 2 障害のある方への学習講座の実践事例に係るヒアリングについて 3 県外先進事例に係るヒアリングについて
第 4 回	1 月 29 日 (火)	1 今年度のまとめと次年度の方向性について ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組
令和元年度		
第 1 回	7 月 31 日 (水)	1 令和元年度の実践研究計画について ・実践研究の全体像 ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組
第 2 回	9 月 19 日 (木)	1 学習プログラム開発について ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組 2 学習講座の実践事例について ・千葉県手をつなぐ育成会 研修部長 岩野 明子氏より
第 3 回	11 月 26 日 (火)	1 学習プログラム開発について ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組 2 県外先進事例に係るヒアリングについて
第 4 回	2 月 3 日 (月)	1 今年度の実践研究事業に関するまとめと次年度の方向性について ・研究の全体像における次年度の方向性 ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組
令和 2 年度		
第 1 回	7 月 30 日 (木)	1 「実践研究計画について（昨年度の取組と今後の方向性）」 ・実践研究の全体像 ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組 ・普及・啓発についての報告（生涯学習課の取組） ・次年度以降の展望（意見交換）
第 2 回	10 月 8 日 (木)	1 実践研究について ・連携体制の取組 ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組 2 実践事例について ・我孫子市湖北地区公民館の取組
第 3 回	12 月 17 日 (木)	1 実践研究について ・まとめ冊子・リーフレット案 ・特別支援学校、さわやかちば県民プラザにおける取組のまとめと実施状況
第 4 回	2 月 18 日 (木)	1 次年度の取組について ・さわやかちば県民プラザ・生涯学習課より ・特別支援学校より 2 成果と課題、共生社会について ・コンソーシアム委員アンケートより

「障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム」委員名簿

委員氏名 (敬称略・順不同)	所属等	任 期
浅岡 裕	市川市幸公民館 館長	平成 30 年度
上條 秀元	宮崎大学 名誉教授	平成 30 年度～令和 2 年度
佐川 桂子	千葉県特別支援学校校長会 会長 (H30) 千葉県立君津特別支援学校 校長 (R 元)	平成 30 年度～令和元年度
鈴木 一郎	千葉県社会福祉協議会 常務理事	平成 30 年度～令和元年度
田上 昌宏	千葉県手をつなぐ育成会 会長	平成 30 年度～令和元年度
中澤 尊史	株式会社舞浜コーポレーション 代表取締役社長	平成 30 年度～令和 2 年度
萩原 稔之	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課 課長	平成 30 年度～令和元年度
藤尾 健二	千葉障害者就業支援キャリアセンター センター長	平成 30 年度～令和 2 年度
堀子 榮	千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 課長 (H30) 千葉県立特別支援学校流山高等学園 校長 (R2)	平成 30 年度、令和 2 年度
向野 光	川村学園女子大学 教授	平成 30 年度～令和 2 年度
横山 紀武	千葉県障がい者スポーツ協会 会長	平成 30 年度～令和元年度
酒井 昌史	千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 課長	令和元年度
三浦 正志	浦安市堀江公民館 館長	令和元年度
青木 隆一	千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 課長	令和 2 年度
秋元 佑太	明治安田ビジネスプラス株式会社	令和 2 年度
米山 和喜	千葉県社会福祉協議会 常務理事	令和 2 年度
岩野 明子	千葉県手をつなぐ育成会 副会長	令和 2 年度
小川 康博	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課 課長	令和 2 年度
鶴岡 勝夫	いすみ市大原公民館 館長 (千葉県公民館連絡協議会 副会長)	令和 2 年度
森田 哲朗	千葉アール・ブリュットセンターうみのもりセンター長	令和 2 年度

3 学習プログラム開発 1

特別支援学校の取組

学習プログラム開発 1

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園の取組 ～生涯学習支援「市川大野モデル」～



1 本校の概要

本校は知的障害のある生徒を対象とした専門学科を置く高等部単独の特別支援学校として平成24年に開校した。専門学科として、園芸技術科、工業技術科、生活デザイン科、流通サービス科の4つの学科があり、各学科24名、1学年96名の定員となっている。

社会的・職業的自立を図ることを目的として「本物の働く力」「確かな生きる力」「豊かな学校生活」「地域とともに」をキーワードに、働く生活に必要な基礎・基本を育み、豊かな生活を送れる人材の育成を図っている。

これまでの卒業生は561名である。卒業生の約8割は障害者雇用で企業へ就職、約2割は障害福祉サービスの利用や各種学校への進学をしている。障害者の生涯学習を研究するにあたり、学校卒業後の学びについて実態や必要としている支援を把握する必要があると考えた。そこで、次のとおりアンケート調査を実施し、学習プログラムを考え、生涯学習支援として「市川大野モデル」を考えることとした。

2 「学校卒業後の障害者の学びに関するアンケート」の実施

(1) 目的

学校卒業後の障害者の学びに関して、実態やニーズを把握し、生涯学習講座の学習プログラムを作成する。

(2) 対象

本校の卒業生（平成28年卒～平成30年卒）とその保護者、本校の卒業生を

雇用している企業や在校生の実習（※実習とは「産業現場等における実習」及び「市川大野版デュアル実習」を指す）を受入れている企業、本校職員の4者に実施した。

（3）調査方法

アンケート用紙（資料1）を作成し、平成30年7月～10月に実施した。卒業生と保護者にはアンケート用紙と返信用封筒を郵送し、企業には進路指導部を中心とする職員が訪問してアンケート用紙を配付した。回答は郵送、ファックス、学校へ持参してもらうなど、回答者が選択できるようにした。

（4）結果の検証

ア 回答率は表1のとおり

表1 アンケートの配布件数と回答数

対象	回答数／配布件数	回答率
卒業生	75／288	26.0%
保護者	75／288	26.0%
企業	43／110	39.0%
本校職員	74／99	74.7%

イ 考察

4者に共通した質問項目は「(ア) 学校卒業後の障害者が社会で自立して生きていく上で、難しいと感じることや必要だと感じる支援」「(イ) 知的障害者が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活を送ったりするために、卒業後に学校で講座を実施するとしたら、どのようなものがあったら良いと思うか」の2点である。4者の結果を比較したものは資料2-5参照。

(ア)「仕事に関する」支援については、4者すべてが必要を感じていることがわかる。一方で、企業が特に必要と感じている支援は「余暇や趣味に関すること」、職員が特に必要と感じている支援は「その他」となっている。企業は雇用している障害者を見ていて、長く仕事を続け、自立した生活を送るためには、家庭や職場以外に本人の居場所があることが必要だと実感しているのではないだろうか。職員の回答に「その他」が多い点について自由記述を見てみると、「自分からトラブルを訴えることが難しい」「定期的な面談・聞き取りなどが必要」といったような、相談体制、支援体制に関する記述が多くなっている。職員は、来校する卒業生の様子から、本人

が困ったときに気軽に相談できる人がいないと感じているのではないだろうか。特定の場所での支援を充実させることよりも、本人の悩みや不安を関係機関が共有し、連携する必要性を感じている可能性がある。

- (イ) 卒業生本人が受けたいと感じている講座の上位3つは「音楽鑑賞」「スポーツレク」「お金の管理」となっており、リフレッシュや楽しむことに関してニーズが高い。一方で、保護者は「お金の管理」「暮らしに役立つ講座」「グループホーム」といった、暮らしに関する講座にニーズが集まっている。企業と職員は「職場での人間関係」「気持ちのコントロール」「お金の管理」といった、職場で円滑に働くための学びにニーズが集まっている。卒業生本人とその他3者にはニーズの違いがあることが分かる。

これは、調査対象となっている卒業生が卒業後1年～3年といった比較的若い世代であることが影響しているのではないかと考えた。各世代のアンケート調査を実施していないためあくまで予想であるが、30代、40代と年齢が上がるにつれて家庭環境や体調が変化し、「暮らし」や「グループホーム」といった講座にニーズが集めまることが予想される。今回の調査対象となった卒業生は18歳～21歳であり、暮らすことに対する興味関心よりも余暇を楽しみたいという気持ちが強く表れたのではないだろうか。

本人向けの講座を実施していく上で、本人が参加したいと思うものをベースとして、周囲が必要と感じている講座をタイアップさせて実施していくことが効果的な学びの方法ではないかと考えた。4者のニーズをバランス良く実施していくために作成したのが、次の学習プログラムである。

ウ 学習プログラム

アンケートで明らかになったニーズを分類したものが表2の学習プログラムである。保護者や企業、職員からニーズがあった「ライフプラン」「社会生活」にあたるプログラムを「学ぶ」プロジェクト、本人からのニーズが高かった「リフレッシュ」「豊かな人生」にあたるプログラムを「楽しむ」プロジェクトとして実施することとした。また、職員の回答に多く見られた支援体制については、「つながる」プロジェクトとして実施する。

表2 学習プログラム

「学ぶ」	ライフプラン	金銭管理の方法や、障害基礎年金の申請方法など、自分では難しいと思うことについて学習し、これからの人生のライフプランを考える。
	社会生活	社会人としての基本的なマナーや自立した生活に必要なこと、人間関係をより良くするためのコミュニケーションに関すること。
「楽しむ」	リフレッシュ	日頃の運動不足を解消し、仲間と交流することでリフレッシュを図り、心身ともに健康を維持する。
	豊かな人生	余暇の充実や、自分自身のスキルアップについて、豊かな感性を育てたり、興味関心のあることを広げたり深めたりする。
「つながる」		職場で安定して働いたり、自立して生活していったりできるよう、家庭や職場以外の居場所を作るための相談支援や情報提供を行う。

コラム：ナチュラルオオノ

本校が大切にしている4つのキーワードのひとつに「地域とともに」があります。コラムのコーナーでは、キーワードに迫る5つの取組を紹介します。

地域に開かれた活動としてコース製品の販売活動や「ナチュラルオオノ」というカフェの営業があり、地域から多くの方に利用していただいています。

「ナチュラルオオノ」では校内で製造した焼きたてのパンや焼き菓子を販売しています。購入したパンや焼き菓子をお召し上がりいただくための喫茶スペースもあり、どなたでも利用いただけます。

本校の生涯学習支援の取組は、日頃からかわりのある、地域の方々が支えてくれています。



3 「学ぶ」プロジェクト

(1) 講座の企画

「学ぶ」プロジェクトは、3年間で2回の生涯学習講座を実施した。令和元年度に実施した「支援を受けながら暮らすとは」の講座では、卒業生だけでなく保護者の参加も見られた。令和2年度に実施した「障害年金って何？」の講座は、「NPO法人みんなでサポートちば」に資料を提供していただき、本校職員が動画を作成した。実施日や内容については表4、表5のとおり。参加者アンケートの結果は資料4-3、4-6を参照。

(2) 事前の準備

- ア チラシの作成（資料3-3、3-6参照）
- イ 講座に参加される方を対象とした保険の加入

4 「楽しむ」プロジェクト

(1) 講座の企画

「楽しむ」プロジェクトは3年間で8回の生涯学習講座を実施した。そのうち「リンパコンディショニング」の講座は3回、「グラウンドゴルフ」の講座は2回実施した。令和元年度の第2回生涯学習講座で実施した「グラウンドゴルフ」には、県立市川特別支援学校など、本校以外の卒業生の参加も見られた。その他「いきいきテニス」「紅茶の世界」「パラスポーツ」の講座を実施した。実施日や内容については表3～5、参加者アンケートの結果は資料4-1～4-5のとおり。

(2) 事前の準備

- ア チラシの作成（資料3参照）
- イ 講座に参加される方を対象とした保険の加入
- ウ 道具の準備

(3) 学校支援サポーター

生涯学習講座の講師や当日の運営の人材を確保するため、学校支援サポーターの運用を始めた。サポーターには生涯学習講座だけでなく、在校生の学習活動や部活動の指導支援に協力をいただいた。令和元年度は4名、令和2年度は1名が登録している。

表3 平成30年度に実施した生涯学習講座

講座名	① リンパdeデトックス（「楽しむ」プロジェクト） ② いきいきテニス（「楽しむ」プロジェクト） ③ 紅茶の世界（「楽しむ」プロジェクト） ④ グラウンドゴルフ（「楽しむ」プロジェクト）
実施日	平成30年10月6日（土）
講師	① リンパトレーナー 五関 雅子 先生 ② 市川市テニス協会 西村 宗一郎 先生 ③ 市川市役所 ボランティアNPO課 紹介 ④ 大野町4丁目自治会 緑風会の皆様
内容	① 全身のリンパの流れを良くするリンパコンディショニング ② 初任者でも気軽にできるテニスレッスン ③ 紅茶の歴史やおいしい入れ方について、試飲を通して学ぶ ④ 9ホール2セットのゲームを実践
参加人数	① 4名 ② 14名 ③ 14名 ④ 13名

コラム：市川市柏井公民館

学校から歩いて15分ほどのところに、市川市柏井公民館があります。生涯学習講座を開催するにあたり、リンパコンディショニングの講師を御紹介いただきました。リンパコンディショニングの講座は、毎年実施する人気の講座になっています。

柏井公民館では、平成27年度から本校の生徒が講師となって「陶芸教室」を行ってきました。令和元年度は本校を会場に「草木染め教室」を行いました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、毎年多くの地域の方々が申込みをしてくださる人気の講座になっています。

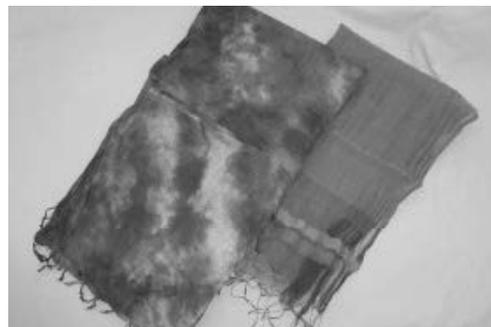


表4 令和元年度に実施した生涯学習講座

講座名	① 疲れをとるリンパコンディショニング（「楽しむ」プロジェクト） ② 支援を受けながら暮らすとは（「学ぶ」プロジェクト） ③ グラウンドゴルフ（「楽しむ」プロジェクト） ④ パラスポーツ（「楽しむ」プロジェクト）
実施日	① 令和元年6月29日（土） ② 令和元年9月21日（土） ③ 令和元年9月21日（土） ④ 令和元年11月24日（日）
講師	① リンパトレーナー 五関 雅子 先生 ② 社会福祉法人市川レンコンの会 市川圏域グループホーム等支援ワーカー ③ 大野町4丁目自治会 緑風会の皆様 ④ 順天堂大学特別支援教育研究室
内容	① 全身のリンパの流れを良くするリンパコンディショニング ② 一人暮らしやグループホームなど、暮らし方や支援機関との関わり方についての講演 ③ 9ホール2セットのゲームを実践 ④ ゴールボール、シッティングバレーの概要を学び、基本的な動きの練習を実践
参加人数	① 16名 ② 28名 ③ 37名 ④ 19名



図1 グラウンドゴルフの様子



図2 リンパコンディショニングの様子

表5 令和2年度に実施した生涯学習講座

講座名	① 自宅でできるセルフケア（「楽しむ」プロジェクト） ② 障害年金って何？（「学ぶ」プロジェクト）
掲載期間	① 令和2年7月10日（金）～令和3年2月26日（金） ② 令和2年10月7日（水）～令和3年2月26日（金）
講師	① リンパトレーナー 五関 雅子 先生 ② NPO法人 みんなでサポートちば
内容	① 自宅でできるリンパコンディショニングの動画を計5本配信した ② 障害基礎年金の概要や受給までの手続きなど、具体的な事例を通して解説した動画を計3本配信した
視聴者数	① 250views（令和2年11月9日現在） ② 223views（令和2年11月9日現在）

コラム：大野町4丁目自治会

平成30年度の第1回生涯学習講座、令和元年度の第2回生涯学習講座でグラウンドゴルフの講師を務めていただいた大野町4丁目自治会のみなさん。

大野町4丁目自治会のみなさんには、開校当初から毎年、本校の1年生を対象に「人生の先輩に学ぶ」という授業のゲストティーチャーを務めていただき、自治会長には農業コースの指導もお願いしています。

グラウンドゴルフの講座でもたくさんの方が講師として参加していただき、卒業生がゲームを楽しめるよう温かくサポートしていただきました。地域の方々と一緒にたくさん関わることができるグラウンドゴルフは、毎年実施していきたい講座のひとつです。



5 「つながる」プロジェクト

(1) 学校ホームページ

学校ホームページに「生涯学習」のページを開設し、生涯学習講座のチラシや申込用紙を掲載した。令和2年度は動画を掲載し、生涯学習講座の動画配信を行った。受講者のアンケートは、ウェブアンケートシステムを利用し、ホームページ上で実施した。

本校ホームページ <https://cms2.chiba-c.ed.jp/ichikawaono-sh/>



図3 本校ホームページの「生涯学習」ページ

(2) LINE公式アカウント

卒業生向けに生涯学習講座の情報提供をするため、LINE公式アカウントを開設した。このアカウントでチラシの配信、講座の申込受付を行った。

本校で開設したアカウントは料金のかからないフリープランのため、1ヶ月に送信できるメッセージ数に制限があった。そのため、1～3期生、4～5期生、6期生と3つのアカウントに分けることで送信数を確保した。

今後は卒業後3年間に限りアカウントを作成し、情報提供をしたいと考えている。

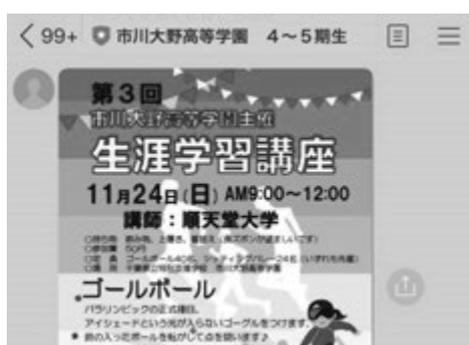


図4 LINE公式アカウントで配信された講座案内のチラシ

(3) 卒業生のホッとルーム

卒業生の個々のニーズや相談に応じるため、ビデオ会議システムを利用した相談支援を行った。来校相談とウェブ相談のいずれかを選択して相談できる体制を作り、遠方で来校することが難しい卒業生や新型コロナウイルス感染症の影響で来校できない卒業生の相談に活用していきたい。

6 コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）として

平成30年度は「広域同窓会連絡協議会」、令和元年度は「生涯学習支援連絡協議会」という名称で、生涯学習支援について広く意見交換をする機会を設定してきた。令和2年度は「開かれた学校づくり委員会」の中で、障害者就業・生活支援センターやパートナーシップ企業、近隣公民館や自治会などの地域の方々、同窓会や親の会の当事者の方々から広く意見を聞くことができた。

今後は、令和3年から設置される学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の中に生涯学習部会を設置し、生涯学習支援の企画や運営について議論する場を確保していきたい。

コラム：パートナーシップ企業

本校の特色の一つに「市川大野高等学園版デュアルシステム」というものがあります。

デュアルシステムを実践していくためにかかせないのがパートナーシップ企業です。生徒の目標や課題を共有し、実習を受け入れてくれています。

開かれた学校づくり委員会等では、卒業生から見えてくる障害者雇用の現状や社員に実施している研修など、生涯学習支援の取組に生かせるヒントをたくさんいただいています。

※「市川大野高等学園版デュアルシステム」

卒業後の社会的・職業的自立に向けて、地域の企業に協力をいただき「学校における授業」と「企業における実習（産業現場等における実習とデュアル実習）」を組み合わせたキャリア教育を実践しています。産業現場等における実習は2週間、従業員と共に働く実習、デュアル実習は年間を通して教師と共に働く実習です。

7 まとめ ～持続可能な取組を目指して～

生涯学習支援の実践研究をすすめる中で、多くの地域資源に気付き、生徒のため、学校のために力を注いでくれる方々とのつながりを築くことができた。生涯学習講座をきっかけに築くことができた地域とのつながりを、生涯学習講座や在校生の学習活動に生かすこと、持続可能な取組を目指すことが今後のテーマである。

持続可能な取組にするためには「誰が運営するか」「何を提供するか」「運営資金はどうするか」という3つのキーワードについて、あらゆる方策を模索してきた。学校運営協議会や学校支援サポーターの力を借りることで、持続可能な取組「生涯学習支援～市川大野モデル～」を実践していきたい。

(1) 誰が運営するか

本校では生涯学習の担当を校務分掌に位置づけ、生涯学習講座のチラシ作成や、申込みの受付、保険の加入等の手続きを行っている。生涯学習講座の講師はあくまでも地域の人材を活用し、教職員が講師を務めることがないようにしている。

当日の運営については学校支援サポーターを活用することで、教職員は参加者として卒業生や在校生と一緒に講座を楽しめるような環境作りを意識している。

(2) 何を提供するか

学校運営協議会には卒業生本人や保護者、本校の卒業生を雇用している企業の方や卒業後の支援を行っている障害者就業・生活支援センターの方が参加している。

当事者や当事者と関わる方々からの意見をもとに講座を企画していくことで、ニーズに合った講座を企画することができると考えている。また、自治会や公民館など地域の方からは、講座の講師など地域の資源を紹介してもらうことができる。

(3) 運営資金はどうするか

運営にかかる主な費用は、講座のチラシを発送するための郵送料、講師への謝礼である。講座の案内はSNSやホームページを利用することで、費用のかからない方法で行う。講師への謝礼は参加者から徴収する方法で行ってきたい。

8 添付資料

資料1 アンケート用紙

資料2 アンケート集計結果

資料3 生涯学習講座 チラシ（平成30年度～令和2年度実施）

資料4 生涯学習講座 参加者アンケート（平成30年度～令和2年度実施）

資料5 リーフレット「生涯学習支援 市川大野モデル」

コラム：学校支援サポーター

職員の働き方改革の一環で、令和元年度から学校支援サポーターの運用を始めました。

大学生や地域の方が登録し、生徒の学習支援や部活動指導に携わっていただいています。生徒にとっては大学生と話すことができたり、部活動で専門的な指導を受けることができたりと貴重な機会となっています。令和2年度は新規の募集を停止していますが、今後、生涯学習講座の運営でも効果的な活用を図っていきます。



千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 【学校卒業後の障害者の学びに関するアンケート】
お忙しい中大変恐縮ですが、調査のご協力をお願いします。

【何期生ですか】	【記入者の氏名】
----------	----------

1 いまの「仕事」「余暇・趣味」「家庭生活・地域生活」に満足していますか。

「仕事」	①満足	②やや満足	③あまり満足していない	④全く満足していない
「余暇・趣味」	①満足	②やや満足	③あまり満足していない	④全く満足していない
「家庭生活・地域生活」	①満足	②やや満足	③あまり満足していない	④全く満足していない

2 学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあったら参加したいですか。
下から5つ選んでください。

○記入欄	学習プログラム	○記入欄	学習プログラム	○記入欄	学習プログラム
	スポーツレク		職場での人間関係		暮らしに役立つ講座
	ストレス解消法		気持ちのコントロール		結婚生活
	音楽鑑賞		障害年金講座		一人暮らし
	ダンス講座		各種保険について		グループホーム
	ストレッチ講座		いろいろな契約		お金の管理
	海外旅行講座		アルコールの付き合い		検定・資格
	農業体験		健康講座		SNS 研修
	文化体験		防災・防犯講座		悩み相談
	英会話		障害者手帳の更新		その他 ()

3 学校を卒業した後、困っていることや支援してほしいことはどんなことですか。

- 4 学校を卒業した後、困っていることや支援してほしいことがあったとき、どんなところに相談しますか。あてはまるものに○をつけてください。

○記入欄	相談するところ
	家庭・保護者
	在籍していた学校
	独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構（例：千葉障害者職業センター）
	公共職業安定所（ハローワーク）
	障害者就業・生活支援センター
	市町村の就労支援センター
	基幹相談支援センター
	中核地域支援センター
	会社の人事担当など
	その他（ ）

- 5 長く働くために必要な力はどんなことだと思いますか。

○記入欄	必要だと思う力	○記入欄	必要だと思う力
	食事栄養管理		感情のコントロール
	体調管理		一定時間仕事に耐える体力
	服薬管理		規則の遵守
	移動能力		身だしなみ
	余暇の過ごし方		報告・連絡・相談
	金銭管理		あいさつ・返事
	基本的な生活リズム		職務遂行に必要な知識・技能
	苦手な人へのあいさつ		職務への適性
	注意されたときの謝罪		その他（ ）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 【学校卒業後の障害者の学びに関するアンケート】
お忙しい中大変恐縮ですが、調査のご協力をお願いします。

【記入者の氏名】(任意)

- 1 知的障害のある方の職場定着についてお聞きします。
知的障害のある方が長く働くことに難しさを感じますか。

①強く感じる ②やや感じる ③あまり感じない ④全く感じない

- 2 知的障害のある方が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活していきたりするために、どのような力が必要だと思いますか。下から5つ選んでください。

○記入欄	必要だと思う力	○記入欄	必要だと思う力
	食事栄養管理		感情のコントロール
	体調管理		一定時間仕事に耐える体力
	服薬管理		規則の遵守
	移動能力		身だしなみ
	余暇の過ごし方		報告・連絡・相談
	金銭管理		あいさつ・返事
	基本的な生活リズム		職務遂行に必要な知識・技能
	苦手な人へのあいさつ		職務への適性
	注意されたときの謝罪		その他 ()

- 3 知的障害のある方が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活していきたりするために、学校で学習プログラムを実施するとしたら、どのようなものがあったら良いと思いますか。下から5つ選んでください。

○記入欄	学習プログラム	○記入欄	学習プログラム	○記入欄	学習プログラム
	スポーツレク		職場での人間関係		暮らしに役立つ講座
	ストレス解消法		気持ちのコントロール		結婚生活
	音楽鑑賞		障害年金講座		一人暮らし
	ダンス講座		各種保険について		グループホーム
	ストレッチ講座		いろいろな契約		お金の管理
	海外旅行講座		アルコールの付き合い		検定・資格
	農業体験		健康講座		相談支援センター
	文化体験		防災講座		悩み相談
	英会話		手帳の更新		その他 ()

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 【学校卒業後の障害者の学びに関するアンケート】
お忙しい中大変恐縮ですが、調査のご協力をお願いします。

【企業名】	【記入者の役職など】
-------	------------

1 知的障害者の職場定着についてお聞きします。知的障害者が長く働くことに難しさを感じますか。

- ①強く感じる ②やや感じる ③あまり感じない ④全く感じない

2 知的障害者が職場で安定して働いたり、社会で自立した生活を送ったりするために、卒業後に学校で講座を実施するとしたら、どのようなものがあったら良いと思いますか。下から5つ選んでください。

○記入欄	学習プログラム	○記入欄	学習プログラム	○記入欄	学習プログラム
	スポーツレク		職場での人間関係		暮らしに役立つ講座
	ストレス解消法		気持ちのコントロール		結婚生活
	音楽鑑賞		障害年金講座		一人暮らし
	ダンス講座		各種保険について		グループホーム
	ストレッチ講座		いろいろな契約		お金の管理
	海外旅行講座		アルコールの付き合い		検定・資格
	農業体験		健康講座		SNS 研修
	文化体験		防災・防犯講座		悩み相談
	英会話		障害者手帳の更新		その他 ()

3 学校卒業後の障害者が社会で自立して生きていく上で、難しいと感じることや必要だと感じる支援はどんなことですか。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 【学校卒業後の障害者の学びに関するアンケート】
お忙しい中大変恐縮ですが、調査のご協力をお願いします。

【記入者氏名】(任意)

1 知的障害者の職場定着についてお聞きします。知的障害者が長く働くことに難しさを感じますか。

- ①強く感じる ②やや感じる ③あまり感じない ④全く感じない

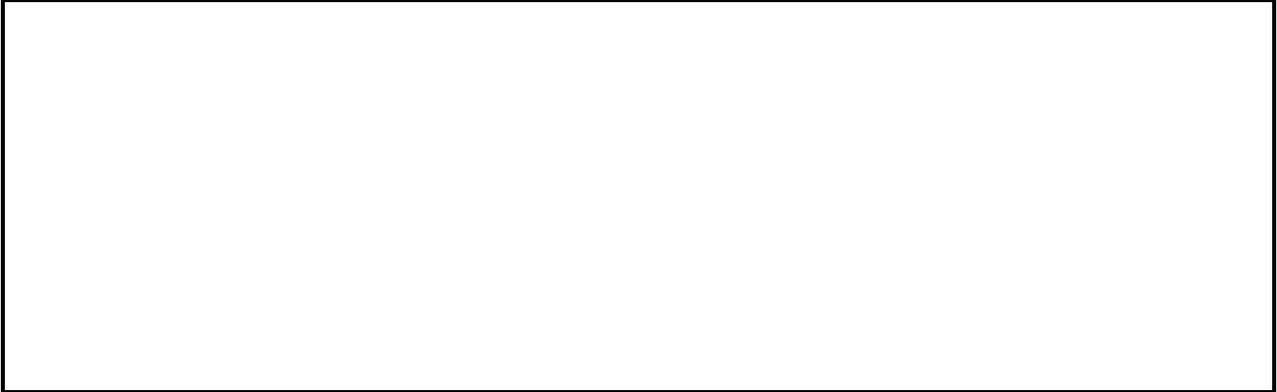
2 知的障害者が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活していきたりするために、どのような力が必要だと思いますか。下から5つ選んでください。

○記入欄	必要だと思う力	○記入欄	必要だと思う力
	食事栄養管理		感情のコントロール
	体調管理		一定時間仕事に耐える体力
	服薬管理		規則の遵守
	移動能力		身だしなみ
	余暇の過ごし方		報告・連絡・相談
	金銭管理		あいさつ・返事
	基本的な生活リズム		職務遂行に必要な知識・技能
	苦手な人へのあいさつ		職務への適性
	注意されたときの謝罪		その他 ()

3 知的障害者が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活していきたりするために、学校で学習プログラムを実施するとしたら、どのようなものがあったら良いと思いますか。下から5つ選んでください。

○記入欄	学習プログラム	○記入欄	学習プログラム	○記入欄	学習プログラム
	スポーツレク		職場での人間関係		暮らしに役立つ講座
	ストレス解消法		気持ちのコントロール		結婚生活
	音楽鑑賞		障害年金講座		一人暮らし
	ダンス講座		各種保険について		グループホーム
	ストレッチ講座		いろいろな契約		お金の管理
	海外旅行講座		アルコールの付き合い		検定・資格
	農業体験		健康講座		相談支援センター
	文化体験		防災講座		悩み相談
	英会話		手帳の更新		その他 ()

- 4 学校卒業後の障害者が社会で自立して生きる上で、難しいと感じることや必要だと感じる支援はどんなことですか。



アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

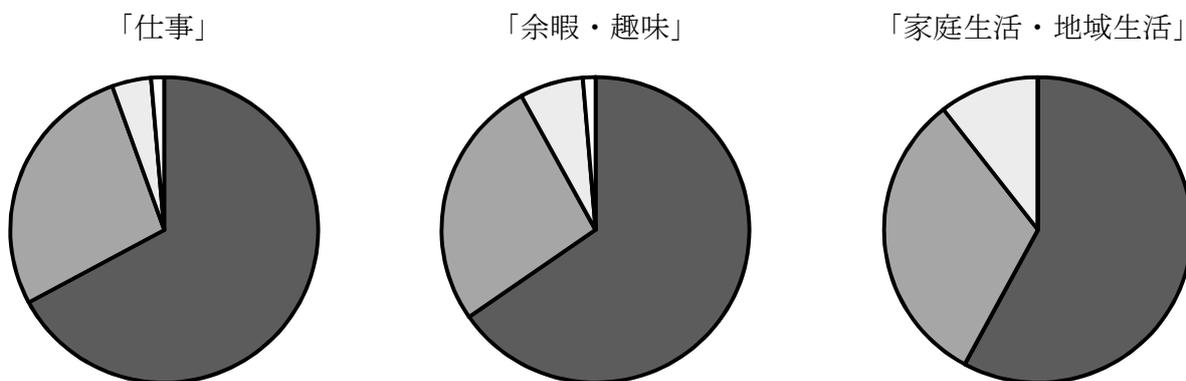
対 象 卒業生

調査方法 質問紙調査

時 期 平成30年9月

回 答 数 75 / 288 (26.0%)

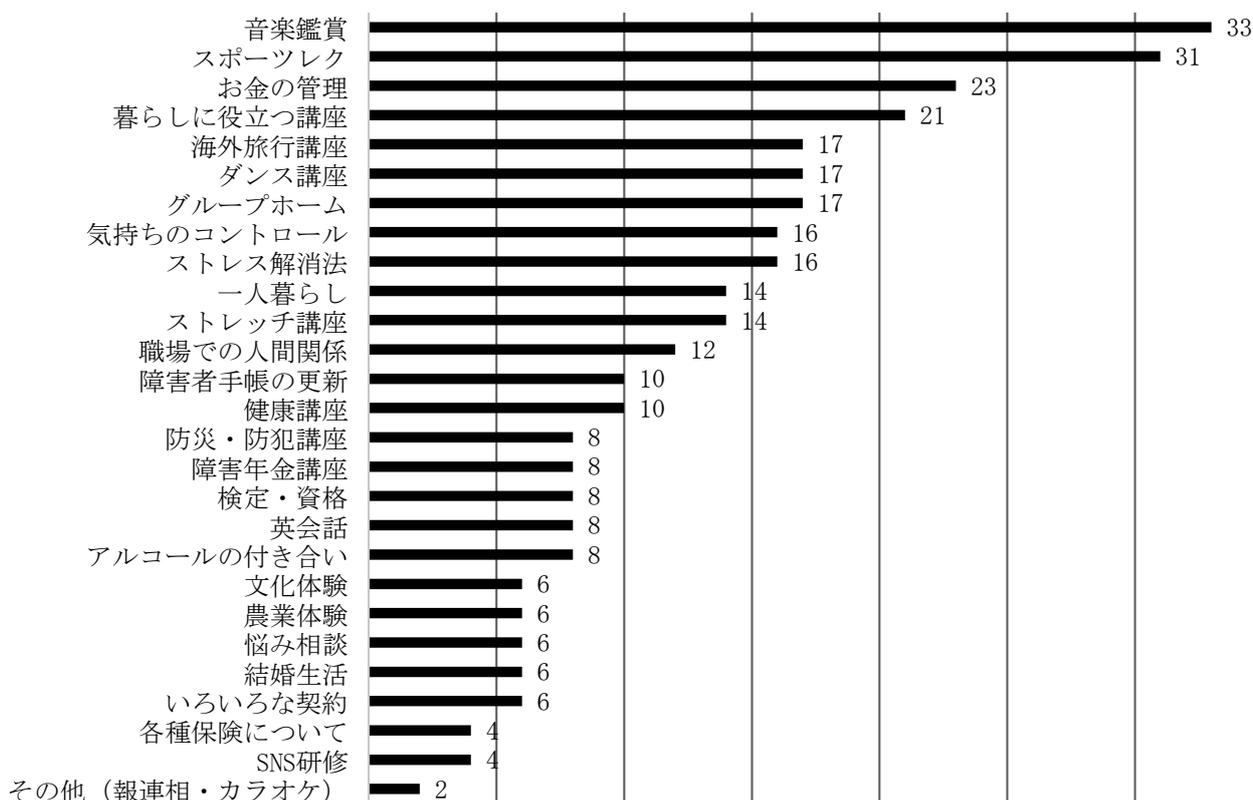
1. いまの「仕事」「余暇・趣味」「家庭生活・地域生活」に満足していますか。



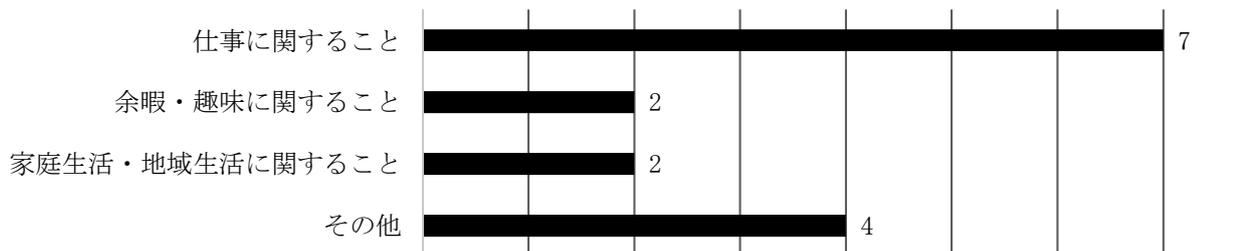
満足	67%	満足	65%	満足	58%
やや満足	28%	やや満足	27%	やや満足	32%
あまり満足していない	4%	あまり満足していない	7%	あまり満足していない	10%
全く満足していない	1%	全く満足していない	1%	全く満足していない	0%

2. 学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあつたら参加したいですか。

(複数回答：人)



3. 学校を卒業した後、困っていることや支援してほしいことはどんなことですか。



余暇・仕事に関すること

- ・仕事に必要なビジネスマナーなど学べる所が少ない所です。
健常者の方が学べる所はあるのですが障害を持っている方も学べる所が少なく困っています。
- ・仕事のことで困っています。出勤時間、日数がへらされてとても困っています。
- ・困っている事は、仕事で疲れて家族に少し当たってしまう。
SNSで悪口を書かれてすごく困ってしまう時があります。

趣味に関すること

- ・友達と予定が合わない
- ・運動をする機械が少ない。
- ・生活が単調になりがちで気分転換がしにくい。

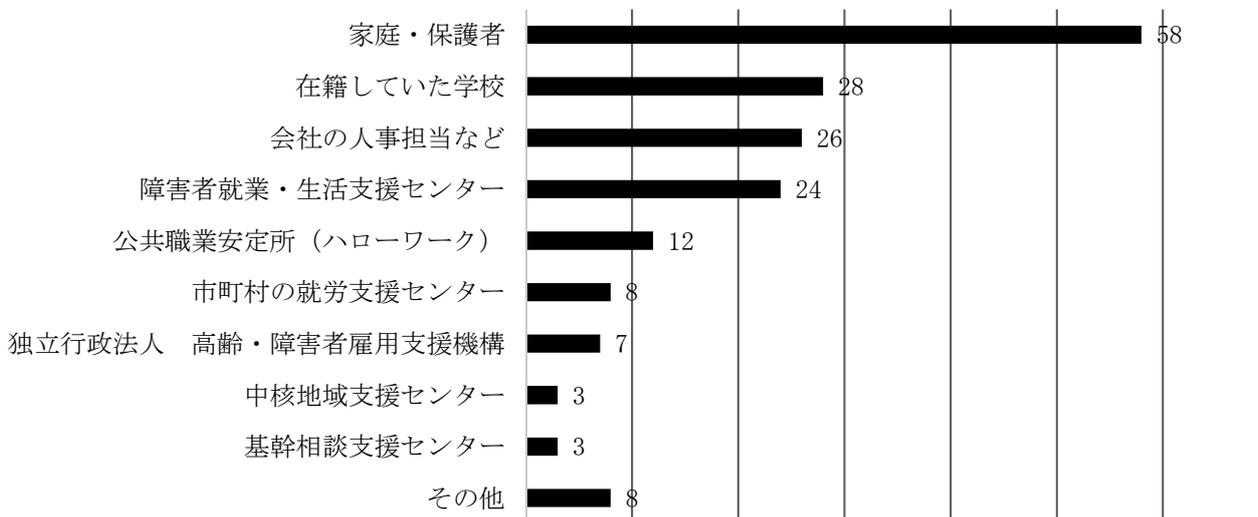
家庭生活・地域生活に関すること

- ・将来、自立できるようにするには何をすれば良いか。
そのためにはどんな生活力を身につければよいかを、伝えてほしい。
- ・お金の管理と日常生活のこと。

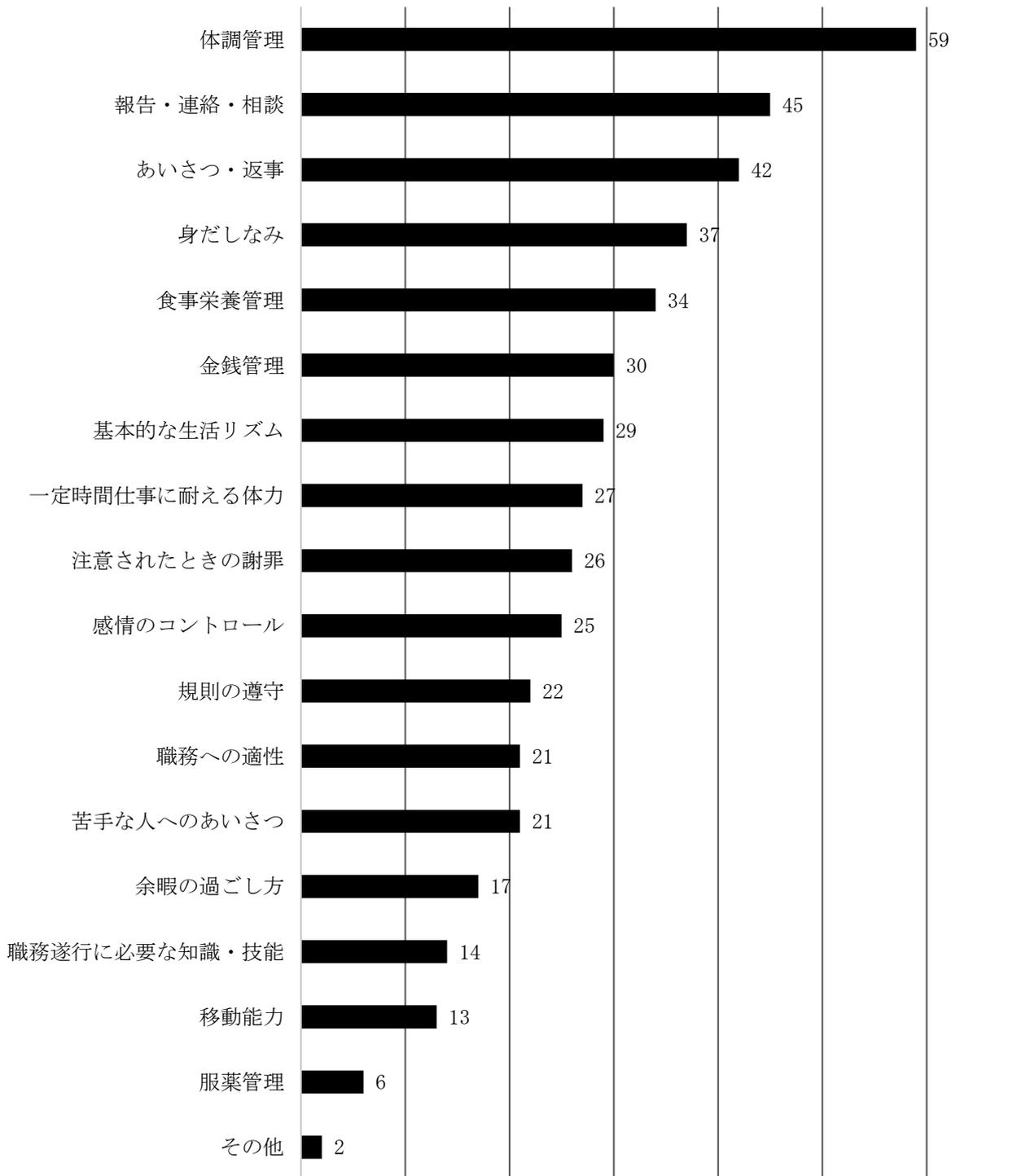
その他

- ・気軽に電話で相談できるようにしたい。
- ・卒業してから後輩先輩関係が難しい。
相手の気持ちがわからないし通常から来た人だと話が大人すぎて仲良くできない。
- ・友達との SNS トラブルの対応

4. 学校を卒業した後、困っていることや支援してほしいことがあったとき、どんなところに相談しますか。



5. 長く働くために必要な力はどんなことだと思いますか。(複数回答：人)



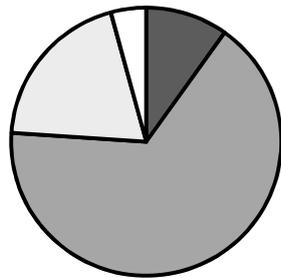
対 象 保護者

調査方法 質問紙調査

時 期 平成30年9月

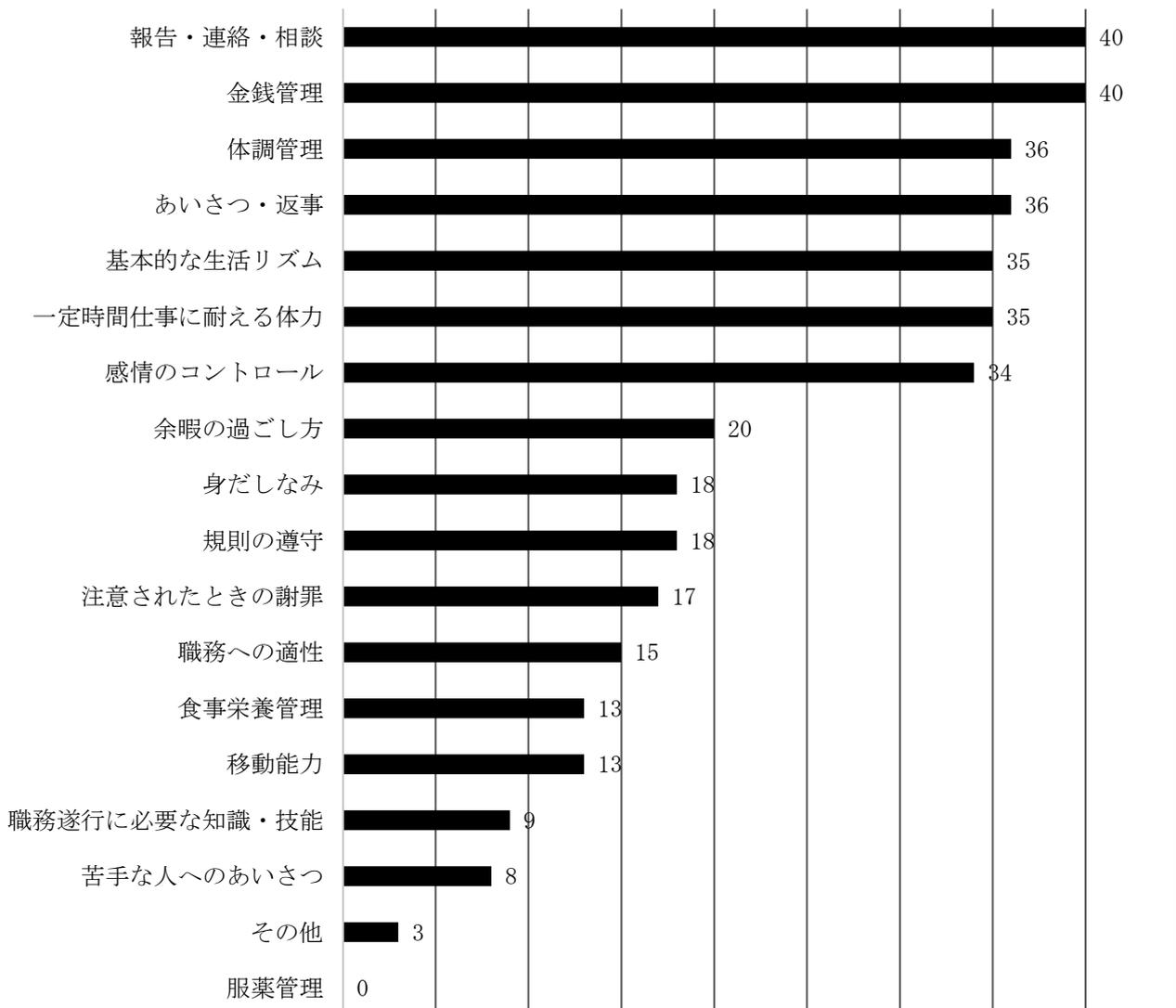
回 答 数 75 / 288 (26.0%)

1. 障害のある方が長く働くことに難しさを感じますか。

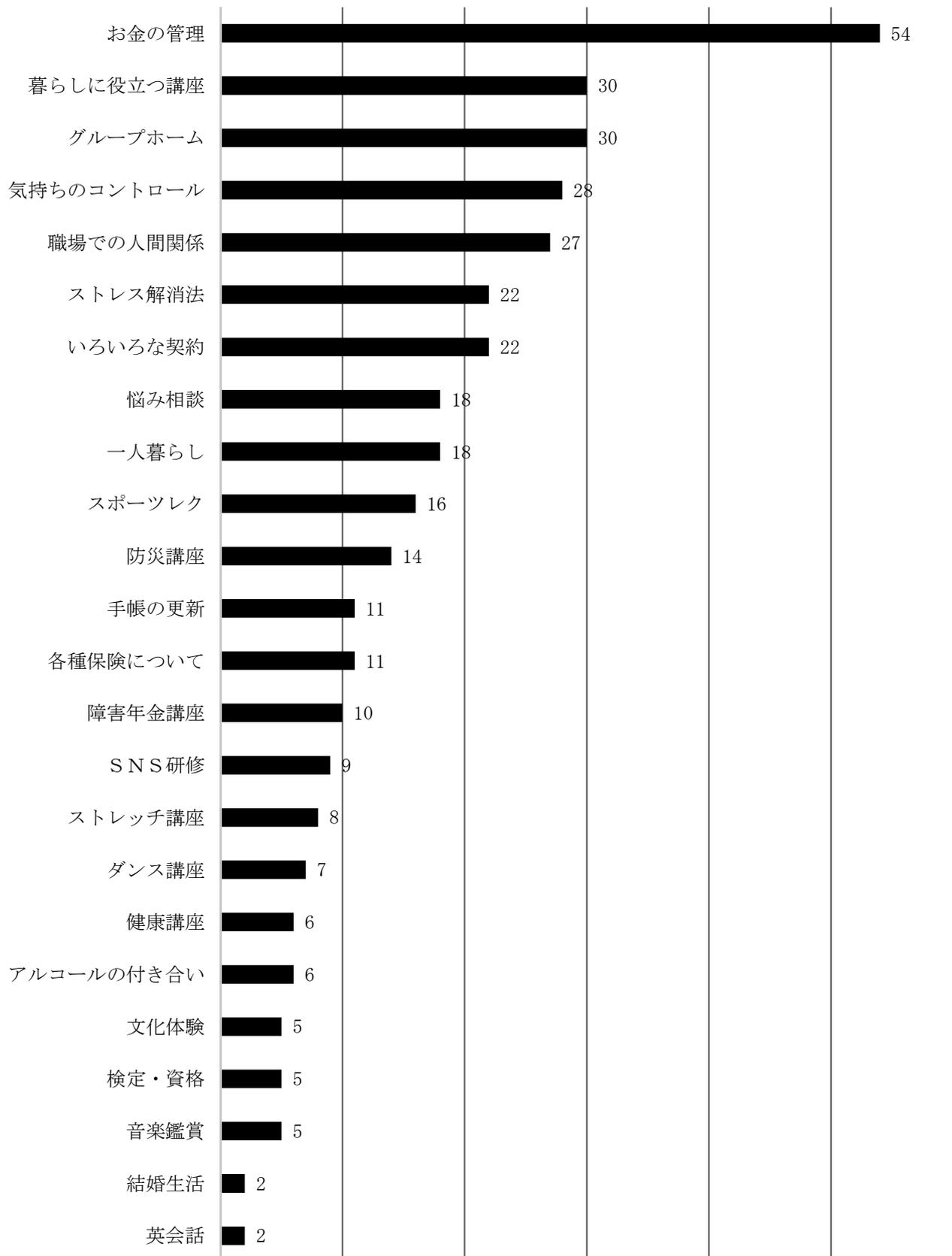


強く感じる	10%
やや感じる	66%
あまり感じない	20%
全く感じない	4%

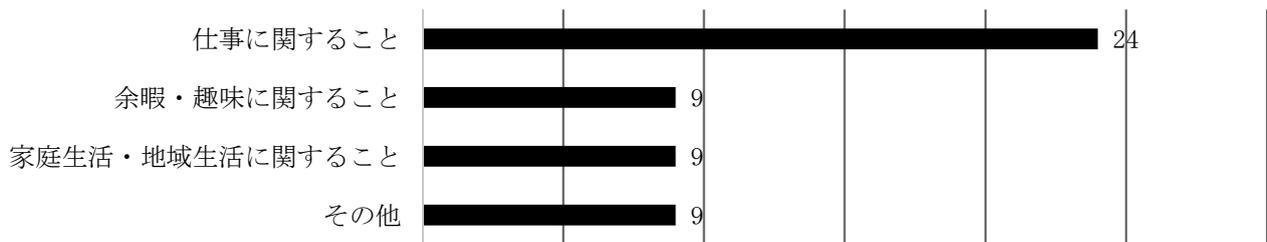
2. 障害のある方が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活していきたりするために、どのような力が必要だと思いますか。



3. 障害のある方が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活していったりするために、学校で学習プログラムを実施するとしたら、どのようなものがあったら良いと思いますか。(複数回答：人)



4. 学校を卒業した後、困っていることや支援してほしいことはどんなことですか。



仕事に関すること

- ・雇用契約の部分で、今後どのように変わっていくのが不安。それを相談できる方がいない。
- ・職場訪問や相談にのってほしい。 ・再就職が問題。 ・職場での様子が知りたい。
- ・職場での対人関係の相談をどこにしたら良いかわからない。等

余暇・趣味に関すること

- ・自分で予定を立てるのが苦手だが、イベントがあれば参加しやすい。
- ・余暇の過ごし方を検討中。 ・パソコン操作などの練習の機会をつくってほしい。
- ・休日に友人と参加できる講座をひらいてほしい。
- ・休みの日に活動できるプログラムや団体を紹介してほしい。等

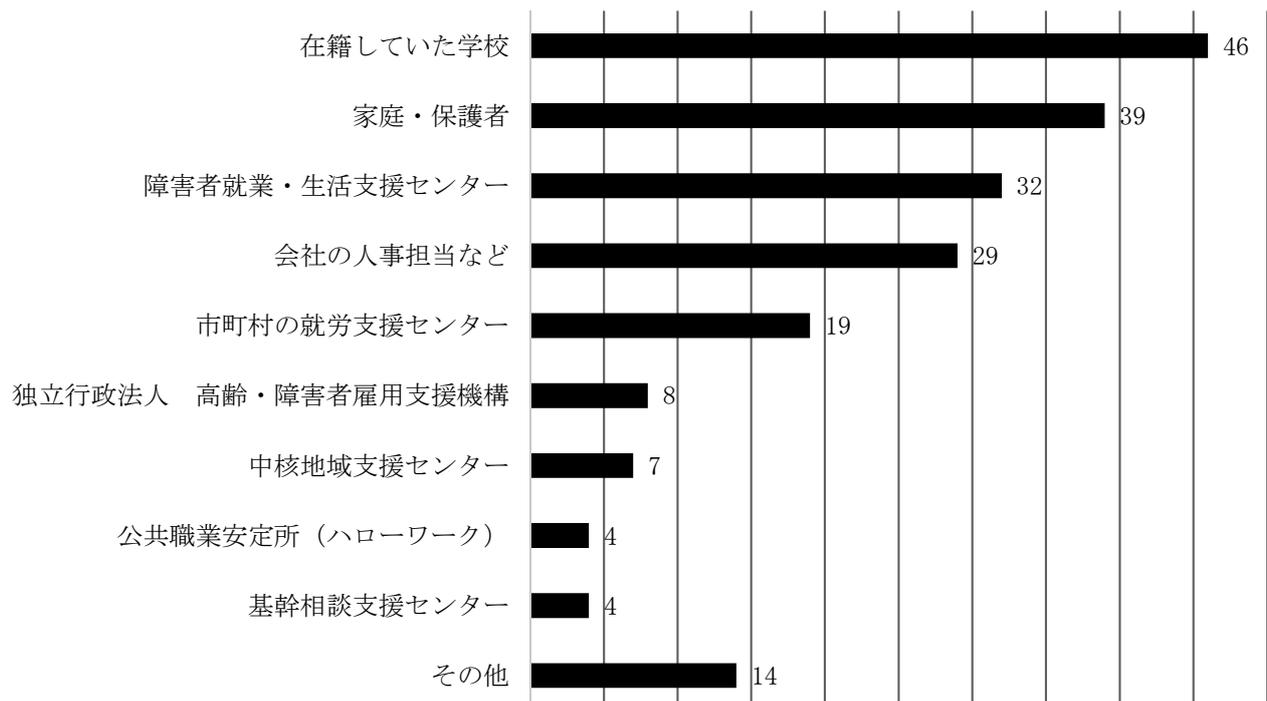
家庭生活・地域生活に関すること

- ・自立するためにグループホームやひとり暮らしをするタイミングや準備を支援してほしい。
- ・金銭管理を相談支援の人に助けてもらっている。
- ・親亡き後の生活が心配。 ・グループホームでの生活。等

その他

- ・本人が気軽に相談できる場所があると良い。 ・近況報告の機会があると良い。等

5. 学校を卒業した後、困っていることや支援してほしいことがあったとき、どんなところに相談しますか。



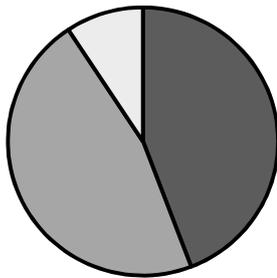
対 象 企業

調査方法 質問紙調査

時 期 平成30年8月

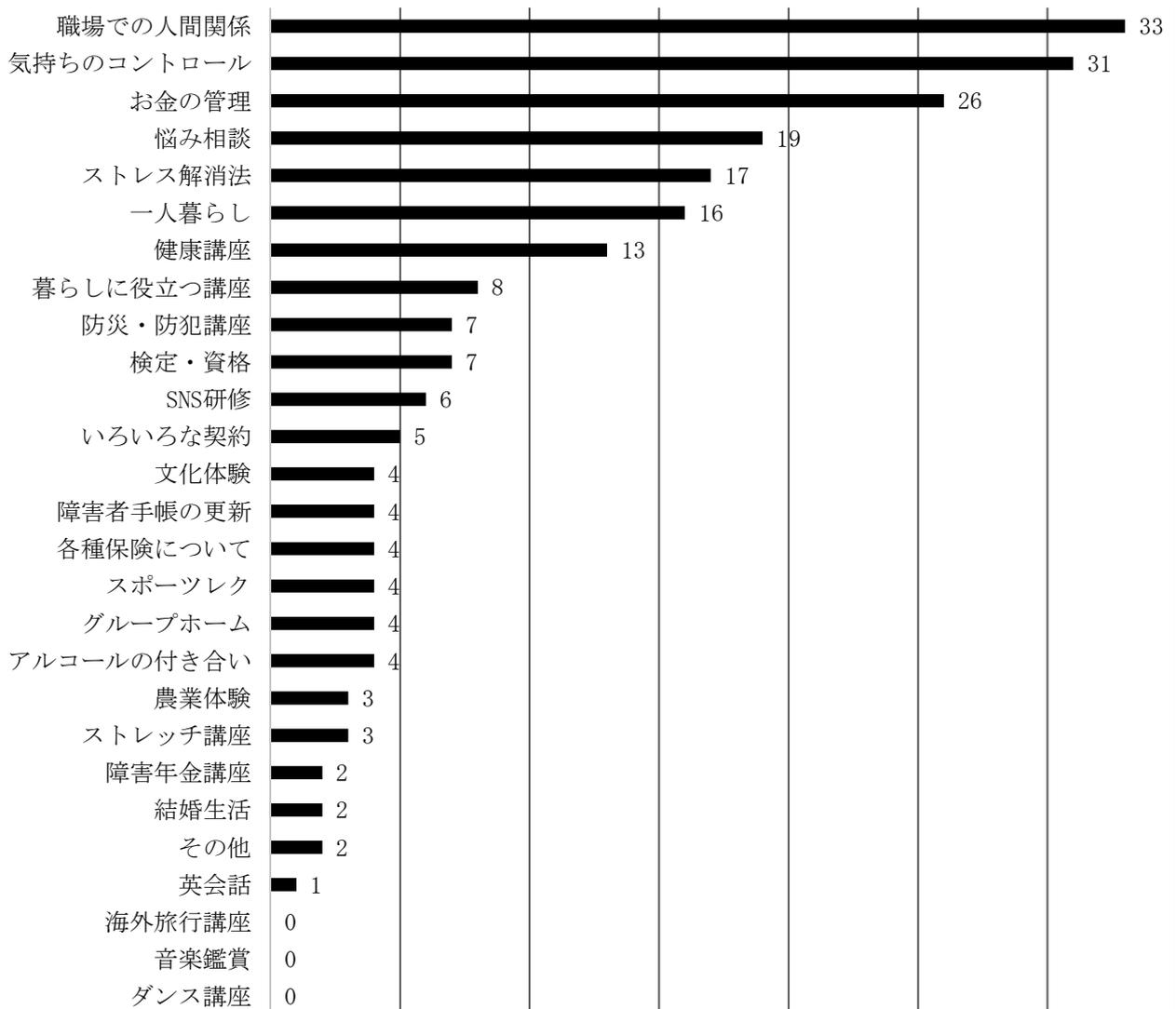
回 答 数 43 / 110 (39%)

1. 知的障害者が長く働くことに難しさを感じますか。

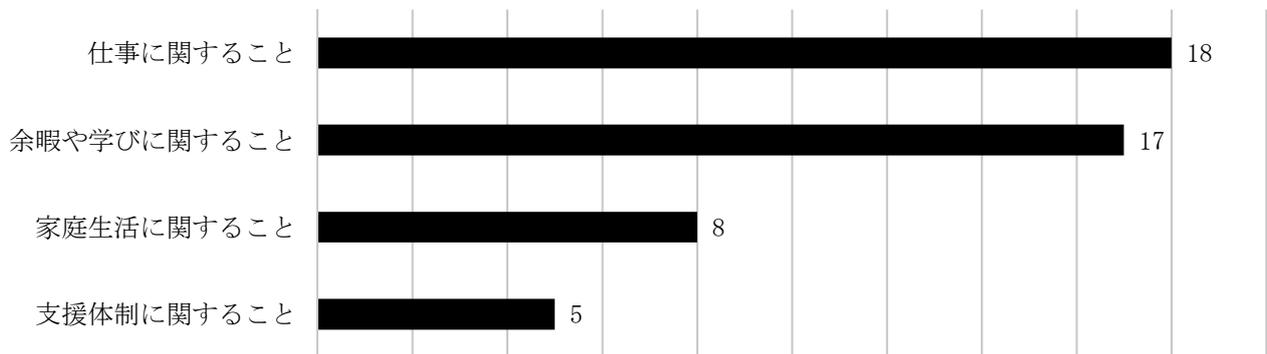


強く感じる	0%
やや感じる	66%
あまり感じない	47%
全く感じない	9%

2. 知的障害者が職場で安定して働いたり、社会で自立した生活を送ったりするために、卒業後に学校で講座を実施するとしたら、どのようなものがあったら良いと思いますか。5つ選んでください。(複数回答：社)



3. 学校卒業後の障害者が社会で自立して生きていく上で、難しいと感じることや必要だと感じる支援はどんなことですか。(自由記述)



余暇や学びに関すること

他人との付き合い方・コミュニケーション等 7

学校と社会の違い 3

ひとり暮らし 2、体調管理 2、

生活費の振り分け 2、結婚・異性関係 2、気持ちのコントロール 2、親亡き後の生活の自立 2、

卒業生で集まれるような場所 2、楽しめる場所 2

アルコール、インターネット研修、お金の引き出し方、薬、防犯、

暮らしに役立つ講座 (アクシデントの対処)、社会ルール (交通ルール)、接客研修、

中長期の将来の姿、後輩と関われる行事、心の支え、リラックスできる場所、

仕事と家庭以外の居場所、ストレス発散、プライベートに対するアドバイス、

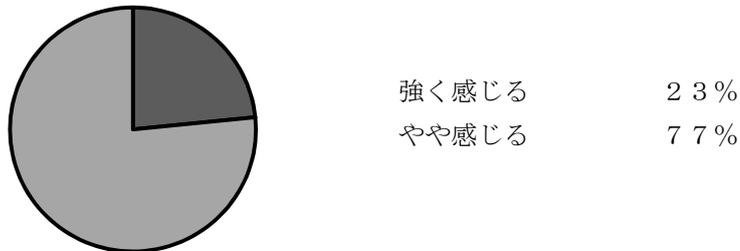
対 象 職員

調査方法 質問紙調査

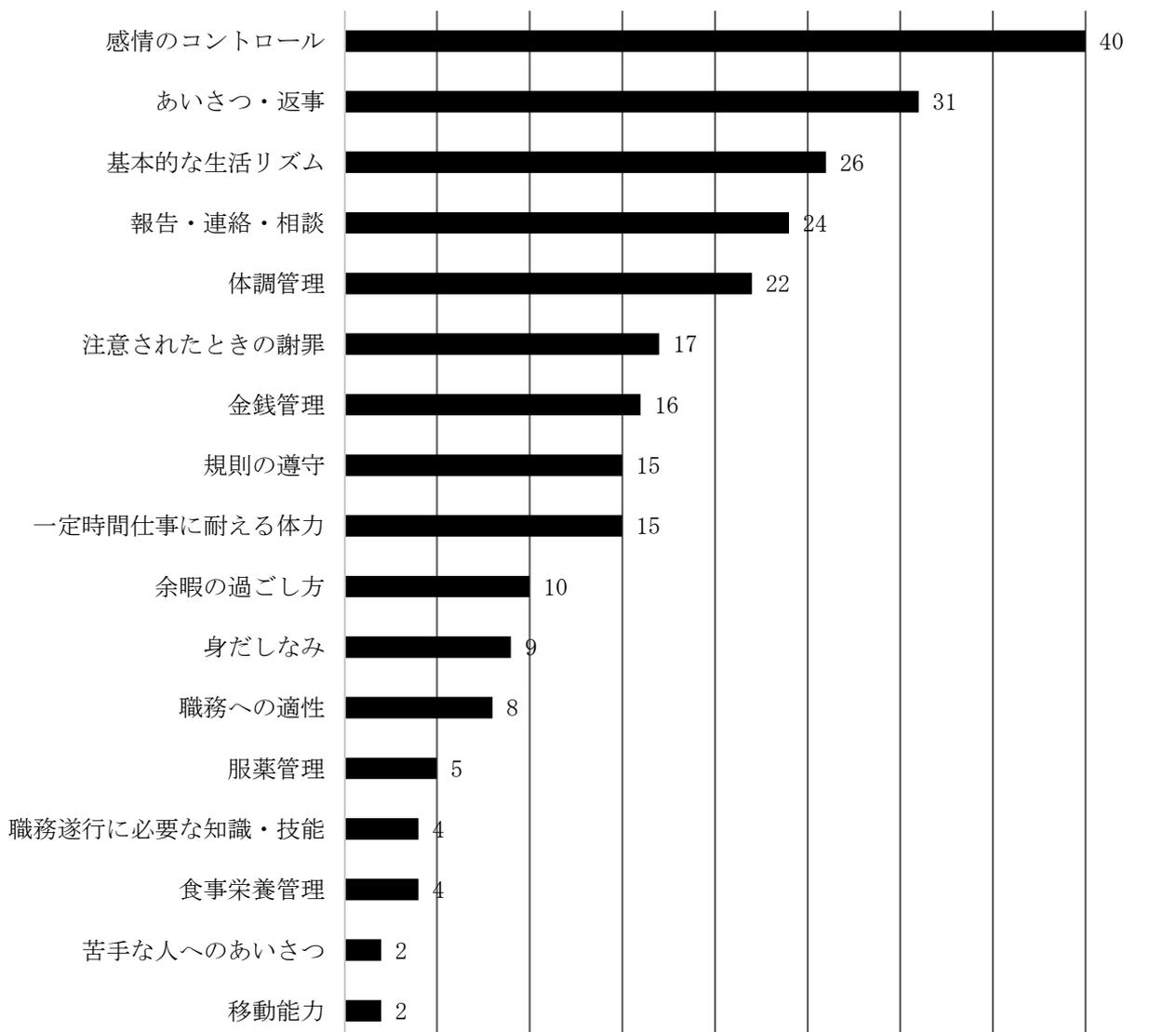
時 期 平成30年7月

回 答 数 47 / 125 (37.6%)

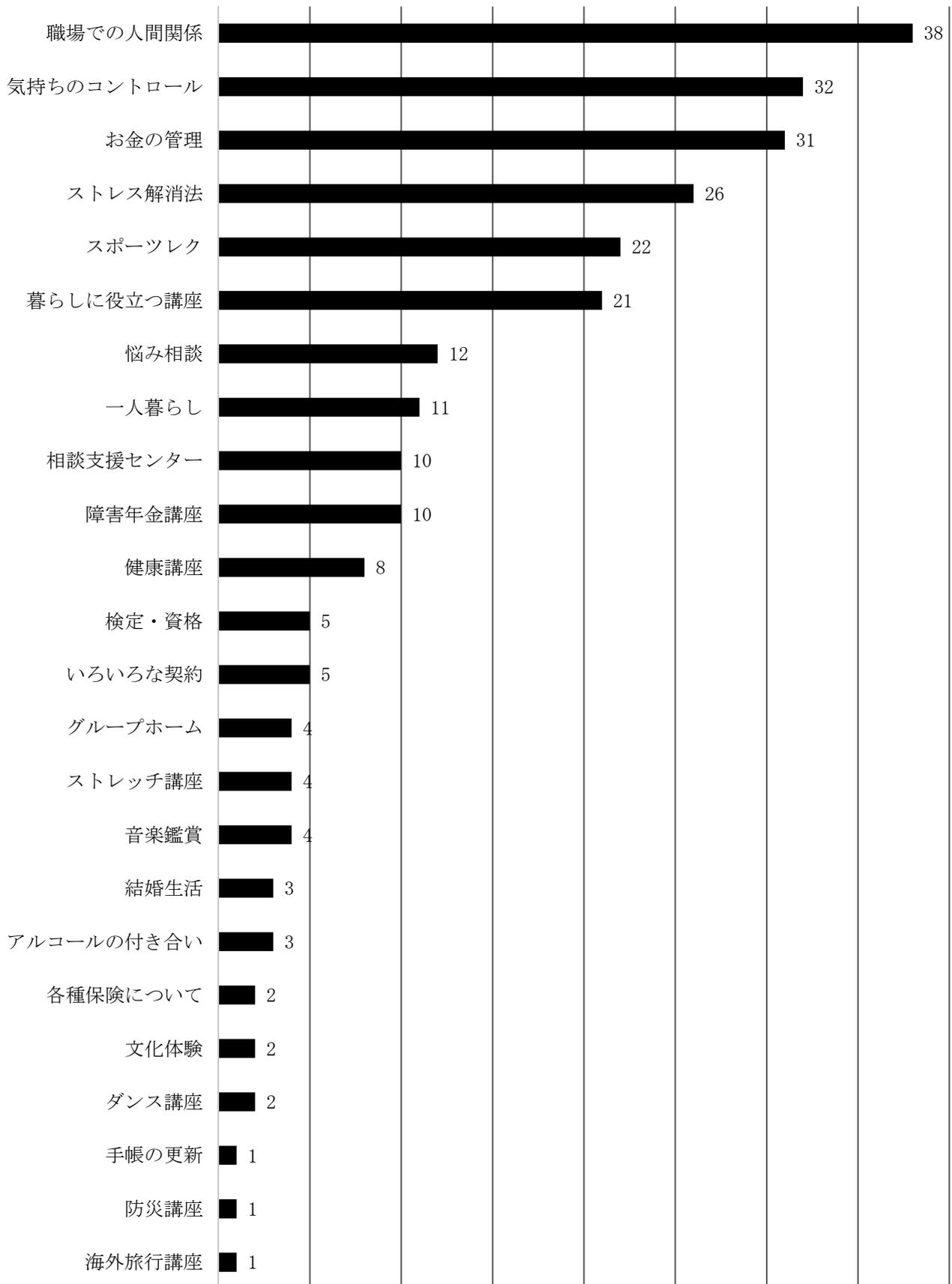
1. 知的障害者が長く働くことに難しさを感じますか。



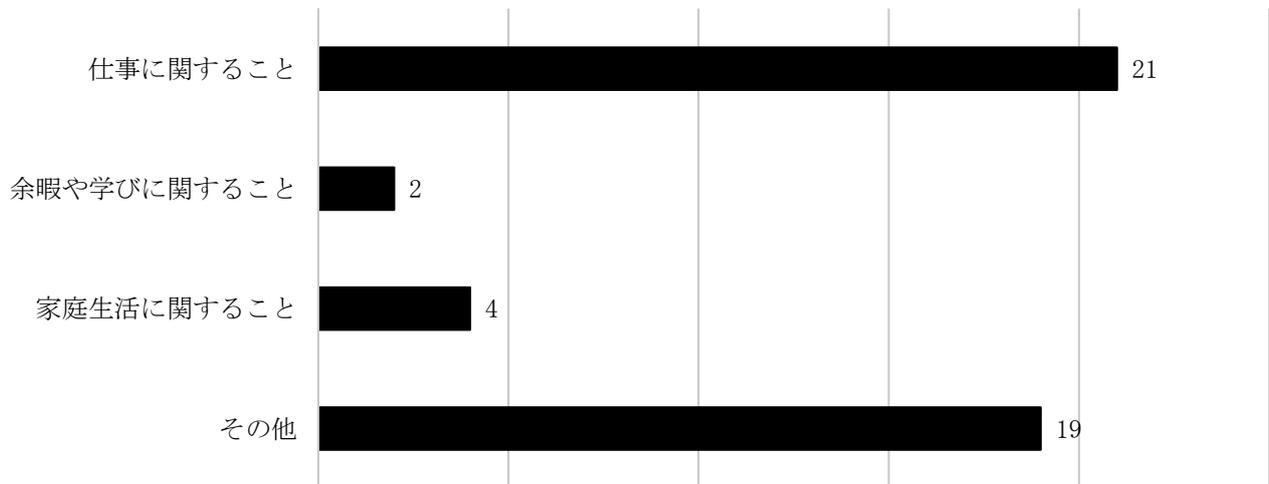
2. 知的障害者が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活していったりするために、どのような力が必要だと思いますか。(複数回答：人)



3. 知的障害者が職場で安定して働いたり、社会で自立して生活していったりするために、学校で学習プログラムを実施するとしたら、どのようなものがあたら良いと思いますか。



4. 学校卒業後の障害者が社会で自立して生きる上で、難しいと感じることや必要だと感じる支援はどんなことですか。(自由記述)



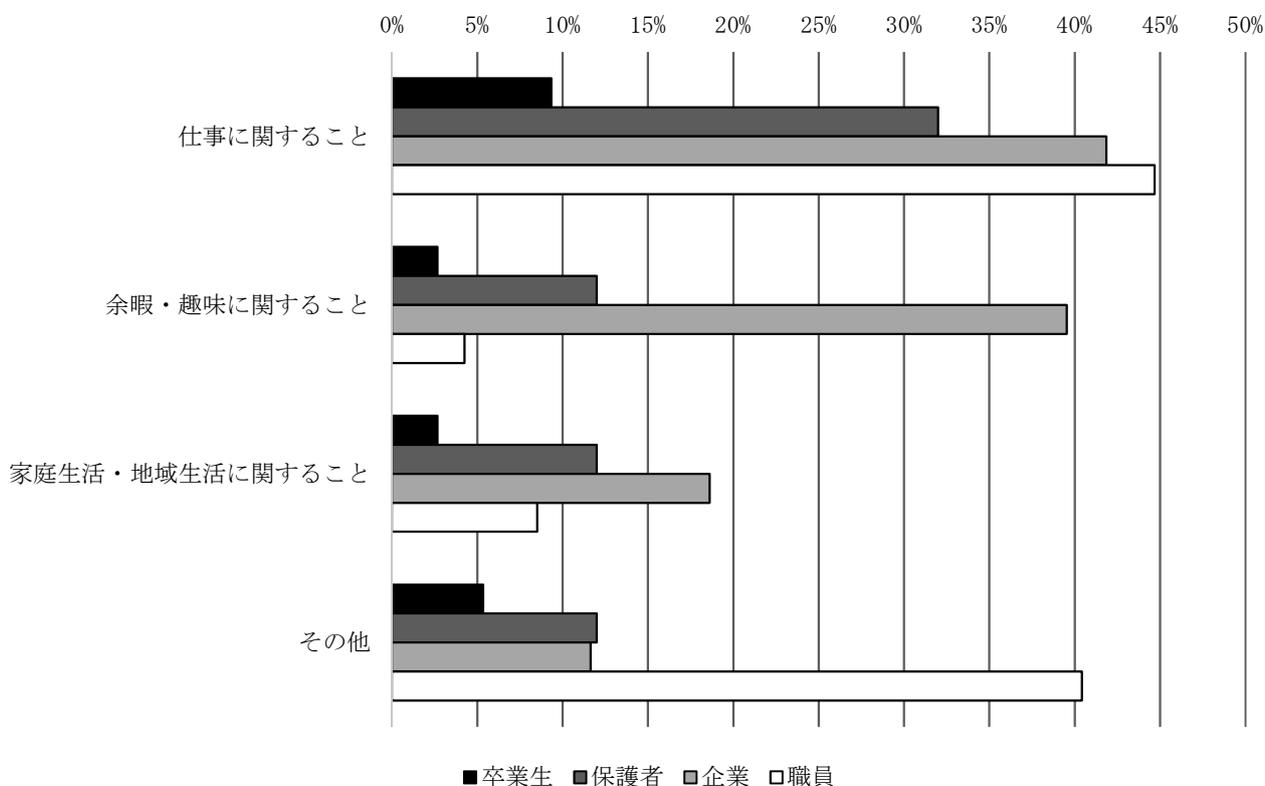
仕事に関すること

- ・コミュニケーション力
- ・就労意欲の養い方
- ・わからないことを聞ける力
- ・感情、ストレスのコントロール
- ・時間の遵守
- ・何のために働くかみつけること等

支援体制に関すること

- ・生活面の支援が家庭に入り込めないのが難しい。地域で巡回相談など行政の支援があると良い。
- ・支援マップがあると本人保護者が心強い。
- ・困ったときに相談できる場所があると良い。
- ・様々な機関と連携をとることができない人は難しい。
日頃から地域の様々な行事などに参加できるようなサポートが必要。
- ・自分からトラブルを訴えることが難しい人が多い。
定期的な面談・聞き取りなど、関わる人たちの情報共有が必要。
- ・職業的自立と社会的自立を目指すには、情報共有はどこで、具体的支援は誰がするのか。

「学校卒業後の障害者が社会で自立して生きていく上で、難しいと感じることや必要だと感じる支援」
(%)

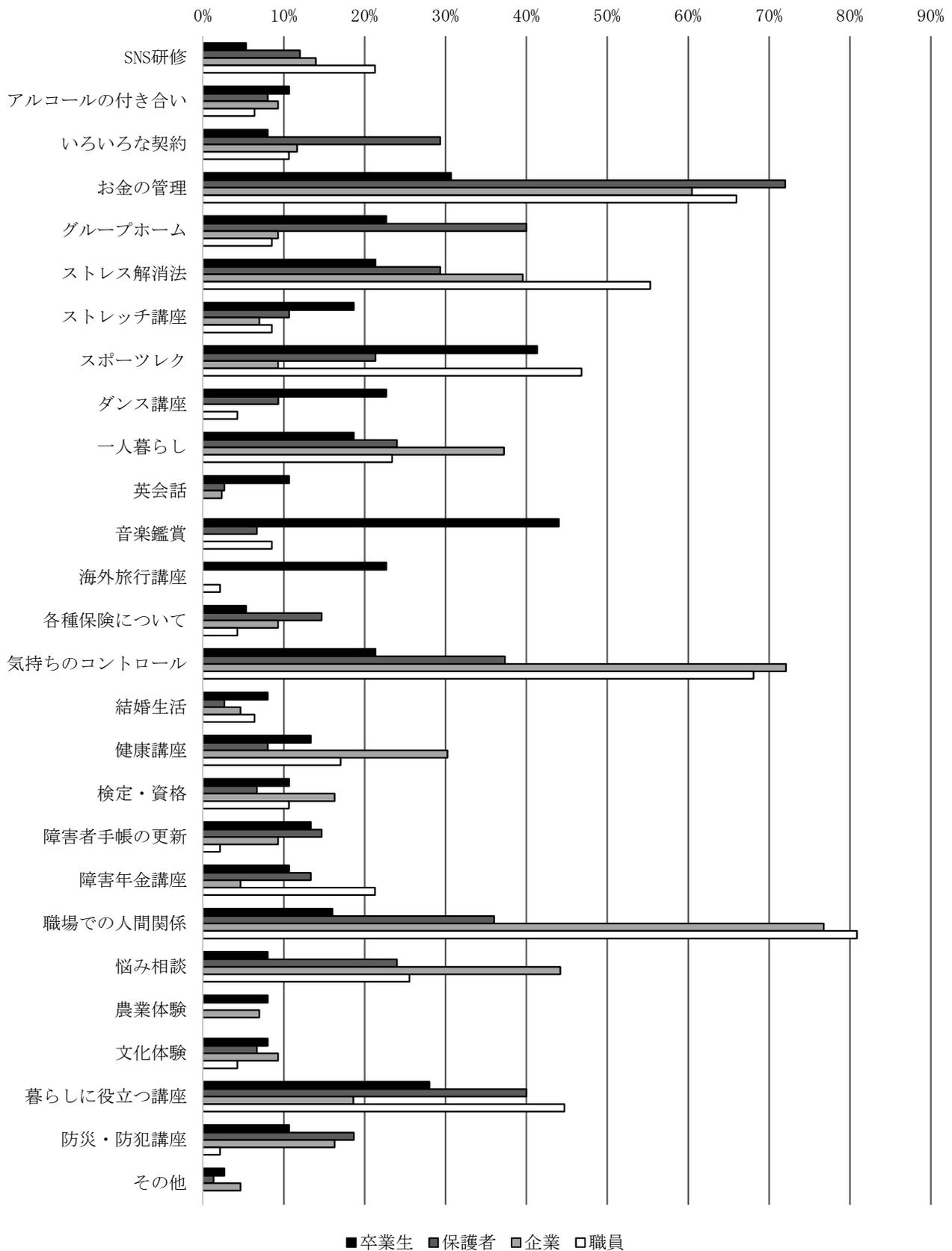


※職員の「その他」について詳細は（自由記述より）を参照

（自由記述より）

	卒業生	保護者	企業	職員
仕事に関すること	・仕事に必要なビジネスマナーなど学べる所が少ない所です。	・職場訪問や相談にのってほしい。 ・職場の様子が知りたい。	・職場が本人の特性や個性をよく理解し、活躍の場を広げていけると良いと思います。	・コミュニケーション力 ・時間の遵守 ・就労意欲の養い方
余暇・趣味に関すること	・生活が単調になりがちで気分転換がしにくい。	・休みの日に活動できるプログラムや団体を紹介してほしい。 ・友人と参加できる講座をひらいてほしい。	・家庭、職場以外で本人が楽しめたり、リラックスできたりする居場所のようところが必要だと感じています。	・困ったり悩んだりしたときに相談できるような場所があると良いと思います。
家庭生活・地域生活に関すること	・将来、自立するには何をすれば良いか、どんな生活力を身につければよいかを教えてください。	・自立するためにグループホームやひとり暮らしをするタイミングや準備を支援してほしい。	・親亡き後の生活の自立を意識した取り組みが行われていないであろう家庭を見ると不安を感じる。	・家族と一緒に生活→グループホーム→一人暮らしと進んでいけるのか。具体的な支援は誰がするのか。
その他	・友達との SNS トラブルの対応	・近況報告の機会があると良い。等	・卒業生で集まれるような場所や在学している後輩と関わられるような行事があると良いのではないかと感じます。	・自分からトラブルを訴えることが難しい人が多い。 ・定期的な面談、聞き取りなど、関わる人たちの情報共有が必要。

「知的障害者が職場で安定して働いたり、社会で自立した生活を送ったりするために、卒業後に学校で講座を実施するとしたら、どのようなものがあたら良いと思うか」（％）



資料3-1
平成30年度実施

市川大野高等学園主催 生涯学習講座

10月6日(土) 10:00~11:40

対象：市川大野高等学園卒業生 ならびに
市川市近辺にお住まいの特別支援学校卒業生
(自力で会場まで来られる方)



講座名	内容	講師	備考
いきいきテニス 	テニスコーチが優しく教えてくれるので、初心者でも楽しく参加できるテニスレッスンです。久しぶりに体を動かしたい人はぜひ！	市川市テニス協会 西村 宗一郎 先生	場所:テニスコート 定員25名(先着) 着替え持参 雨天時はボッチャに変更
グラウンドゴルフ 	グラウンドで簡単にできるグラウンドゴルフは手軽なスポーツとして人気です！自然とコミュニケーションも生まれ、交流も深まります。	大野街4丁目自治会 緑風会の皆さん	場所:グラウンド 定員40名(先着) 着替え持参 雨天時(グラウンド不良時)はボッチャに変更
リンパ de デトックス 	むくみやすいこの季節、セルフマッサージでリンパの流れを良くして身体づくりを初めてみませんか。自宅でもできるマッサージも紹介。 心も体もポカポカリフレッシュ！	リンパトレーナー 五関雅子 先生	場所:音楽室 定員25名(先着) 着替え持参
紅茶の世界 	紅茶のプロが教える「おいしい紅茶の入れ方」講座です。紅茶の紹介や試飲を行い、心も体もリラックスして、紅茶を楽しみましょう！	市川市役所 ボランティアNPO課紹介 紅茶アドバイザー	場所:調理室 定員16名(先着) 材料費250円をお持ちください

参加費 50円 (保険代として)
※紅茶講座は別途250円かかります。

持ち物 うわばき
着替え (ジャージ等運動できる服)
飲み物 (水筒・ペットボトル等)

申込 裏面のFAX用紙にお名前を記入して送信してください。
(複数申込の場合は全員の名前を記入してください)

卒業後の交流や学びの場として活用いただければと思っています。

ぜひとも多くの皆さまの御参加をお待ちしています。

千葉県立特別支援学校
市川大野高等学園 担当 鈴木、岡本

☎ 047-303-8011 FAX 047-303-8191 E-mail ichikawaono-sh@chiba-c.ed.jp



資料3-2
令和元年度実施

市川大野高等学園主催 生涯学習講座

6月29日(土)

10:00~12:00

参加者
募集!

対象：市川大野高等学園卒業生 ならびに
市川市近辺にお住まいの特別支援学校卒業生
(自力で会場まで来られる方)

「楽しむ」プロジェクト ~リフレッシュ~ 疲れをとる リンパコンディショニング

疲れがたまってきたこの季節…
セルフマッサージで
リフレッシュしませんか。
自宅でもできるマッサージも紹介♪

講師：リンパトレーナー
五関 雅子先生



- 持ち物
 - ・うわばき
 - ・バスタオル1枚
 - ・フェイスタオル1枚
 - ・飲み物(お水)
 - ・着替え
- 参加費
 - ・50円
 - 保険代として
- 定員
 - ・20名程度(先着)

申込

いずれかの方法で申し込んでください。

- ① FAX：同封の参加申込書に記入し送信してください。
- ② メール：参加申込書と同じ内容をメールで送信してください。
- ③ 来校：参加申込書に記入し学校に持ってきてください。

お問い合わせ

千葉県立特別支援学校
市川大野高等学園



047-303-8011

FAX

047-303-8191

E-mail ichikawaono-sh@chiba-c.ed.jp

所在地 市川市大野町4-2274

担当 岡本・関澤



第2回

市川大野高等学園主

資料3-3
令和元年度実施

生涯学習講座

9月21日 土 10:30-12:15

対象：市川大野高等学園卒業生・保護者 ならびに
市川市近辺にお住まいの特別支援学校卒業生・保護者
(自力で会場まで来られる方)

①支援を受けながら暮らすとは？ 定員 50名

将来の住まいには、グループホーム・単身生活などいろいろな暮らし方があります。それぞれの特徴に触れて、これからどういう人たちと関わっていけばよいのか？グループホームを中心に、そんなことを考えるきっかけとなる講座となります。

講師：市川圏域グループホーム等支援ワーカー
社会福祉法人市川レンコンの会 武田 陽一 様

持ち物

- ・筆記用具
- ・うわばき
- ・50円 (保険代)



②グラウンドゴルフ 定員 40名

日頃、運動不足の方でも大丈夫！グラウンドで気軽にできるスポーツです。プレーの中で自然とコミュニケーションも生まれます。仲間と楽しくリフレッシュしませんか♪雨天時は体育館でフライングディスクをします。

講師：大野町4丁目自治会 緑風会のみなさん

持ち物

- ・飲み物
- ・着替え
- ・50円 (保険代)



お申し込み

いずれかの方法で申し込んでください。

- ①FAX：同封の参加申込書に記入し送信してください。
- ②メール：参加申込書と同じ内容をメールで送信してください。
- ③来校：参加申込書に記入し学校に持ってきてください。

お問い合わせ

千葉県立特別支援学校
市川大野高等学園

TEL
FAX

E-mail
所在地
担当

047-303-8011
047-303-8191

ichikawaono-sh@chiba-c.ed.jp
市川市大野町4-2274

岡本・関澤



第3回

市川大野高等学園主催

生涯学習講座

11月24日(日) AM10:00~11:45

講師：順天堂大学特別支援研究室

- 持ち物 飲み物、上履き、着替え（長ズボンが望ましいです）
- 参加費 50円
- 定員 ゴールボール40名、シッティングバレー24名（いずれも先着）
- 場所 千葉県立特別支援学校 市川大野高等学園

ゴールボール

パラリンピックの正式種目。

アイシェードという光が入らないゴーグルをつけます。

- 鈴の入ったボールを転がして点を競います♪

パラリンピックの正式種目。

座ったまま行うバレーボールです！

体の不自由な方も健常者も一緒に運動できる競技です♪

シッティングバレー

申込

- ①FAX
- ②メール
- ③来校

※詳細は申込用紙を御覧ください。

お問い合わせ

千葉県立特別支援学校 市川大野高等学園



047-303-8011

FAX

047-303-8191

E-mail

ichikawaono-sh@chiba-c.ed.jp

担当

岡本・関澤

自宅でできるセルフケア

自宅にいる時間が長くなりがちなの頃。

自宅でできるリンパコンディショニングを動画で配信します。

1回5分程度の簡単な運動です。ぜひ挑戦してみてください！

【動画の視聴方法】

市川大野高等学園



生涯学習



「市川大野高等学園」のホームページから「生涯学習」のタブをクリック！

【配信スケジュール】

第1回	「スマホ首改善！」	7月10日（金）配信！
第2回	「肩こり予防」	7月15日（水）配信！
第3回	「腰痛予防」	7月22日（水）配信！
第4回	「目の疲れ改善！」	7月29日（水）配信！
第5回	「脚のむくみ改善！」	8月 5日（水）配信！

卒業生、在校生、保護者の方、どなたでも御利用ください。

講師：健康運動士

コンディショニングインストラクター

五関 雅子先生

【アンケートに御協力ください！！】

- ・今後の生涯学習支援に役立てていきます。
- QRコードを読み込み、回答フォームから御回答ください。



【お問い合わせ】

千葉県立特別支援学校 市川大野高等学園

生涯学習担当

千葉県市川市大野町4-2274

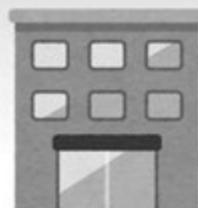
TEL：047-303-8011

URL：<https://cms2.chiba-c.ed.jp/ichikawaono-sh/>



市川大野高等学園 生涯学習講座

障害年金ってなに？



年金事務所

卒業後のライフプランを考える手助けに！

障害年金ってなに？どうやって申請するの？

といった疑問にお答えします。1回3分！ぜひ御覧ください♪

【動画の視聴方法】

市川大野高等学園



生涯学習



「市川大野高等学園」のホームページから「生涯学習」のタブをクリック！

【配信スケジュール】

- | | | | |
|-----|--------------|------------|-----|
| 第1回 | 「障害基礎年金」 | 10月 7日 (水) | 配信！ |
| 第2回 | 「受給までの手続き」 | 10月14日 (水) | 配信！ |
| 第3回 | 「どんな人がもらえるの」 | 10月21日 (水) | 配信！ |

卒業生、在校生、保護者の方、どなたでも御利用ください。

監修：NPO法人

みんなでサポートちば

岩崎 真弓先生



【アンケートに御協力ください！！】

- ・今後の生涯学習支援に役立てていきます。
QRコードを読み込み、回答フォームから御回答ください。

【お問い合わせ】

千葉県立特別支援学校 市川大野高等学園

生涯学習担当

千葉県市川市大野町4-2274

TEL：047-303-8011

URL：<https://cms2.chiba-c.ed.jp/ichikawaono-sh/>



平成30年度生涯学習講座 参加者アンケート

資料4-1

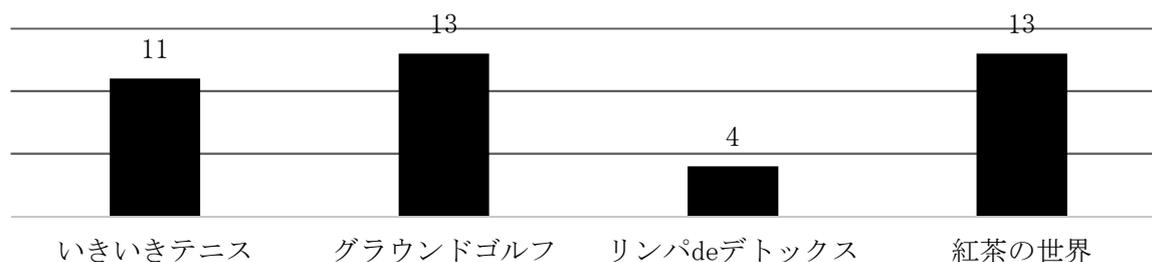
講座名 いきいきテニス、グラウンドゴルフ、リンパdeデトックス、紅茶の世界

調査方法 質問紙法

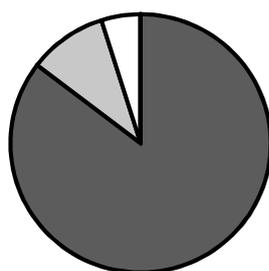
実施時期 平成30年10月6日(土)

回答数 41/45 (91.1%)

Q. 参加した講座を教えてください。

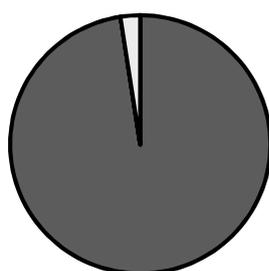


Q. 参加した感想を教えてください。



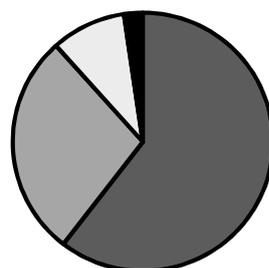
満足	85%
やや満足	10%
あまり満足していない	5%
全く満足していない	0%

Q. 今後もこのような講座があったら参加したいと思いますか。



参加したい	98%
どちらとも言えない	2%
参加したくない	0%

Q. 今後、どのような講座があったら参加してみたいですか。



スポーツ系	61%
文化系	28%
勉強系	9%
その他	2%

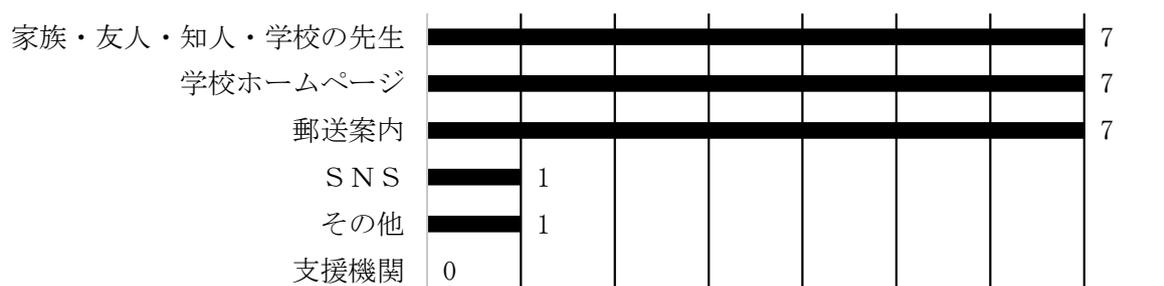
講座名 疲れをとるリンパコンディショニング

調査方法 質問紙法

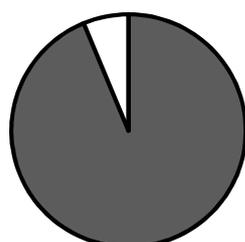
実施時期 令和元年6月29日(土)

回答数 16/16 (100%)

Q. 今回の講座はどこで知りましたか。(複数回答：人)

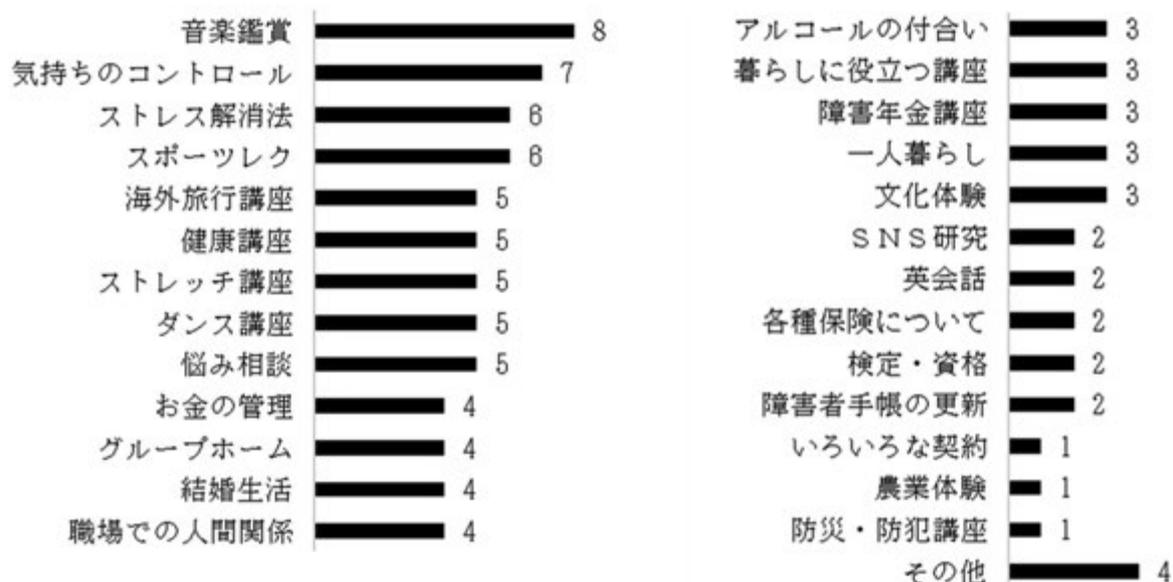


Q. 今回の講座はいかがでしたか。



満足	94%
やや満足	6%
あまり満足していない	0%
全く満足していない	0%

Q. 今後、学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあったら参加したいですか。5つ選んでください。(人)



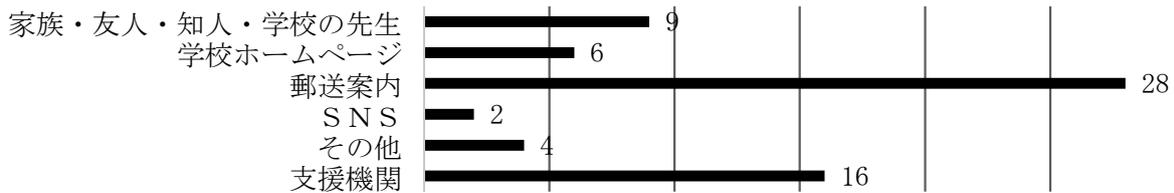
講座名 支援を受けながら暮らすとは、グラウンドゴルフ

調査方法 質問紙法

実施時期 令和元年9月21日(土)

回答数 63/65 (96.9%)

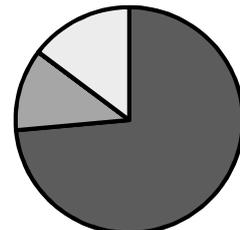
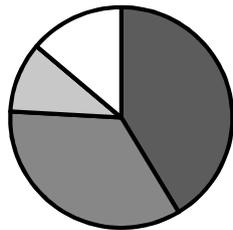
Q. 今回の講座はどこで知りましたか。



Q. 今回の講座はいかがでしたか。

支援を受けながら暮らすとは

グラウンドゴルフ



満足 41%
 やや満足 35%
 あまり満足していない 11%
 全く満足していない 0%
 無回答 14%

満足 73%
 やや満足 12%
 あまり満足していない 0%
 全く満足していない 0%
 無回答 15%

Q. 今後、学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあったら参加したいですか。5つ選んでください。



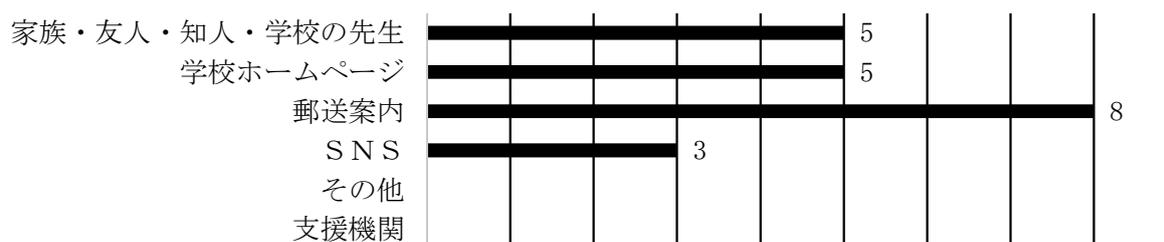
講座名 パラスポーツ

調査方法 質問紙法

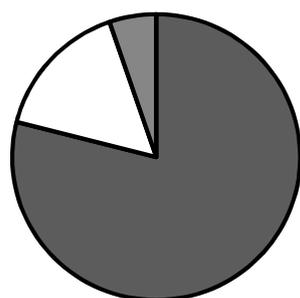
実施時期 令和元年11月24日(日)

回答数 19/19 (100%)

Q. 今回の講座はどこで知りましたか。(複数回答：人)

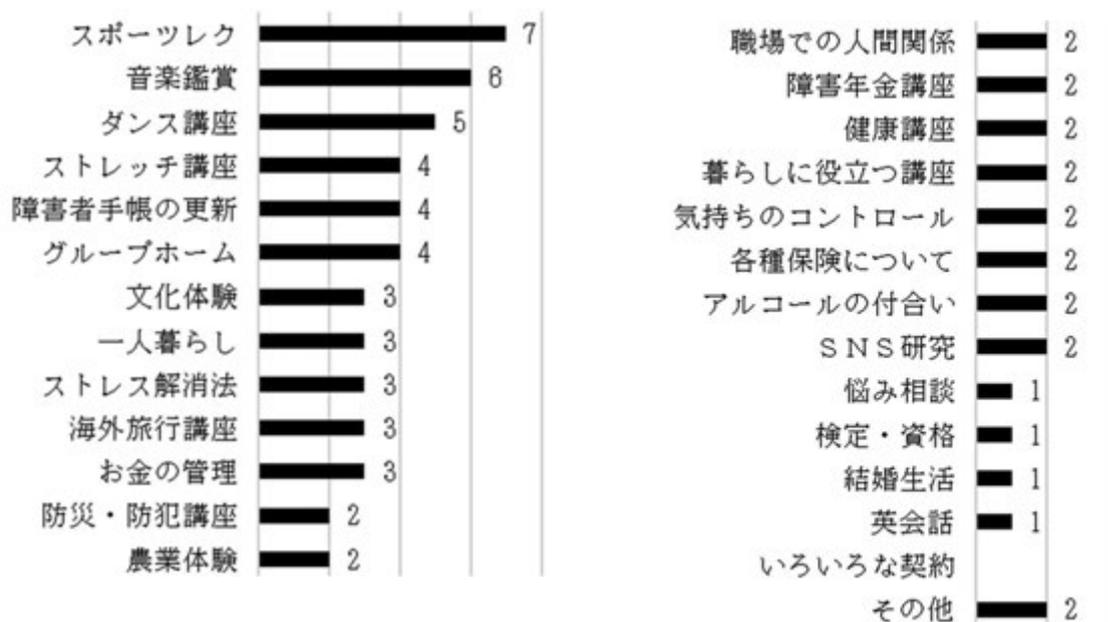


Q. 今回の講座はいかがでしたか。



満足	79%
やや満足	16%
あまり満足していない	5%
全く満足していない	0%

Q. 今後、学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあつたら参加したいですか。5つ選んでください。(人)



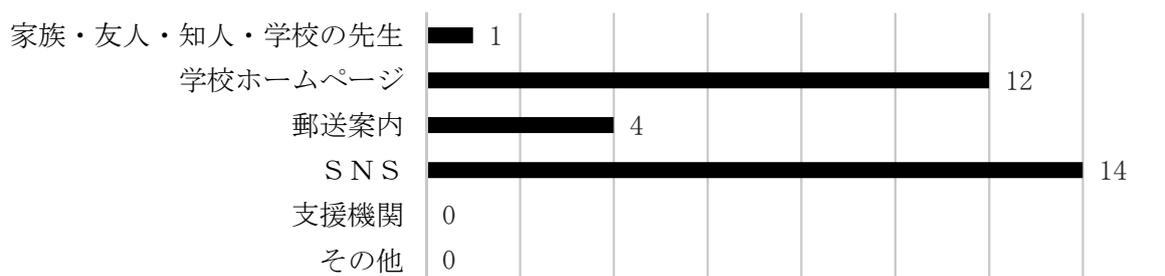
講座名 自宅でできるセルフケア

調査方法 ウェブアンケートシステム

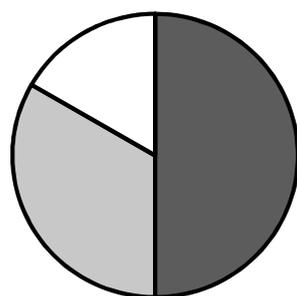
実施時期 令和2年7月10日(金)～令和2年11月9日(月)

回答数 18

Q. 今回の講座はどこで知りましたか。

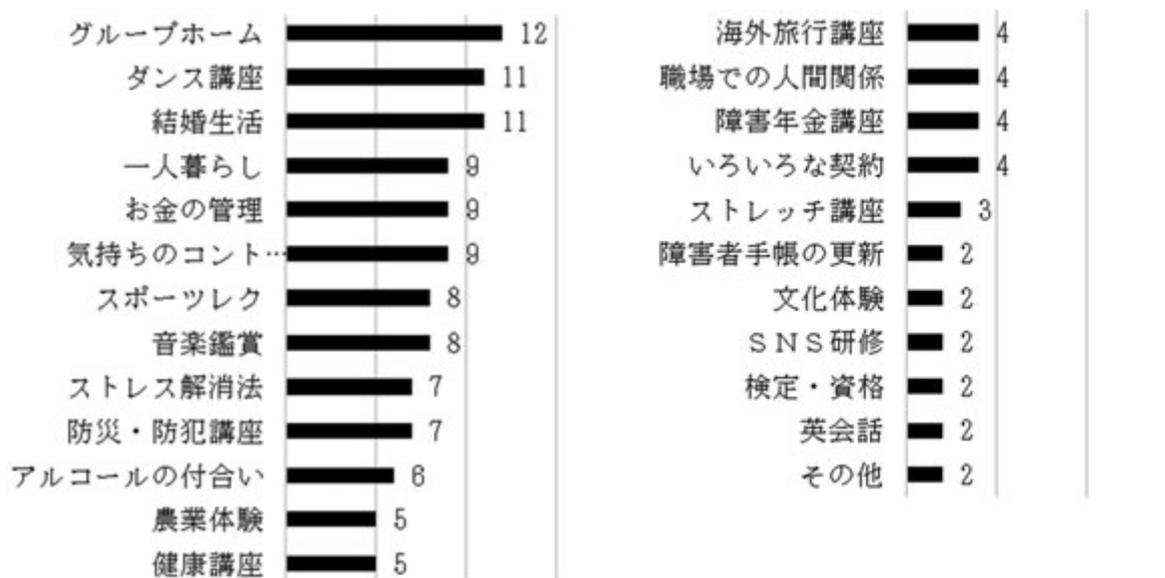


Q. 今回の講座はいかがでしたか。



満足 50%
 やや満足 33%
 あまり満足していない 17%
 全く満足していない 0%

Q. 今後、学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあったら参加したいですか。5つ選んでください。



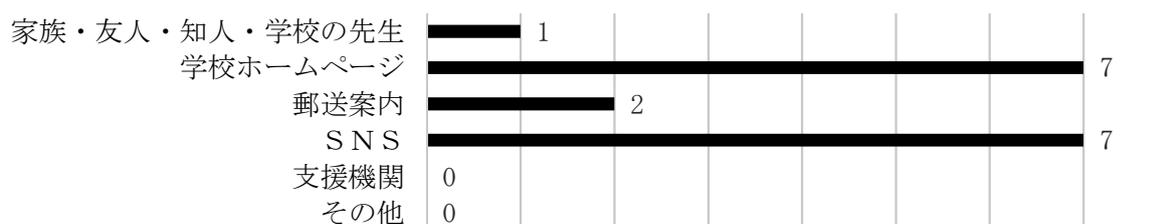
講座名 障害年金って何？

調査方法 ウェブアンケートシステム

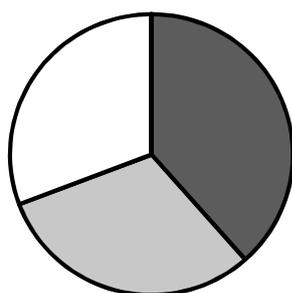
実施時期 令和2年10月7日（水）～令和2年11月9日（月）

回答数 13

Q. 今回の講座はどこで知りましたか。（複数回答：人）

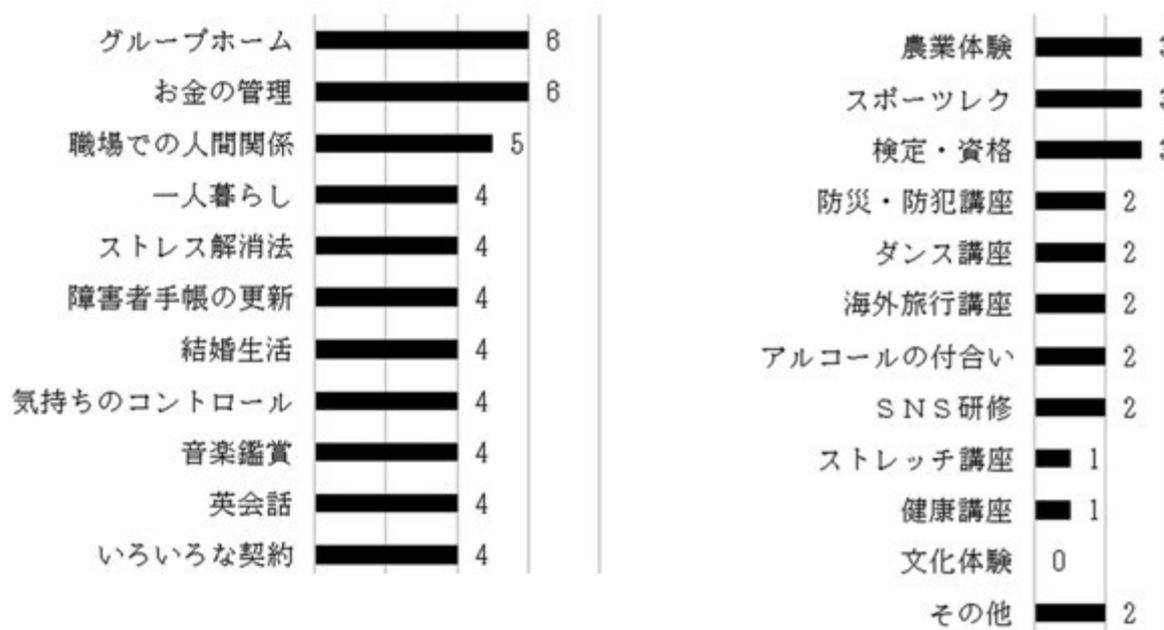


Q. 今回の講座はいかがでしたか。



満足	38%
やや満足	31%
あまり満足していない	31%
全く満足していない	0%

Q. 今後、学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあったら参加したいですか。5つ選んでください。（人）





資料 5

学校卒業後から社会への移行期、
人生のライフステージにおいて
必要な学びの場を提供し、
余暇の充実や自立した社会生活を支援する

生涯学習支援 市川大野モデル

千葉県立特別支援学校
市川大野高等学園

「学ぶ」プロジェクト

「学ぶ」プロジェクト、「楽しむ」プロジェクトとして、生涯学習講座を開催しています。

講師は地域にお住まいの“その道のプロ”！
本校の卒業生に限らず、在校生、地域の方も御参加できます。



「支援を受けながら暮らすとは」



動画配信「障害年金ってなに？」



「シッティングバレー」



「ゴールボール」

「楽しむ」プロジェクト



「グラウンドゴルフ」



「紅茶の世界」



「いきいきテニス」



「リンパdeデトックス」



動画配信「自宅でセルフケア」

「つながる」プロジェクト

卒業生や在校生に生涯学習に関する情報を提供し、地域と「つながる」ための取組を実施しています。



「学校ホームページ」
「LINE公式アカウント」
本校の生涯学習講座に関する情報を提供しています。



「卒業生のホットルーム」
休日の過ごし方がわからない…
同じ趣味をもつ仲間とつながりたい！など
卒業後の学び、余暇についての相談に応じます。

生涯学習支援「市川大野モデル」

本校の生涯学習支援の取組は、たくさんの地域の方々のおかげによって成り立っています。
「コミュニティスクール（学校運営協議会）」「学校支援サポーター」を活用して、
生涯学習支援を、教育活動にも取り入れています。

学校運営協議会

学校支援サポーター



生涯学習支援の取組について、
課題を共有したり、企画を考えたりします。



生涯学習講座の講師や当日の運営、
在校生対象の外部講師や学習支援を行います。

特別支援学校の先生方へ

- ▶生涯学習講座を同窓会活動に生かしたい！
- ▶地域の資源を教育活動に生かしたい！

特別支援学校に在学している方・卒業生の方へ

- ▶卒業しても仲間とつながりたい！
- ▶休日のこと、どこに相談したらいいかわからない…

地域の方へ

- ▶生涯学習講座に参加したい！
- ▶学校支援サポーターに興味がある！

企業の方

- ▶働いている人の生涯学習をサポートできます！
- ▶生涯学習講座に講師や教材を提供できます！！

詳しくは本校ホームページで
紹介しています。



市川大野高等学園 生涯学習

検索

生涯学習支援 市川大野モデル

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園

TEL 047-303-8011

FAX 047-303-8191

Mail ichikawaono-sh@chiba-c.ed.jp

2021年3月発行

4 学習プログラム開発2

さわやかちば県民プラザの取組

学習プログラム開発2

さわやかちば県民プラザの取組 ～「さわやかおんがく隊ワークショップ」について～



1 事業の概要

(1) 目的

音楽を通じた生涯にわたる学びの充実を目指す。そのために、音楽活動を入口として、学ぶ楽しさや喜びを知り、学びたいという意欲を高める。

また、様々な人とのつながりにより視野を広げ、多様な力を身に付け、生活をより豊かにする。

(2) 対象

県内在住の知的障害のある方（18歳以上）

(3) 実施回数

年間20回（6月から3月の期間に月2回実施）

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策等の関係で8月から開始

(4) 受講者数

16名（令和2年度）

(5) 主な活動内容

ア ヘルマンハープや大正琴、トーンチャイムの演奏及び合唱練習

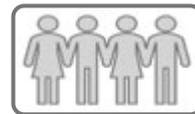
イ 自主活動日や自主活動時間は、ボランティアが中心となり運営

ウ 練習の成果を発揮する場として、近隣施設や施設内で発表会実施

(6) 基本的な活動の流れ（※資料（1）「令和2年度当日の流れ」参照）

時間	内容
9:30	講師、ボランティア、職員打ち合わせ
10:00	はじめの会（あいさつ、今日の活動の確認、連絡等） ※受講生司会進行
10:10	ワークショップ開始（楽器練習等）
11:30	おわりの会（講師の話、隊長の話、次回連絡等） ※受講生司会進行
12:00	講師、ボランティア、職員反省会議

2 3年間の取組～県内への普及・啓発に向けて～



(1) あつまる【0から1ではなく、3を4、そして5へ】

ア 既存組織からの「やってみたい」「おもしろそう」の声からスタート

平成14年から「さわやか青年教室」(※コラム1参照)を行っている。この事業は、知的障害のある青年にとって、日常生活の中で体験しがたい活動プログラムを実施している。平成30年度、障害のある方を出演者としたコンサートを企画し、12月の障害者週間に合わせて「さわやかコンサート」を実施した。その中で、さわやか青年教室の参加者であるアマチュアピアニストの方に、ピアノ演奏を依頼した。また、このコンサートで、さわやか青年教室参加者有志15名で、ピアノ伴奏をバックに、合唱も披露した。歌声に涙する方も多く、大変好評をいただいた。

このコンサート開催の成果として、さわやか青年教室の参加者から、以下のような前向きな感想をたくさんいただいた。

- ・また参加したい。
- ・楽器の演奏にもチャレンジしたい。
- ・自分たちの手でコンサートをつくりたい。



また、活動を支える支援スタッフからは、

- ・他者から認められる場があることは重要。
- ・プログラムに音楽活動を組み込むことで学びの継続化につながるのではないか。

などの御意見をいただいた。

そのような声を受け、障害のある方々に継続して音楽活動を楽しんでほしい、そして新たなスキルを身に付け、社会で活躍する機会を作りたい、さらには障害の有無にかかわらずみんなで成果発表の場としてのコンサートをつくりあげ、共生社会につなげたい、そのような願いから、さわやかちば県民プラザの新たな挑戦として『さわやかおんがく隊』を結成するに至った。

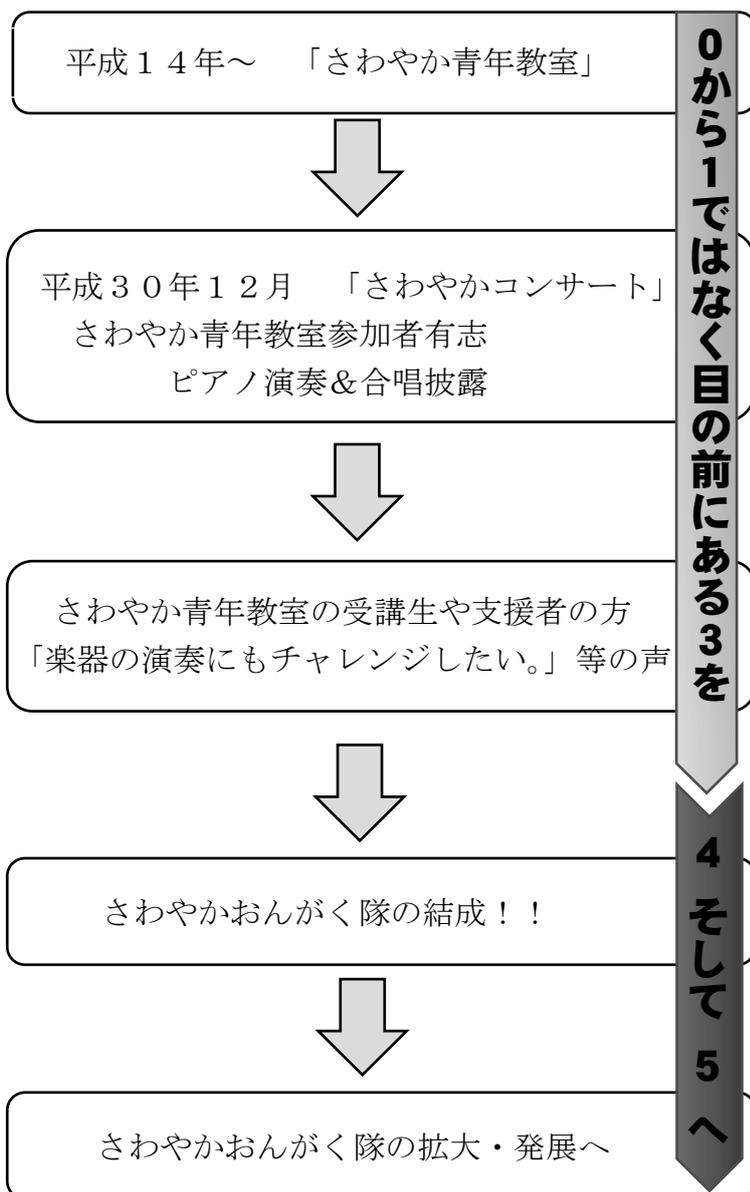


※コラム1 ☆☆さわやか青年教室☆☆

知的障害のある青年を対象として、年間9回程度、社会生活の質の向上を目指す学習支援活動、スポーツ・レクリエーション等の余暇活動を行っています。さまざまな活動を通して、仲間との交流を深めたり、充実した社会生活や余暇を過ごしたりすることを目指します。

<プログラム例> 学習講座・ハイキング・スポーツ教室等
講座の様子は、右のQRコードから⇒⇒





ゼロから何かを生み出していくことはとても難しい。また、そのためには様々な労力が必要となる。ゆえに、活動を始める上で、一番スムーズな方法として、現在進行形で活動している団体やサークル、グループを母体とし、立ち上げるということである。さわやかおんがく隊は、上記のように「さわやか青年教室」が母体となり生まれた。当時の受講生の「得意分野」から派生し、その分野に興味を持った方々が集まった。それが、「さわやかおんがく隊」である。「こんなことがやってみたいな。」「これっておもしろそうだな。」「〇〇が得意な人がいるから、教えてもらおう。」

0から1ではなく、目の前にある“3”を“4”そして“5”へ。



イ 講師やボランティアは、つながりのある団体や地域の「サークル」

「特別支援学校」にアタック

(ア) 講師の選定

講師	選定までの経緯等
①ヘルマンハーブ 【日本ヘルマンハーブ振興会】	平成30年度の「さわやかコンサート」に、東京都千代田区から「ヘルマンハーブちよだ」という障害のある方とその保護者で構成されたヘルマンハーブサークルの方々にも出演していただいた。その年の10月に行われた関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会において、「ちよだ」の実践事例を、当時のさわやか青年教室を担当していた職員が聴き、ヘルマンハーブの音色の美しさと、自主サークルとして楽しく活動される姿に感動して、出演を依頼した。様々な交流会や発表会、研修会に参加することで、思わぬつながりを生むこととなる。
②大正琴 【錦歌会「東葛飾文化祭」出演者】	さわやかちよだ県民プラザ主催の「東葛飾文化祭」に出演している、大正琴サークルの方々に、ボランティアとして協力していただいた。それがきっかけとなり、ぜひ大正琴にもチャレンジしようということになった。参加するボランティアの「趣味・特技」を生かすことで、活動の幅を広げていくことができた。
③合唱 トーンチャイム 【近隣県立特別支援学校教職員】	さわやかちよだ県民プラザ主催の「音楽ワークショップ」に参加している特別支援学校の教職員に合唱やトーンチャイムの指導を依頼した。特別支援学校の教職員ということもあり、受講生の特性を把握し、個々に合わせた指導となっている。地域にある特別支援学校の教職員とつながることは、活動する上でとても心強い味方となった。

(イ) ボランティアの募集

①チラシの作成 (資料(2)「令和2年度ボランティア募集チラシ」参照)

「障害のある人が集い、音楽を通じて、心のつながりや生きがいを持ち、豊かな生活を育むことを目的としています」というように、活動の目的を募集チラシに明記し、方向性を示す。

②キーワードの選定

「知的障害」「音楽」のように、活動におけるキーワードを選定する。

③チラシ配布先選定

キーワードに関連するサークルや団体、学校等をリストアップしチラシ配布先の選定をする。

④ホームページ掲載

ホームページ掲載記事を作成し、チラシを添付する。

活動内容の詳細も掲載し、不特定多数の広範囲に情報を広げる。

さわやかおんがく隊ボランティア募集チラシ配布先一覧	
1	さわやかちば県民プラザ施設利用登録団体 ⇒音楽・ボランティア関連のサークル、団体等
2	千葉県生涯学習情報提供システム登録団体(※コラム2参照) ⇒音楽・ボランティア関連のサークル、団体等
3	県内のボランティア関連施設 ⇒ボランティアセンター、市民活動支援センター、社会福祉協議会等
4	さわやかちば県民プラザ主催講座・イベント ⇒音楽・ボランティア関連の講座・イベント等
5	近隣高等学校、特別支援学校、大学、NPO法人等
6	近隣各市公民館、文化ホール、図書館、博物館、情報事業者等

【さわやかおんがく隊ボランティア】



＜主催事業＞
東葛飾文化祭出演者



＜主催事業＞
高校生のためのボランティア
体験講座受講生



＜主催事業＞
柏の葉吹奏楽団
音楽ワークショップ



＜主催事業＞
さわやか青年教室
ボランティア



＜利用者＞
地域の住民など



＜その他＞
保護者

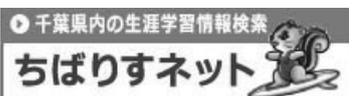
ここでも、目の前にある“3”を利用する。

「あつめる」のではなく「あつまる」ように動いていく。



※コラム2 ☆☆ちばりすネット☆☆

さわやかちば県民プラザでは県民の生涯学習推進のため、県内の生涯学習に関する各種情報を収集・提供し、学習相談にも対応することを目的とした千葉県生涯学習情報提供システム事業（愛称：ちばりすネット）を展開しています。目的にあった情報を見つけられるように、県、市町村、生涯学習関連施設などから収集した情報は、さわやかちば県民プラザが運営するデータベースに登録され、インターネット等で利用できる検索プログラムからいつでも取り出すことができます。詳しくは、右のQRコードから⇒⇒⇒⇒



ちばりすネット

検索





(2) そだつ【「受動」から「能動」へ】

ア 障害の有無に関わらず活動しやすい合唱や楽器への挑戦

活動のしやすさ。これを求めることは、極めて大切なことである。なぜなら、隊員の活動意欲に直結してくるからだ。分かる。できる。だから、嬉しい、楽しくなる。小さな成功体験の積み重ねが、「やる気」や「自信」につながっていく。さらには、「もっとやりたい」「さらにレベルアップしたい」という能動的な姿勢をつくっていく。

さわやかおんがく隊では、ヘルマンハープや大正琴、合唱、トーンチャイムに挑戦してきた。以下、それらの特徴等を記す。

【使用した楽器等の特徴】

<p>(ア) ヘルマンハープ</p> 	<p>(イ) 大正琴</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・五線譜が読めなくても弾ける。 ・弦の裏側に、専用の楽譜を差し込むと直感的に弾ける。(楽譜に書かれているマークに合わせて弦を弾くだけ)直感的に弾ける楽器はあまりない。 ・メロディーを奏でることが容易にできる。 ・合奏の他、ソロ演奏も可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜が数字で書かれているので、五線譜と比べると分かりやすい。 ・楽譜と楽器の両方を見ながら演奏しなくてはならず、ヘルマンハープに比べて少々難易度が上がる。 ・楽譜を数字化し、その番号のキーを押して弦を弾く。楽譜の数字を大正琴のキーの数字と重ねる必要があるため、直感度が弱い。
<p>(ウ) 合唱</p> 	<p>(エ) トーンチャイム</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜が読めなくても、参加できる。 ・一人一人主体性を持ち取り組める。 ・全員の声に合わせてハーモニーを生み出すために、協調性が高められる。 ・声の出し方、歌い方等、創造的な力を個々の能力に応じて発揮できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つに1音なので、演奏しやすい。また、音に集中でき、役割分担が明確にできる。 ・みんなで、1つの音楽を創り上げることで、それぞれの個性や感性を育てる。 ・上音も柔らかいので高い音が苦手な聴覚過敏な方も抵抗なく演奏できる。

活動（演奏）のしやすさを前提とすること以外に、もう1点考えるべき重要な点がある。それは、受講生一人一人の特性を把握し、障害の程度や得意不得意、実際の活動の様子等をアセスメントすることである。

（※資料（3）「令和2年度参加確認申込書」参照）

特別支援教育（※コラム3参照）の知見を高めることは、知的障害の方と活動していく上で、極めて大切なことである。

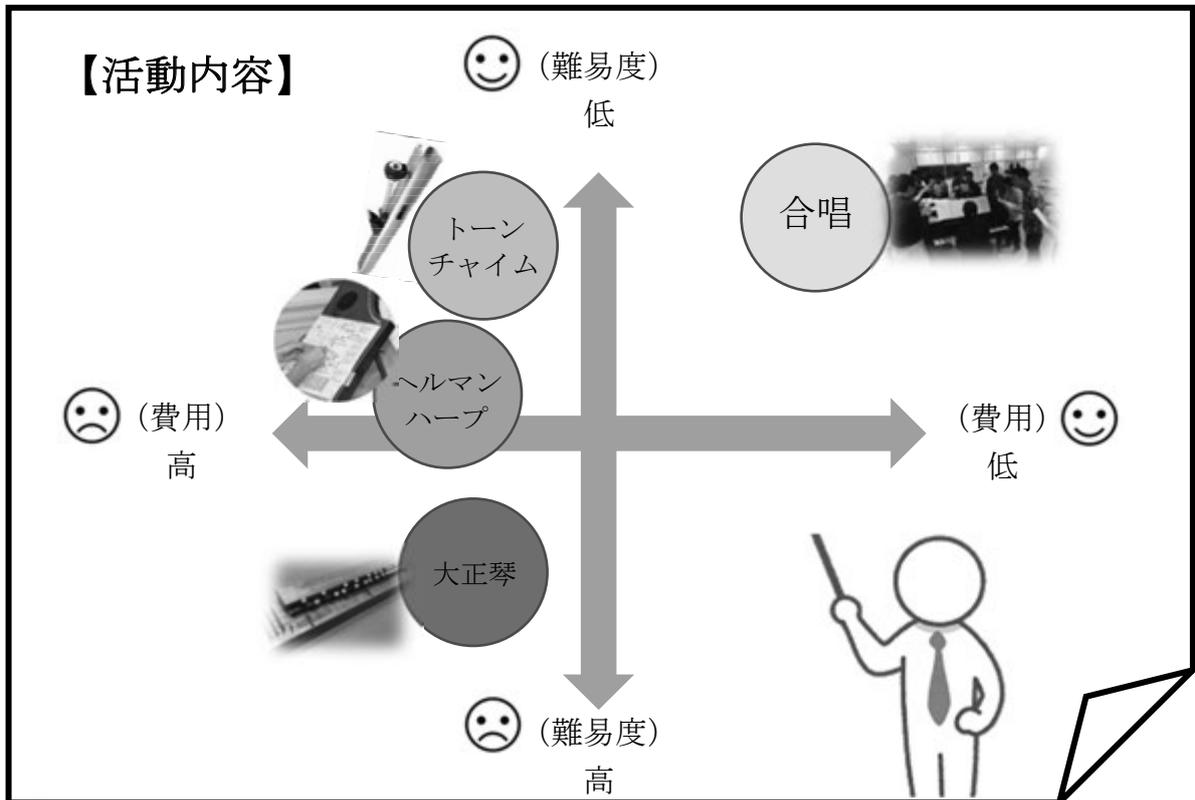
活動（演奏）のしやすさと受講生の実態にあった活動内容の選定。

このバランスを考えながら、活動していくようにする。

その結果が、以下のような受講生の声、

「家でやりたい！」「初めてだったけど、失敗を恐れずにやりました。先生に教わった通り、家で練習します。」

という「受動」から「能動」への動きにつながっていくと考える。



※コラム3 ☆☆千葉県の特例支援教育－現状と主な取組－☆☆

千葉県教育委員会ホームページ内の「千葉県の特別支援教育」に、令和元年度千葉県の特別支援教育【概要版】（PDF）が掲載されています。千葉県の特別支援教育の状況が、様々な観点からまとめられています。

詳しくは、右のQRコードから⇒⇒



千葉県の特別支援教育

検索



イ 物と時間と場所を確保し、ボランティアが中心の活動に一步ずつ ステップアップ

(ア) 物と時間と場所の確保

継続的かつ安定した活動をする上で、「人」はもちろんだが、以下の
ように「物」「時間」「場所」の確保は必須である。

 物	 時間	 場所
<ul style="list-style-type: none">・ヘルマンハーブ (有料)・大正琴 (有料)・トーンチャイム (有料)	<ul style="list-style-type: none">・月2回、1日2時間程度の活動・自主練習日確保・事前打合せ、反省会の設定	<ul style="list-style-type: none">・さわやかちば 県民プラザ (公的機関)・東葛テクノプラザ (公的機関)

できる限り費用がかからないように、物は、団体や個人等から借りたり、寄贈を依頼したりする。例えば、柏市社会福祉協議会は、トーンチャイムやドラムセットの無料貸与を行っている。

また、積極的に自主練習日や自主練習時間を確保してきた。練習する物と場所の準備、ボランティアの方にいつでもアドバイスをもらえる環境は整えておく。そうすることで、こちらからの「これをやりましょう！」ではなく、受講生の「これがやりたい！」という意欲を引き出すとともに、ニーズを活動につなげることが実現した。

受講生一人一人の思いを大切にする。自主練習日等の確保は、その具体的な手段の1つとなる。

(イ) ボランティア中心の活動へ

そのためには、ボランティア内のリーダーを育成する必要がある。

①目的や目標の共有

第1回の活動前に話し合いの場を設けた。そこで、活動の「目的」や「目標」を共有した。向かっていく先があるからこそ、安心して活動ができる。だからこそ新たなリーダーが生まれる。

②活動前後の意見交換時間を確保

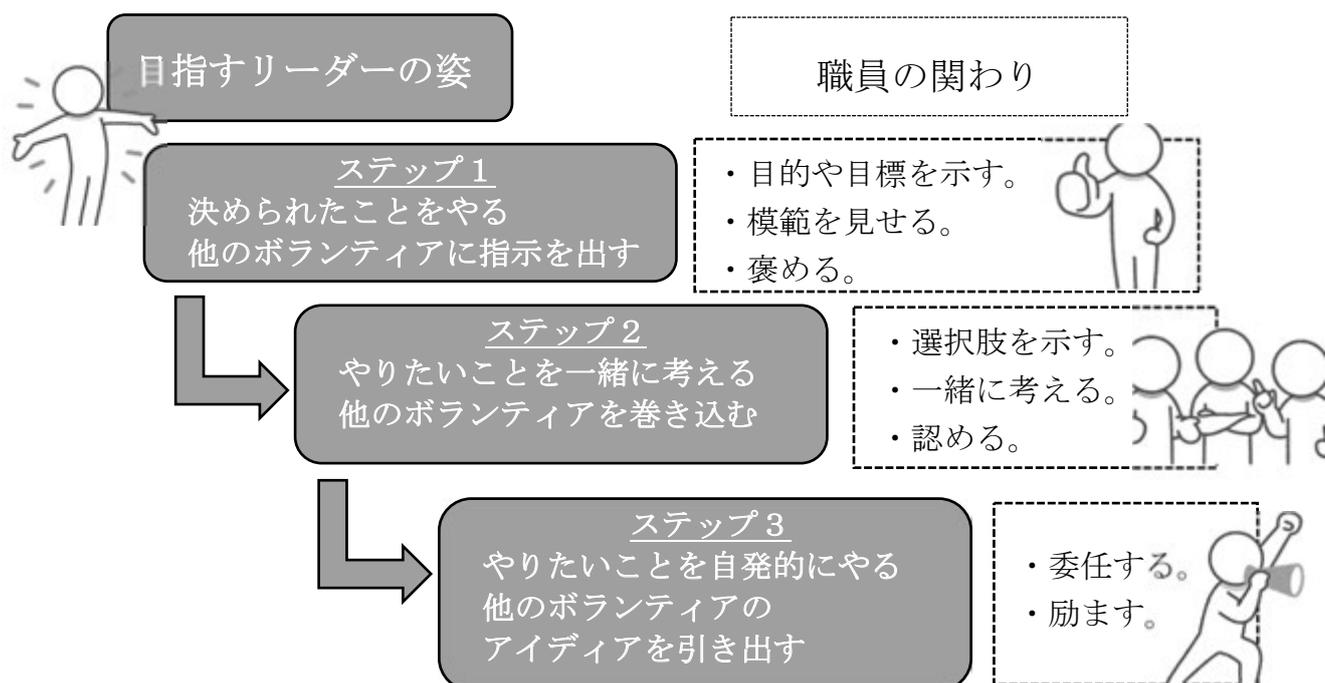
「もっとこうしたい方がいい。」「このようなことをしてみたい。」意見交換の場を確保することで、考えていることを表現できる。自分の考えが、次の活動に生かされることで、参画意識が高まる。

③参加しているボランティアの方の強み(特技)を生かす

強みを生かすことで、より積極的な関りを生むことができる。

さわやかおんがく隊の大正琴への挑戦は、まさしくボランティアの特技を生かした取組となっている。

【ボランティア内のリーダー育成ステップ】



④様々なワークショップや研修会の実施

a 指導者養成ワークショップ

ヘルマンハーブや大正琴の講師から、演奏法や指導方法だけでなく、楽器のチューニングやメンテナンス、楽譜の書き方などを教わった。

b 障害者理解のための研修会

受講生の特性を理解することは、サポートをしていく上で、極めて重要である。令和2年度、第1回の活動前に、「障害者理解のための研修会」を企画した。講師は、県立特別支援学校の教職員に依頼した。主な研修内容は、知的障害・発達障害の基本的な特性、関わり方。参加者は11名。ボランティアの方だけではなく、保護者の方々の参加もあった。



※コラム4 ☆☆さわやかおんがく隊は宝物☆☆

活動後のボランティア同士の一コマです。

ボランティア「受講生は、おんがく隊を楽しんでいただけているのでしょうか。」

ボランティア（受講生の親）

「受講生は、間違いなく楽しんでます。自宅と作業所（仕事場）の往復だけとなっている方が多く、習い事をしたり、皆で集まったりすることが全くないのです。このような場を設けていただけて大変ありがたいです。

おんがく隊は、宝物です。」

【「障害者理解のための研修会」参加者の感想】

「障害のあるなしにかかわらず、その人の特性に気付けるようになりたい。」

「否定しないことを心がけているつもりであったが、良い所に気付くことにもっと神経を費やすことが必要であると感じた。」

「今日は、いろいろ考えさせられました。＜中略＞いつも上から目線ではなく、同じ対等な立場で大人同士のお付き合いをしたいと思います。」

こうした意図的・計画的な取組の中でボランティアの自主的な行動が、たくさん生まれてきた。

【ボランティアの自主的な取組】

- ・活動終了後、講師との自発的な振り返り
- ・大正琴の紙鍵盤づくり
- ・発表会に向けたグループ編成のための個々の観察・報告
- ・新しいボランティアへの指導（チューニングや演奏方法等）
- ・ヘルマンハープの楽譜作成
- ・活動内容の提案（誕生日の方をヘルマンハープの演奏で祝う等）

自分たちで考え、アイデアを出し、より良い活動にしていく。
それが、結果として、さわやかおんがく隊への強い帰属感・連帯感につながっていく。



(3) つながる【地域へ飛び出せ、様々な人と共生へ】

ア 地域のイベントに参加、社会福祉法人や特別支援学校と連携

平成30年度は、さわやかちば県民プラザ内のアゴラ（吹抜けの広い空間）で発表会を行った。また、令和元年度は、地域に飛び出して特別養護老人ホームを訪問し、演奏会も行った。演奏会開催にあたって、いくつかの近隣施設に連絡をとった。その中で、演奏会をさせていただいた施設は、「障害者支援を推進していきたい」という考えをもっていた。何のために活動しているのか目的をしっかりと相手に伝えることは、活動を広げていく上で重要だ。

さらに、県が主催する「障害者の生涯学習推進フォーラム」では、県立特別支援学校の音楽部と合同合唱も行った。発表する場を設けること、地域に飛び出し、様々な人たちと関わっていくこと。それらは、受講生の練習の成果を発揮する場となるだけでなく、やり終えた後の達成感や満足感につながった。



以下、発表会等の開催についてのメリット・デメリットを挙げる。

場所	メリット	デメリット
所内	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルが可能。 ・アナウンスがしやすい ・集客が見込める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化がない。 ・活動に広がりを持ちにくい。
所外	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く活動の様子を知ってもらえる。 ・相手意識が高まり、モチベーションが上がる。 ・地域での応援団が増え、つながりが広がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルができない。 (見通しが持ちにくい。) ・準備・移動に負担がかかる。(費用面も)

さらに、保護者とのつながりも重要である。活動内容への賛同はもちろんだが、受講生の送迎や持ち物の準備等を含め、保護者の理解や協力が必要である。そこで、毎回「さわやかおんがく隊通信」を発行・配付している。

活動内容だけではなく、受講生の頑張りや成長した点を伝えたり、嬉しかった出来事等をより具体的に伝えたりするようにしている。「さわやかおんがく隊通信」をとおして、少しでも活動の様子が伝わり、保護者の方々とつながりを持てればと考えている。(※資料(4)「さわやかおんがく隊通信」参照)

イ 「教わる」から「教える」側へ、「受ける」から「与える」側へ

(ア) 受講生が活動を支える役割をもつ

①会の進行

はじめの会やおわりの会は、隊長が進行を行っている。台本を用意しているが、あくまでも隊長の言葉を大切にしながら進めていく。

②受講生の主体性を引き出すピアサポーター

受講生自身がピアサポーターとなり、お互いに教え合うといった協働的な参画を進めてきた。最初は、こちらが手本を示す。そこから、少しずつ役割を与えてやらせてみる。すると、テンポをとったり、やり方をアドバイスしたりするなど受講生同士が、自然に関わり合う姿が見られるようになってきた。焦らず、慌てず、根気強く。できたことを、やろうとしたことを認め、褒め、励まし続ける。

受講生の特性を見極めつつ、見通しをもって取り組んでいくことが、大切である。

(イ) 発表会や演奏会の実施

「感動した!」「とても素晴らしい演奏だった!」

自分たちの演奏が、誰かに喜ばれる。この誰かの「喜び」は、結果、自分たちの喜び、自信、生きがいとなって返ってくる。

「もっとコンサートに出て、たくさんの人に聴いてほしい」

この受講生の声が、明日への活力となる。



3 成果と課題

(1) 成果

活動とネットワークの広がり	
活動内容	ヘルマンハーブに加え大正琴、合唱、トーンチャイムに挑戦してきたことで、活動の広がりを持つことができた。また、いくつか活動の選択肢があることで、受講生の実態に合わせて活動を選択できるようになった。それにより、受講生の意欲が高まった。
発表の場の確保	さわやかちば県民プラザ内での発表会だけではなく、他施設で発表会を行うことで、その施設の方だけではなく、地域の方々の参観もあった。 結果、地域の方々との触れ合いの場となり、活動を普及・啓発していくきっかけとすることもできた。また、参観者からいただく前向きな感想や反応は、受講生の達成感や満足度向上につながった。
受講生やボランティアの成長	
受講生	はじめの会やおわりの会は、自分たちで行った。また、講師やボランティアから教えられるだけでなく、受講生同士で教え合うなどお互いに学び合う姿勢が生まれてきた。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、合唱活動は、自粛していた。しかし、受講生の「合唱をやりたい！」という強い要望を受け、ソーシャルディスタンスの確保、マスクやフェイスシールドの着用等、新型コロナウイルス対策を徹底して合唱活動を少しずつ再開した。 「やらされている」という受動的な姿勢ではなく、「これがやりたい」という能動的な姿勢が、このような部分からも感じられた。
ボランティア	反省会や意見交換の場で自分たちの考えを伝え合うことにより、活動への参画意識が高まった。また、楽器に関する指導方法等のワークショップや特別支援教育理解のための研修会の実施で、より適切な声かけや関わり方をすることができるようになった。 結果、さわやかおんがく隊に対する帰属意識や活動に対する満足度が高まり、ボランティアの継続・定着につながった。

(2) 課題

継続的な活動のための人・物・場所の確保	
人 (講師・ボランティア)	講師やボランティアの確保は、活動における生命線である。継続的かつ安定的に活動してもらえるように、やりがいを感じられる環境をつくるだけでなく、一人一人の負担感を減らしていくことも必要である。
物 (楽器)	音楽活動を実施するためには、楽器の確保が必要である。楽器確保には、金銭面の課題を避けて通ることはできない。 受講生からの会費の徴収や、地域の施設において無料で借り受け可能な物品の有無について調査して、金銭面の負担を減らしていくことも考えていかなければならない。
場所	活動場所の確保は、物の確保と同様、金銭面の課題も生じてくる。また、活動によって確保すべき場所も変わってくる。活動内容に沿って、受講生が活動しやすい場所を確保していくことも、継続的かつ安定的に活動していく上で重要な課題である。
人材の育成	
受講生	自立した活動を目指していく上で、受講生の育成は必須である。まずは、受講生の特性を正確に把握する。そこから、意図的・計画的に個々の支援をしていきながら、役割を与えていく。その中で、受講生自身がピアサポーターとなり、互いに教え合い、高め合える場の確保も必要である。 「できることは、自分たちでやる」長く活動していくために、継続的に考えていかなければならない課題である。
ボランティア	知的障害者が対象となる活動では、ボランティアの方々のサポートは欠かすことができない。さらに、受講生の特性は多岐にわたると考えられるので、特別支援教育の知見も必要となってくる。楽器の指導方法だけではなく、特別支援教育に関する研修会等を、ボランティアのニーズに合わせて継続的に行っていく必要がある。だからこそ、近隣の特別支援学校とのつながりを作っていくことは重要である。ボランティアのモチベーションや意欲を大切にすることが、この活動の充実につながる。



※コラム5 ☆☆さわやかちば県民プラザ講座・イベント情報☆☆

さわやかちば県民プラザでは、「学ぶ」「関わる」「観る」という3つの観点から、様々な講座・イベントを行っています。
講座・イベントの詳細は、右のQRコードから⇒⇒⇒



4 まとめ

さわやかおんがく隊の活動をきっかけとして、学びの中から楽しさに加え「わかった」、「できた」という喜びを味わうとともに、「こんなことをやってみたい」、「これについてもっと知りたい」という学ぶ意欲が高まっていった。さわやかおんがく隊の活動をとおして、つながりから、さらなる学びへの視野を広げることで、生活がより豊かになった。このように、さわやかおんがく隊の活動は、受講生はもちろん、ボランティアや講師など、さわやかおんがく隊に関わる多くの方々の喜びや笑顔、つながり、学びを生み出している。

最後に、おわりの会でさわやかおんがく隊の隊長が、必ず受講生に伝える言葉を紹介する。

「また明日もお仕事頑張りましょう。」

この言葉は、生活の中に「さわやかおんがく隊」があることにより、働くことへの意欲が高まったり、生活が豊かになったりしている証である。また、生きがいの1つとして、「さわやかおんがく隊」が位置付けられている証でもある。

今後も、障害者の生涯を通じた学びを充実させるために、このような活動の普及・啓発を進めていきたい。



【問合せ先】 さわやかちば県民プラザ 事業振興課

〒277-0882 柏市柏の葉 4-3-1

TEL : 04-7140-8611・8615

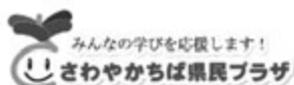
FAX : 04-7140-8601



🔍 プラザ Web サイト <https://www.skplaza.pref.chiba.lg.jp> 県民プラザ 検索

🐦 📘 📷 Twitter、Facebook、Instagram で
最新情報を発信しています

@kenminplaza 検索

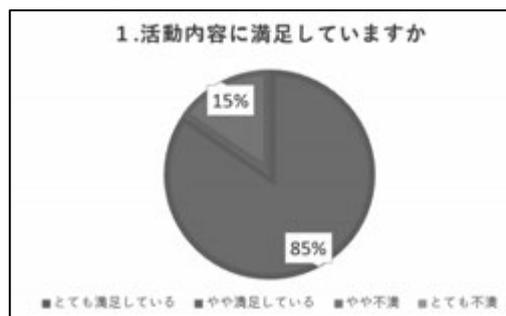


5 令和元年度アンケート（受講生・保護者・ボランティア）

ア 受講生（回答13名）

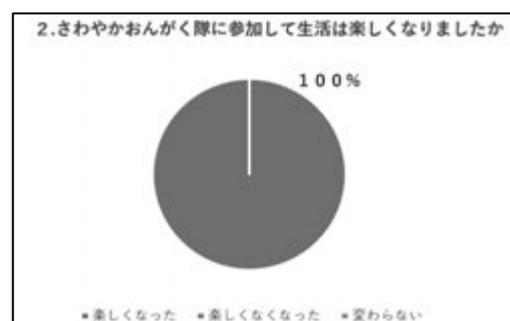
1. 活動内容に満足しているか

- | | |
|--------|-----|
| ①とても満足 | 85% |
| ②やや満足 | 15% |
| ③やや不満 | 0% |
| ④とても不満 | 0% |



2. さわやかおんがく隊に参加して生活は楽しくなったか。

- | | |
|-----------|------|
| ①楽しくなった | 100% |
| ②楽しくなくなった | 0% |
| ③変わらない | 0% |



3. 学びたいこと、やってみたいこと

- ①ある（複数回答）
- ・地域行事参加 2名
 - ・仕事に必要な技術を身に付ける 3名
 - ・生活に必要な技術を身に付ける 1名
 - ・スポーツ 4名
 - ・音楽や劇、絵画等の文化芸術 6名
 - ・レクリエーション 3名
 - ・学んだ内容を深める 2名

イ 保護者（回答16名）

1. 活動内容について

- ・一生懸命でとても楽しそうでした。
- ・本人がとても楽しみにしていて、本当に好きな活動で本人にはなくてはならない生活の一つに思える。また、隊員という自覚と喜び、本人の自信につながっている。
- ・家族以外の皆さんと関わることができ、社会とつながる大切な機会となっている。
- ・練習に行って、先生方にほめてもらうことがうれしく思っています。
- ・さわやかおんがく隊に参加することに喜びを感じているのを感じ取れる。

2. 活動が、お子様の生きがいや楽しみにつながっているか

- ・毎回楽しみにしていて、自分も参加するのが当然だと思って喜んで他の方々に話をしてしている姿を見て、とても生き生きとしている。
- ・発表する場があり、目標に向かって練習するとてもいい機会。
- ・他のイベントや予定をキャンセルして、さわやかおんがく隊の活動に参加している。本人にとり、一番の楽しみなのだと思う。特に隊長として周りの方々から期待され、必要とされていることが何よりの生きがいになっている。協力して隊の一員として歌うこと、演奏することが楽しいのだと思う。
- ・休日に出かける楽しみ、また、他の仲間とで、帰りに買い物や、喫茶で飲んで帰れる。
- ・週末の余暇活動としてちょうどいい感じですよ。子供のリフレッシュになっていると思います。

ウ ボランティア（回答6名）

1. 参加した動機

- ・音楽に関するサポートなので興味があった。
- ・自分が、音楽が好きで、音楽を通し、知的障害がある方が生きがいや楽しみをもてるよう、お手伝いがしたかった。
- ・大学で社会福祉のことについて学んでいて、障害者のことも学んでいるので、実際に関わることができたらと思い参加した。
- ・さわやかおんがく隊に入隊していた友達ボランティアに誘われた。

2. 活動内容について

- ・受講生が生き生きと大声で歌っている姿に感動した。
- ・合唱はとてもよかった。身体的な障害があっても、声さえ出せば優劣の差を感じさせないし、皆とても楽しそうだった。
- ・合唱、ヘルマンハーブ、大正琴とそれぞれ得意・不得意があるようでしたが、どれもできないという方がいなかったのでもよかったと思います。この3つより多くても大変だと思ったのでちょうどよかったのかなと思いました。



6 参考資料

(1) 令和2年度当日の流れ (例) (講師・ボランティア配付用)

令和2年度「さわやかおんがく隊ワークショップ」当日の流れ

令和2年〇月〇日 (日)

- 目 標 : ①コロナ対応を徹底し、安全・安心を第一とする。
 ②自主活動タイムを設け、受講生の主体性を引き出す。
 ③トーンチャイムや合唱を楽しくできるように支援する。
- 場 所 : さわやかちば県民プラザ 3階 大研修室、中研修室1、中研修室2
- 時 間 : 9時～12時 (活動は10時～12時)
- 当日担当: (全体掌握)、 (受付、講師・受講生・ボランティアサポート)

1. ワークショップの動き

時 刻	動 き	内 容	メモ
8:50	開場・準備	・会場準備 () 掲示物・座席表・名簿・名札等の準備 トーンチャイム・ヘルマン運ぶ	・コロナ対応チ ェクリストに基 づき消毒等
9:00	講師・ボランティア来所	・講師・ボランティア打合せ ・本日の WS 内容について () 分担等の確認 (ヘルマン or トーン) ・講師の先生から () ・会場準備 (机・椅子等) ・ヘルマンチューニング ()	受講生受付検温 () 名簿チェック ()
9:30	ヘルマンハーブ自主練 【中研修室1】	・来所した受講生に声かけ ・希望者は、ヘルマンの練習	ヘルマン支援 ()
9:50	受講生誘導 【大研修室】	・出欠チェック・名札着用 ・体調管理チェック ※忘れた方には、受講者チェックシート ・座席表に従い着席 ※隊長 () さん 副隊長 () さん	・受付 () ・名札は座席へ () ・体調チェック ・隊長等に声かけ ()
10:00	はじめの会・移動10 (進行:)	・今日の流れを確認2 ・ コロナ対応 確認1 等 ・移動	
10:10	トーンチャイム練習 35 【大研修室】	・トーンチャイム練習 () 先生)	
10:45	休憩15 ヘルマンハーブ自主練	◆トイレ、手洗い、うがい、消毒 ◆ヘルマンハーブ自主練習	
11:00	合唱練習 30【大研修室】	・合唱練習 () 先生) ※ソーシャルディスタンス等確認	
11:30	おわりの会10	⑤おわりの会5 ・アンケート記入・回収 () ・次回の連絡 () ・隊長のお話 () さん)	・アンケート 配付 () ・つうしん配付 ()
11:40	解散	・ボランティアは受付にて名札回収 ・職員は速やかに解散を促す	・名札回収 () 先生)
11:45	スタッフ反省会 【大研修室】	①受講生の動きはどうか? ②特に配慮が必要な点は? ③時間配分はどうか? ④サポーターの支援方法はどうか? ⑤次回の活動内容は? ⑥その他	
12:00	片づけ・終了	・机椅子等の消毒は、清掃員の方が行う	

(2) 令和2年度ボランティア募集チラシ

一緒に音楽を楽しみませんか？

ボランティア募集!

「さわやかおんがく隊ワークショップ」で一緒に活動するボランティアスタッフを募集します。高校生からシニアの方まで、音楽好きの方、ボランティアに興味のある方、初めての方、どなたでも大歓迎!

さわやかおんがく隊のメンバーとともに、音楽を楽しみましょう!!

さわやかおんがく隊ワークショップでは、ヘルマンハーブや大正琴等の楽器演奏を含めた様々な音楽活動を、仲間と一緒に楽しみながら行います。

* ヘルマンハーブは、楽譜を読むことが苦手な方でも手軽に演奏できる楽器です。

♪さわやかおんがく隊の保護者やボランティアの声

♪おんがく隊の皆様がやさしいよ! 楽しいよ! との一声が、うれしく思います。

♪参加していることを楽しみにしているようなので、できてほめられることがとてもうれしいようです。

♪ボランティア同士協力しながら、楽しくできたと思います。

♪受講生が生き生きと大声で歌っている姿に感動しました。

“さわやかおんがく隊”は、障害のある人やそれを支える人たちが集い、音楽を通じて、心のつながりや生きがいをもち、豊かな生活を育むことを目的としています。

募集対象 高校生以上の県内にお住まいの方どなたでも(初めての方も大歓迎!!)

活動内容 さわやかおんがく隊楽器演奏のサポート、指導補助、会場準備、活動内容等の打合せなど

* ご自身の都合に合わせて、参加してください。

申し込み 随時受付しています。ボランティアを希望される方は、以下いずれかの方法でお申し込みください。

①Web: さわやかちば県民プラザホームページ ☆QRコードからも申込できます☆

「講座・イベント情報」→「さわやかおんがく隊ボランティア」 →⇒⇒

→「詳細表示」→「Web申込」にて、必要事項を入力してください。

②FAX: 裏面参照

③電話: 裏面FAX記載事項を参考に 04-7140-8615 までお電話ください。

受付時間 午前9時～午後5時

活動日時 * 予定日時や場所、内容は、新型コロナウイルスや施設の開館状況等により変更の可能性があります。

安全・安心を第一に、新型コロナウイルス感染拡大予防に努めながら活動していきます。

	月日	時間	活動場所		月日	時間	活動場所
1	8/23(日)	10:00~12:00	大研修室他	8	12/6(日)	10:00~12:00	大研修室他
2	9/6(日)	10:00~12:00	大研修室他	9	12/13(日)	10:00~12:00	大研修室他
3	9/20(日)	10:00~12:00	大研修室他	10	1/10(日)	10:00~12:00	大研修室他
4	10/4(日)	10:00~12:00	大研修室他	11	1/17(日)	10:00~12:00	大研修室他
5	10/18(日)	10:00~12:00	大研修室他	12	2/7(日)	10:00~12:00	大研修室他
6	11/1(日)	10:00~12:00	大研修室他	13	2/21(日)	10:00~12:00	大研修室他
7	11/15(日)	10:00~12:00	大研修室他	14	3/7(日)	10:00~12:00	大研修室他

問合せ: さわやかちば県民プラザ(事業振興課) TEL 04-7140-8615

資料 (3)

(3) 令和2年度参加確認申込書 (実態調査)

令和2年度さわやかおんがく隊ワークショップ ～参加申込確認書～

さわやかおんがく隊ワークショップに参加します。

下記、記載できる範囲で構いませんのでご協力お願いします。 内は必須項目です。

記入日：令和2年 月 日

ふりがな 保護者氏名		受講生と の関係	父・母 その他 ()
ふりがな 受講生氏名	(男・女)	生年月日	昭・平 年 月 日 (歳)
住所	(〒 -)		
緊急連絡先氏名		緊急連絡先	- -
(1) 認定を受けている障害等級 (該当する項目に記載又は○をつけてください。)			
①身体障害者等級 (級) ②身体障害の種類 ()			
①療育手帳の有無 (有 ・ 無) ②障害の程度 ()			
(2) 既往歴・持病等 ()			
(3) 興味・関心があること、得意なこと、良いところなど (例) 音楽を聴くことが好き、絵を描くことが得意など			
(4) 苦手なことや、されたり、言われたりすると嫌なことなど (例) 見通しが持てないと不安になる、怒られるとパニックを起こすなど			
(5) おんがく隊の活動で期待していること、やってほしいことなど (例) 友人関係が広がってほしい、新しい楽器にチャレンジしてほしいなど			
(6) おんがく隊の活動をする上で不安なこと、知っておいてほしいことなど (例) 文字を読むことが苦手、声(音)が聞き取りにくいなど			
(7) その他、何かありましたらお書きください			

※個人情報の取扱いについては、さわやかおんがく隊ワークショップの活動に関する以外には使用しません。

(4) 令和2年度さわやかおんがく隊つうしん第7号(令和2年11月1日発行)



第7号 令和2年11月1日

さわやかちば県民プラザ 事業振興課

さわやかおんがく隊担当 ○○

「ハッピーバースデートゥーユー〜♪」

終わりの会にサポーターの方の発案で9, 10月誕生日の方のお祝いをしました。

さん、さん、さん、さんが、代表してヘルマンハーブを演奏しました。その演奏に合わせて、みなで（小声で）歌いました。

心がポカポカした、とってもとっても素敵な時間となりました（^^） /

また、トーンチャイムもレベルアップ！！

先生が準備して下さった「美女と野獣」に挑戦しました。

初チャレンジとは思えないぐらい、みな上手に演奏できました。曲の完成が楽しみです！



本日、7回目の活動内容です。

- ①はじめの会
- ②トーンチャイムその1 (講師：)
- ③トーンチャイムその2 (講師：)
- ④おわりの会

次回の活動日時、内容の予定です。

日時：11月15日（日）10時～正午（9時50分前後にお越しください。）

※ヘルマンハーブを練習したい方は、9時30分ごろにお越しください。

場所：さわやかちば県民プラザ 3階 大研修室

内容：@ヘルマン自主練習 ①はじめの会 ②トーンチャイム1 ③トーンチャイム2 ④おわりの会

※内容を変更する場合がありますのでご理解ください。

持ち物：体調管理チェックシート、水筒



5 普及・啓発

普及・啓発

1 普及・啓発について

「学習プログラム開発」の実践や、「コンソーシアム」の取組状況について、各種会議や研修会で情報発信するとともに、「障害者の生涯学習推進フォーラム」の開催や研究報告書の作成を行うことで、県内市町村や各関係機関・団体に普及・啓発を図る。



(1) 各種会議や研修会での情報発信

「市町村障害福祉主管課長会議」や「千葉県生涯学習審議会」等年間約8回の会議と「社会教育担当者研修」や「社会人権教育研修会」等、約5回の研修会にて情報提供を行う。

(2) 「障害者の生涯学習推進フォーラム」

事業を通じて得た成果や情報を周知するとともに、事業にかかわる障害者団体が日頃の成果を発表する場や障害者が自分の思いを発言する場を設けることで、障害者の学びについて周知をする。

ア 主な内容

① 文部科学省他の動向説明

② 各事業報告

a コンソーシアム会議報告

b 特別支援学校における学習プログラム

c さわやかちば県民プラザにおける学習プログラム

③ 発表

a さわやかおんがく隊による発表

b 障害者団体による発表

c 各連携団体の発表 等

※障害の有無に関わらず共に音楽（芸術文化）に親しむ場を設定することで、関心の薄い層も広く巻き込んでいける内容を用意する。



(さわやかおんがく隊)

④しゃべり場（座談会）

障害当事者、ボランティア、教職員、行政による「しゃべり場（座談会）」を開催することで学びについての障害当事者の思いを知り、また、支援にかかわるボランティアの意見を知ることができる場とする。



⑤啓発用DVDの作成

事業の様子を広く周知するために、当日の様子のDVDを作成し、研修会や会議で視聴できるようにした。どの研修会や会議でも視聴した方から「頑張っている様子が伝わってきた」、「大事なことだね」等の感想をいただき、活動の様子を見ていただくのは大切なことだと気付いた。

イ 研究報告書

特別支援学校及びさわやかちば県民プラザにおける「学習プログラム開発事業」の実践や、「コンソーシアム会議」及び「障害者の生涯学習推進フォーラム」の開催結果についての成果をまとめ、県内市町村、特別支援学校、社会福祉法人等の関係団体へ配布し、普及を図る。（約500から600部配布）

《掲載内容》

- ・実践研究事業全体概要
- ・学習プログラム開発1 特別支援学校における取組
- ・学習プログラム開発2 さわやかちば県民プラザにおける取組
- ・コンソーシアム会議報告
- ・障害者の生涯学習推進フォーラム 開催報告
- ・その他、先進事例視察資料 等

《配付先例》

市町村社会教育・生涯学習主管課 市町村障害福祉主管課
特別支援学校 社会福祉協議会 公民館 障害者福祉
県立関係各所 他

6 実践事例

我孫子市湖北地区公民館の取組

6 実践事例 「学び舎 コホミン」の取組

我孫子市湖北地区公民館の事業紹介



愛 称
「コホミン」

1 講座開設までの経緯

(1) 事業者の実践前の状況

○我孫子市湖北地区公民館

川村学園女子大学児童教育学科の教育インターンシップ授業の一環として、我孫子市湖北公民館にて「寺子屋コホミン」を開設し、小学生1から4年生を対象に学びの場を提供する。

障害者を対象とした講座の開設経験はない。

○川村学園女子大学児童教育学科

「寺子屋コホミン」の後援を行い、講師（川村学園女子大学教授「障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム」主査）として参加。学生は、教育インターンシップ生として、小学生の指導に当たり、学ぶ楽しさや達成感を感じる場所づくりを目指す。

○県立湖北特別支援学校

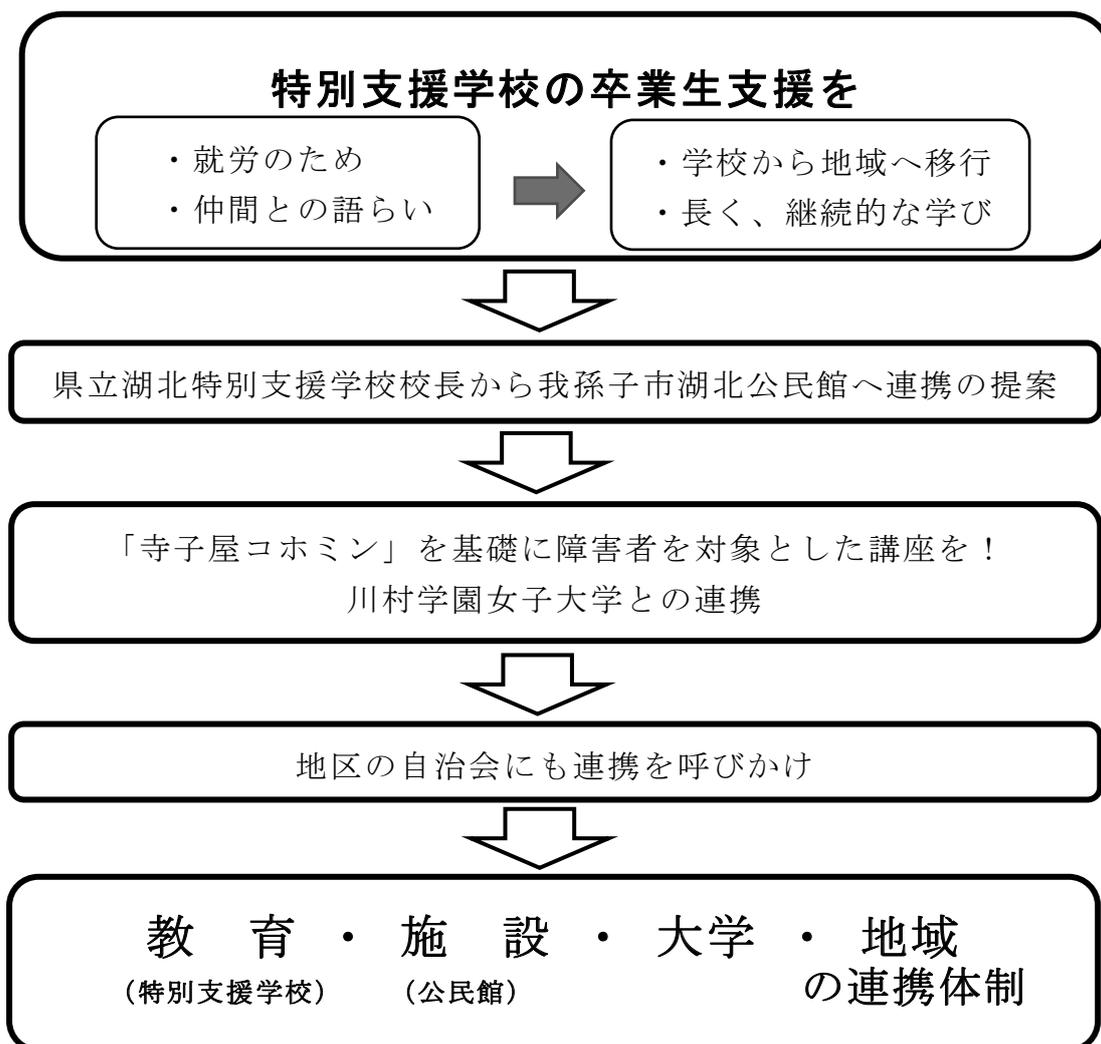
我孫子市湖北地区公民館とは、生徒の実習で連携をしていた。

卒業生の支援は、就労継続の支援が中心。教職員の負担の増加や教職員の転勤(卒業生の知っている教職員がいなくなる)が課題としてあり、就労継続以外の学びへの支援を模索している。

○地区の自治会

元特別支援学校教員が地区の自治会長をしていた。地域での学びの支援のことを理解している。

(2) 事業者の連携



(3) 講座の計画

様々な講座に参加することで、学びの選択肢を広げることができるとともに、達成感や充実感を味わうことで、生涯にわたり、学び続けたいという気持ちを育む。

また、地域との連携をすることで、地域に根付いた活動を目指し、学びの場の継続を目指していく。

①講座の計画（実践研究事業の成果の活用）

《受講者の気持を育てる》

- ・誰もが参加でき、達成感を味わうことができる題材の準備。

(学習プログラム2の成果)

- ・「学ぶ」「楽しむ」「つながる」の各分野を経験し、将来に向けた学びの選択肢を広げる。

(学習プログラム1の成果)

- ・地域の人や仲間との交流を通して、自己肯定感や充実感を味わう。

(学習プログラム2の成果)

《存続可能な取組とするために》

・地域との連携をすることで、生涯学習講座の講師やボランティア、地域の協力を得る。 (連携体制の取組の成果)

・受講者へのアンケートと事業者の振り返りを次へ生かす。

(学習プログラムの成果)

②講座の年間計画 (年度当初)

5月 開講式

6月 ボッチャ

7月 電子レンジを使った簡単な調理

(川村学園女子大学 生活文化学科 講師として連携)

9月 ボディーパーカッション

(川村学園女子大学 生活文化学科 講師として連携)

10月 我孫子の鳥 (鳥の博物館)

(我孫子市鳥の博物館 講師として連携)

12月 上手な買い物 閉校式

(川村学園女子大学 生活文化学科 講師として連携)

※感染症の影響で計画変更

9月 ボディーパーカッション

11月 ボッチャ

1月 音楽 or 電子レンジを使った簡単な調理

③役割分担

公民館

活動場所の提供・運営・募集

特別支援学校

卒業生の支援・用具の貸与

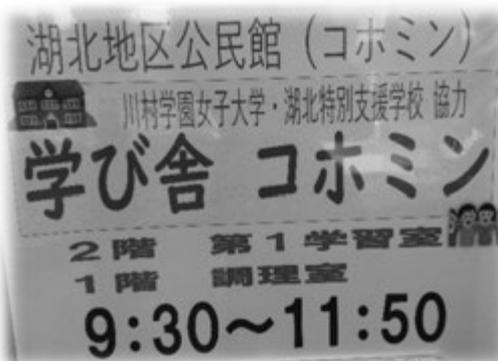
川村学園女子大学

支援者 (教員を目指す学生)

コンテンツの提供

地域の人材

運営や講師、支援者として



2 講座の実施

(1) 講座のながれ

① オープニング

- ・主催者挨拶
- ・自己紹介ゲーム
(主催者や支援者・保護者等も参加)

② 活動

- ・チーム・グループ分け
(受講生を中心に支援者や保護者も参加)

③ エンディング

- ・感想発表
- ・アンケート記入
- ・館長より
- ・次回の予定

※終了後、主催者、支援者等による反省会



「ボディーパーカッション」

ドレミパイプ

(2) 講座の様子

今年度から始まる講座であり、地元特別支援学校卒業生の十数名が登録している。感染症の影響により、実施内容、時期を考慮しながらの取組となっているとともに、受講生自ら自粛している様子も見られた。来館方法は、公民館の立地条件も関係しているところもあり、家族の協力を得る方がほとんどである。保護者は見学や講座修了時に迎えに来るなどさまざまである。

ア オープニング

オープニングは、決して堅苦しいものではなく、実施者が和やかな雰囲気を意識した進行で始まり、アイスブレイクを兼ねた自己紹介ゲームで、受講生、支援者の緊張をほぐすところから始まる。

イ 活動

活動は、誰もが気軽に取り組むことができ、満足感や達成感が得られるものを行った。支援者は、支援だけではなく、支援をしながら一緒に参加し、共に楽しむことができるようにチームやグループを作り取り組んでいくことで、次第に打ち解け、交流を深めている姿を見ることができた。

また、ポッチャでは、見学していた保護者も参加し、親子共にリフレッシュできていた。保護者にとって子供が学校を卒業してから相談す

る相手も少なくなり、日頃の悩みを話す場やストレスを発散する場にもなっていた。

ウ アンケート

「久しぶりに楽しかった。これからも参加したい」など、前向きな意見が多く出てきた。また、保護者にも聞き取りをすると、「これからも継続して実施してもらいたい」という意見も聞くことができた。

エ 反省会（主催者、実施者、支援者）

- ・子供たちの再会の場、保護者の再会の場となり貴重である。
- ・卒業後は、身体を動かす機会が少ないので、大切な活動である。また、活動を通して、全身で喜びを表現している姿は印象的であり学びの場の必要性を再確認できた。
- ・特別支援学校等で実施している題材が良いと感じた。用具の借用がしやすい。
- ・人と人、人と地域をつないでいくことが取組を存続していくうえでは大切であると感じた。
- ・取り組む題材は、受講生の居場所づくり、学びの場を意識することが大切であり、その時の受講生や社会状況を考慮して柔軟に対応できているので良かった。

「ボッチャ」
特別支援学校から用具借用



ボディーパーカッションのリズム打ち

3 今後の課題

- ①特別支援学校における生涯学習の教育課程へどのように位置づけていくか
- ②参加者による企画・運営へとどのように移行していくか
- ③地域の参加者へとどのように広げていくか

4 実践を終えて

○我孫子市湖北地区公民館

始めは、近隣の児童生徒に対して「寺子屋コホミン」という名前で学習の場を提供していた。そこを基に、近隣にある湖北特別支援学校から声がかかり、「学び舎コホミン」の取組に参加した。地域で取り組んでいた「寺子屋コホミン」の取組が今回の取組で、地域とつながったことで障害者の生涯学習に結び付いてきた経緯がある。

○県立湖北特別支援学校

障害者の生涯学習を実施するには、地域と場所、人材が必要である。湖北地域は、場所を提供してくれる公民館、講師や支援者を派遣してくれる大学、地域の協力がバランスよくまとまっている。取組で大切なのが、この3つの存在であると考えている。

○地区の自治会（地域住民）

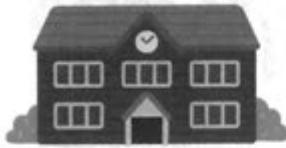
学びの場を作るには地域の協力者が必要である。その地域の協力者が地域の力となり、その協力があつてこそ障害者の生涯学習講座が長く続く取組となる。地域の力を借りることが長く続けるコツである。

○川村学園女子大学

障害者の学びの場を立ち上げるのは、大学だけでは難しいと感じていた。そんな折に、特別支援学校や公民館、地域の方が協力をしてくれたので立ち上げることができた。地域や周囲に人材をいかに巻き込んでいくかが大切であり、みんなで行きとよい。

特別支援学校等の卒業生のみなさん！

ま な び や



学び舎コホミン

で、一緒に学びませんか？

仲間とゲームやスポーツをし、これから役に立つことを勉強しましょう！

令和2年度秋学期(9・10・11月)の参加者を募集します。



主催

湖北地区公民館(コホミン)

協力

前吾妻台自治会長 柳野 敬夫
川村学園女子大学 向野 光
大坂香保理
奥田 順也
千葉県立湖北特別支援学校
小倉 京子
福田 和司

持ち物

・筆記用具 ・上履き
・マスク ・飲み物

★スタッフはマスクを着用し、検温、体調の確認をします。

★ご不安を感じられる場合は、参加をご遠慮ください。

実施日・内容:

9月12日(土)(自己紹介ゲーム, ボッチャ)

10月10日(土)(ボディパーカッション)

11月14日(土)(電子レンジでお菓子づくり)

時 間: 9:30~11:50

場 所: 第1学習室又は調理室

対 象: 特別支援学校卒業生等

定 員: 20名(先着順)

参加費: 500円

持ち物: 筆記用具

※参加者の検温を実施します。



申込: 以下の4つのうちのいずれかでお申込みください。

① 応募フォームから(コホミンホームページ, チラシのQRコード)

② コホミン窓口で

③ お電話で

④ FAXで(裏面の様式で川村学園女子大学・向野(むくの)研究室へ)

※②③でお申し込みの場合、講座名(学び舎コホミン秋学期)・参加者氏名(よみがな)・学年・卒業した学校・住所・電話番号・年齢をお知らせ願います。

要メールアドレス



●引き続き、感染症対策にご協力ください。



& ①マスクの着用
②距離の確保
③使用人数制限

我孫子市湖北地区公民館(コホミン)

〒270-1122 我孫子市中里 81-3

TEL 04-7188-4433

FAX 04-7188-7720

指定管理者 アクティオ株式会社

ホームページ



コホミンチャンネル (YOU TUBE) はこちら

VOL.1 練功十八法(前段)
VOL.2 元気にドレミ
VOL.3 太巻き祭りずし
(あじさい)





川村学園女子大学 後援 ～寺子屋コホミン～（後期）

川村学園女子大学 教育学部の学生が、小学生に学ぶ楽しさや達成感を感じる場を作ります。

令和2年度の後期（9・10・11月）の参加者を募集します。

講師

川村学園女子大学
教育学部 学生

当日の持ち物

- ・筆記用具
- ・マスク

実施日：9月26日・10月24日・
11月28日（全土曜日）

時間：10:00～11:30

場所：第3学習室

対象：小学生（1～4年）

定員：20名（先着順） ※3回参加できる児童

参加費：無料

持ち物：筆記用具，マスク

※参加者の検温を実施します。



★スタッフはマスクを着用し、検温、体調の確認をします。

★ご不安を感じられる場合は、参加をご遠慮ください。



要メールアドレス

申込：以下の3つのうちのいずれかでお申込みください。

- ① 応募フォームから（コホミンホームページ，チラシのQRコード）
- ② コホミン窓口で
- ③ お電話で

※②③でお申し込みの場合，講座名（寺子屋コホミン後期）・参加者氏名（よみがな）・保護者氏名・学年・在籍校・住所・電話番号をお知らせ願います。

湖北地区公民館（コホミン）

〒270-1122

我孫子市中里 81-3

TEL:04-7188-4433

指定管理者 アクティオ株式会社

ホームページ



コホミンチャンネル （YOU TUBE）はこちら

VOL.1 練功十八法（前段）

VOL.2 元気にドレミ

VOL.3 太巻き祭りずし

（あじさい）



7 成果と課題、共生社会への思い

成果と課題、共生社会への思い ～コンソーシアム委員から～

1 3年間の取組を通しての、成果と課題

(1) 成果

- ・学校の学習活動に協力したいという地域の個人や団体を開拓することができた。
- ・学校が何を求めているか具体的に発信することが必要だと感じる。
- ・公民館が地域の窓口の役割を担うことができるかもしれない。
- ・公民館を通して、学校支援サポーターを始め、講座の講師など、地域で活躍している人材を紹介してもらうための連携体制づくりをしていきたい。

- ・地域のランドマークとなる学校づくりの基礎の一つとして、「生涯学習支援」という柱ができた。
- ・教育と福祉が垣根を越えて協働することが可能であると実践をもって示すことができた。

- ・特別支援学校とさわやかちば県民プラザにおいて3年間継続的な取組を実施することをとおして、モデルプログラムの開発や運営体制の整備、関係機関との連携の意義・方策等について、多くの示唆を得ることができた。

～例～

○市川大野高等学園

障害者のニーズに基づいて、いくつかの選択メニューを示したこと、実施に当たって地元の公民館等と連携して指導に当たるボランティアを確保したこと。

また、長期的な視点に立って体制づくりを進め、運営面を含めて、他の特別支援学校にとっても参考となる取組をされたこと。

○さわやかちば県民プラザ

継続的な楽器演奏活動への支援、障害者自身による自主的な運営、ボランティアによるサポートなど、今後、障害者の学習活動を県内に広げていく上でも参考となる取組がなされたこと。

- ・生涯学習支援ということで市川大野モデルが考えられたことは一つの成果である。

- ・障害者(当事者)を委員に選出していただき、当事者からの意見も取り入れてより障害者が「どんなこと思っているのか?」や「学びの場に何を求めているのか?」を、支援者や専門家で考えるのではなく、障害者の意見も取り入れ、学びの場(障害者の生涯学習)を提供していくことは、とつてもよかったと思う。

- ・ 障害者への生涯を通じた学習支援は、「大切である」、「協力したい」といった思いをもっている方が多くいるということが分かった。
- ・ 障害者の生涯学習の講座は、参加した障害者とともに作り上げていくものだとということを感じた。

- ・ 特別支援学校における取組、またさわやかちば県民プラザにおける取組、共にとても素晴らしく、今後このような講座を千葉県全体に普及させることが共生社会の実現の一步と考える、今事業を、広く広めるには多くのボランティア、また連携やネットワークづくり、地域の理解などの多くの重要性を感じた。

- ・ 仕事場と家との往復だけでなく、受講生に新たなコミュニティの場として楽しんで活動する場を提供できた。
- ・ 活動を楽しみつつ、様々な人とコミュニケーションをとったり、目標に向かって頑張ったりすることで、受講生やボランティアの帰属意識や自己肯定感を高めることができた。
- ・ 受講生がどんな時でも笑顔で楽しく過ごす姿が私自身のエネルギーに繋がっている。受講生の方々が「またやりたい」「次も楽しみにしているね」と声をかけてくれることがとても嬉しく、実施していて良かったと感じる。また、音楽は障害や年齢、性別を問わず音楽が持つ偉大なパワーを改めて感じ、発表をすることでたくさんの方々に音楽の素晴らしさを伝えられた時は本当に良かったと思う。
- ・ 事業者や講師、ボランティアは、物事を純粋に楽しむ心や、何事にも一生懸命に取り組む姿など、受講生の言動からたくさんのことを学ばせてもらった。

- ・ 障害者の生涯学習支援に企業サイドとして具体的に何をどのように貢献していけるのか、当初はなかなかすっきりとイメージができなかったが、コンソーシアム会議での議論や市川大野高等学園プロジェクトの「生涯学習支援連絡協議会」への参加等を通じ、徐々に1つの方向性が見え、大まかなフレームワークを組み立て、いよいよ実行計画づくりの段階へ！というところまで漕ぎ着けた矢先の新型コロナウイルス。何とも中途半端な状態のまま、ほとんど動きが取れない状況が想定以上に長く続いてしまっている現状が大変残念である。

いずれコロナ禍も落ち着いていくことにはなるだろうが、今はこの火が消えてしまうことのないよう適度に燃料を補給しつつ、ときが訪れたらすみやかにアクションに移行できる準備を怠らないよう留意していくことが肝要だと考える。

(2) 課題

- ・ 障害者本人が参加したいと思うことが大切。そのためには在校生へのアプローチ、卒業生へのアプローチ、講座を実施する団体へのアプローチが必要。
- ・ 在校生に対しては、在学中の学びが地域とつながっていること、学ぶことや挑戦することが楽しいと感じる授業を実践すること。
- ・ 卒業生に対しては、情報提供や相談体制を充実させて個々のニーズに対応していくこと。
- ・ 生涯学習講座については、一度に多くの人を集めるのではなく、卒業生が選択して参加できるよう、小規模の講座をコンスタントに提供していきたい。
- ・ 講座を実施する団体に対しては、障害者への理解、配慮の方法などを参加する障害者本人と一緒に考えていくことが必要。

- ・ 本校の学区が全県に及ぶことから、卒業生のすべてを網羅することは難しく、対象が限定的にならざるを得ない。
→将来的には本校と柏井公民館の取組を全県に波及させる必要がある。
この場合、普及に至るファクターとして、本校在学中に学習し、実践・経験した卒業生が各地域で大きな役割を果たすのではないかと。

- ・ 生涯学習についての広告の方法が課題だと思います。大半の特別支援学校卒業生や障害がある方は、障害者就労・生活支援センターや民間の就労センターなどに登録しているので、そちらからの連絡で障害者や保護者は、情報を入手している。そうした機関と連携するともっと情報を広げられると思う。

- ・ 障害者の学びの意識をどのように高めるか。そのためには、障害者の身近なところ（居住地域）に学びの体制や環境が整っていることが大切であり、社会教育施設に向けて障害者が学びたいと意思を示した時、すぐに対応できるようにすることが大切である。そうした環境を整えていくことが必要となっていると思う。

- ・ 公民館で講座を実施する際の問題点として、県内すべての地域で講座を開催するのであれば、地域性、また持続性・継続性など考えると、公民館の予算的、人材的問題等も多数あり、当初は県などにおいて持続してサポートする体制が必要なのではないか。また、地域にもよるが、参加者が少なく、講座自体が実施できない場合も考えられる。学生時代の若い時からの一生学ぶという、そういった受講者の環境づくりも大切ではないかと思う。
障害者の卒業後の生徒に対しての生涯学習についてとのことだったが、様々な委員の方の様々な意見があり、とても勉強になった。

- ・継続的かつ安定した活動を行うためには、人、物、場所の確保が必要である。そのマネジメントをする人材の確保及び育成が課題である。
- ・受講生一人一人の障害を理解しながらの受講生、サポーター、指導者との連携が課題。満足感が得られるような時間にしつつも、どの程度のサポートが必要なのかを見極めながら、互いに連携を図ることが円滑な運営に必要であり、一番難しい。
- ・障害者の方を適切に支援するためには、個々のアセスメントが必須である。障害者の方と共に活動していくためには、ボランティア精神だけでは、足りない。障害者の方の特性を理解するための研修会等の場を設けたり、自ら学び、特別支援の知見を高めていったりする必要がある。

- ・今後、障害者にとっての身近で参加しやすい場における学習機会を提供する上で、公民館の果たしうる役割は大きい。その際、障害者が主人公であるという立場から、障害者の自主的な運営を奨励・支援すること、ボランティアを確保し、コーディネーターの資質向上を図ること、障害者福祉の部局や障害者のNPOをはじめ、関係機関・団体との連携・協力を推進することなどに留意する必要があると思われる。

なお、職員は2～3年で異動するケースが多いので、担当職員が変わっても、しっかりとバトンタッチができるようにすることである。そのためにも、市民による自主的な運営への移行を含めて、自立した運営体制を作っていくことが重要であろう。また、自主サークルへの移行を図り、移行後も公民館が支援することも考えられる。

また、全県的な交流・ネットワークの形成を図ること、社会教育委員や公民館運営審議会委員の会議や研修会で取り上げること、関係者・県民に対する積極的な情報発信をすること、新型コロナパンデミックの教訓から学ぶことなども重要と考える。

2 今後の理想や目指す共生社会とは？

- ・この3年間の実践研究で、生涯学習の考え方を広く知ってもらえたかもしれない。
- ・母校で生涯学習講座を実施することで、学びのきっかけづくりやニーズの把握は可能になる。次のステップとしては、学校で実施する生涯学習講座に地域の方も一緒に参加する。その次のステップとして、生涯学習講座を公民館など、学校以外の場所で実施する。さらに次のステップとして、障害者が一人で地域の活動に参加する。
- ・今後は、一人一人の学びたいこと、学びたい場所等、個々の望むライフスタイルや性格に応じて、本人の自己実現を地域の中で図っていくことが共生社会を着実に実現していく方法なのではないか。

・「今後の理想」は、特別支援学校は、地域のランドマークを目指す。
それは地域の学び場であり、地域文化の伝承の場であり、地域コミュニティーの場であり、地域防災の拠点でもある。そんな地域と一体化し、暮らしの中で当たり前かつなくてはならない存在を目指す。

・障害者が住みやすい社会は、すべての県民にとっても住みやすい社会である。
この観点から、障害者と健常者が、お互いを尊重し合いながら、共に学び、力を合わせて新しい社会を築いていくことが求められている。
このため、市民が障害者とともに、障害者の立場に立って活動する中で学ぶ機会を広げることも有益であろう。

・障害がある人もない人も、自分の住む地域のサークル活動などに自由に参加できるように、地域においてそのようなサークル活動が複数設置されること、あるいは必要に応じた個別活動ができる環境が整えられていることを期待したい。各市町村で進められていることを参知しているが、まだまだと思っている。

・県内の市町村や地区ごとで障害者のための学びの場を提供して、多くの障害者が居住している地区で参加できるようになるととても嬉しい。
また、開催する際の準備などに障害者当事者の意見や委員（担当）に入れていただくと共生社会がもっと豊かになると思う。

・共生社会という言葉が、「そういえばそういう言葉もあったな」と思えること。
そのためにも、身近に学べる環境があり、思った時に学べる環境が必要だと思う。また、来年度、東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、パラアスリートたちの活躍が取り上げられる機会が多くなっている。こうした機運の高まりの中で一気に推進できるといいのかなと思う。

・共生社会とは、これまで社会参加できない障害者などが、積極的に参加貢献できる社会、誰もが人格、個性など尊重し、多様なあり方を認め合える全員参加型の社会である、一見、共生社会という言葉は、誰も反対しない、とても響きがよい言語だが、本音ではどうかと考えたとき疑問がある。生涯学習の機会があって、様々な人たちと接することのできる場所ができ、一緒の時間を過ごせば障害のある人ない人も理解できるのではないかと、この様な障害者の学習事業に関わった人、また講座など参加した人、このような方が増えれば共生社会の実現に向け一步一步前進していくのではないかと考える。そして共生社会が進めば、個々の人生がよりよい充実した生活が送れるのではないかと考えている。

- ・県内だけでなく全国様々な場所で障害のある方が参加できる事業が増え、多くの方々と繋がりがもてるようになってくれたらと思う。どこにいても、いつでも、地域での活動に参加できるようになってほしい。また、サポートする側も一緒に学んでいきたいという考えで、障害のある方と一緒に活動していく意識を高められるような機会になってほしい。
- ・このような取組が、各地に広まっていく。その広がりから、新たなつながりや活動が生まれていく。そういった正のサイクルが、無理なく自然と生まれていくのが理想である。その中で、障害の有無に関わらず、共に楽しみ、共に学べる場がたくさん増えていくことが、目指すべき共生社会だと考える。

- ・生涯学習という「時間」軸での議論は、これまでは各関係主体がバラバラに、まさに「点」でのみ、なされてきたと言える。そこから本研究事業の推進によって、「点」と「点」が次第に有機的に繋がり始め、連携という「面」に進化し、少なくとも千葉県では、相乗的な議論がなされる状況になったのではないかと思う。とても素晴らしいことである。
ただ、生涯学習の主体はあくまでも障害のある当事者であり、「面」による支援計画や提供施策が押し付け的なものであってはならないと考える。当事者の主体性を尊重し、当事者のニーズを最大限踏まえた、出来るだけ多くの機会や多様な選択肢を用意し、長い時間軸の中で自己決定を支援する姿勢を貫いていくことが、障害者の生涯学習に関わるすべてのステークホルダーに求められる共通の考え方であり、共生社会実現への正しい道筋ではないだろうか。

8 令和3年度の取組

学校卒業後における障害者の学びの支援事業

令和3年度の取組

令和3年度 学校卒業後における障害者の学びの支援事業

1 目的

「学校卒業後における障害者の生涯にわたる学びの支援に関する実践研究事業」で得た成果を県内各地に普及させることで、障害者が自身の生活地域で生涯にわたり学び続けることができる環境を整え、共生社会を推進する。

2 概要

県の生涯学習センターである「さわやかちば県民プラザ」内に「障害者の学び推進チーム」を立ち上げる。推進チームの主な役割は、県内の各公民館における障害者対象講座開設への支援を行う。

また、市町村関係課職員が対象となる障害者の学びの研修会や推進チームによる生涯学習講座のオンデマンド配信などの取組を行い、全県下へ「学校卒業後における障害者の生涯にわたる学びの支援」の普及・啓発を図る。

3 さわやかちば県民プラザの取組

(1) 「障害者の学び推進チーム」の発足

さわやかちば県民プラザ事業振興課とコーディネーターからなる「障害者の学び推進チーム」を発足し、県内の各公民館における障害者対象講座開設の支援に取り組む。

(2) 「障害者の学び推進チーム」の取組

ア 公民館での障害者対象講座の開設支援

市町村担当課、地域の公民館と連携し、公民館が開設する講座の「計画作成」、「事業の実施・振り返り」を支援する。

支援に当たっては、「学習プログラム開発」で得た知識と経験をもとに、より効果的で円滑な取組になるよう話し合いの場を設けるとともに、千葉県体験活動ボランティア活動支援センターを活用し、各地域のボランティアセンターとの連携を図る。

また、実施の際には、市町村関係課と連携し、地域にある他の公民館や障害者団体に向けて、開催した講座に関する情報を発信することで、地域内全体への普及を図る。

【公民館での事業の流れ】

≪ 1 ≫ 実施計画書の作成

市町村公民館との計画書作成

- ・ 講座開設に関する課題を聞き取り、実態を把握。
- ・ 題材の設定や目標の設定、講座の進め方など。

3年間の成果・
経験の伝達

≪ 2 ≫ 講座の実施

推進チームと市町村関係課で講座の様子を把握

≪ 3 ≫ 講座の振り返り

公民館や市町村関係課とともに報告書の作成と講座の評価

≪ 4 ≫ 講座の内容を地域内に広める

イ さわやかちば県民プラザを会場とした事業

既存の主催講座を障害者が利用しやすいように、支援体制等を整備する。

ウ 「生涯学習講座動画」オンデマンド配信

さわやかちば県民プラザのホームページにて生涯学習講座の動画を配信することで、千葉県内のどこにいても生涯学習に取り組むことができるようにする。

エ 生涯学習講座の講師紹介

地域の社会教育施設や障害者団体の「障害者の学び場づくり」を支援するために、NPO法人や一般企業の講師を紹介していく。

4 生涯学習課の取組

委託事業で得た知識や情報を市町村関係課や地域の社会教育施設、障害者団体等へ提供するとともに、さわやかちば県民プラザの取組等を紹介し、広く障害者の学びについての周知を図っていく。

「障害者の学び」研修会開催（年1回の開催）

場所：さわやかちば県民プラザ

対象：市町村関係課職員（生涯学習、障害福祉課、公民館等）
障害者団体

内容：「障害者の学びについて考える」講演会

※講師は、R2年度までのコンソーシアム委員等
推進チームの取組紹介

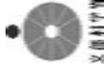
障害者対象講座公開（学習プログラムの実践）等

参 考

文部科学省の実践研究事業について

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

令和2年度予算額 116百万円
 (前年度予算額 105百万円)



趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進することが急務。
 このため、学校卒業後の障害者について、効果的な学習に係る具体的な学習プログラム・実施体制等に関する実証研究や、障害者の学びの実態把握のための調査研究、これらの成果を全国に普及するためのブロック別のコンファレンス等の取組を実施する。
 併せて、文部科学省障害者活躍推進プラン（平成31年）等の成果も受け、新たに関係機関のコンソーシアム形成による地域連携体制の構築を図る。

事業内容

(1) 障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究（51百万円）

学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長するため、学校から社会への移行期、生涯の各ライフステージにおける効果的な学習について、具体的な学習プログラム（※1）や実施体制（※2）に関する実践研究を実施（14箇所）

- ※1：学習プログラムの例
 ○学校卒業直後に行う、主体的に判断し行動する力などの社会で自立して生きるための基盤となる力を育むプログラム
 ※2：実施体制の例
 ○公民館等の施設を活用した障害者青年学級等の実施
 ○特別支援学校の同窓会組織等による卒業生対象の取組の実施

成果・課題の共有

(3) 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究（3百万円）

- ・生涯学習分野における合理的配慮の在り方に関する研究
- ・生涯学習における先端技術の活用方策に関する調査研究

成果・課題の共有

(4) 障害者の学びに関する普及・啓発や人材育成に向けた取組（27百万円）

- ・障害に関する社会全体の理解の向上や、担い手育成と実践の拡大を目指すブロック別コンファレンスの実施
- ・障害者参加型フォーラムの実施
- ・社会教育と特別支援教育・障害者福祉をつなぐコーディネーター人材育成・確保に向けた有識者会議の開催 等

これまでに開発した学習プログラム等の活用、横展開

全国の取組状況や好事例の共有

(2) 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究（34百万円）【新規】

① 地域連携コンソーシアム形成モデルの構築（3箇所）

- ◆ 地方公共団体（社会教育施設を含む）を中心に、関係機関（大学等の高等教育機関、障害者雇用を行う企業等、障害者雇用に知見のある社会福祉法人等）や、生涯学習の機会を提供する民間団体等）が連携し、コンソーシアムを形成・運営（実行委員会を設置）する。
 （主な研究事項）
 - ・ 地域の実情を踏まえ、ターゲットとする障害者のニーズや講座内容・方法、必要な支援策
 - ・ 大学での学びの成果として修了証（履修証明）の発行等を見据えた新たな学習プログラムの開発
 - ・ 地域住民を巻き込んだボランティアの育成講座
 - ・ 障害当事者と講座実施団体、自治体等の費用負担の在り方
 - ・ 地域の障害者の学びの拠点としての障害者の学びに関する情報の収集・提供のためのシステム構築 等

② 連絡協議会の開催

- ◆ 各コンソーシアムの取組が共有されるよう、コンソーシアム形成に取り組み自治体等で構成される連絡協議会を開催する。

地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究

令和2年度事業全体予算額116百万円

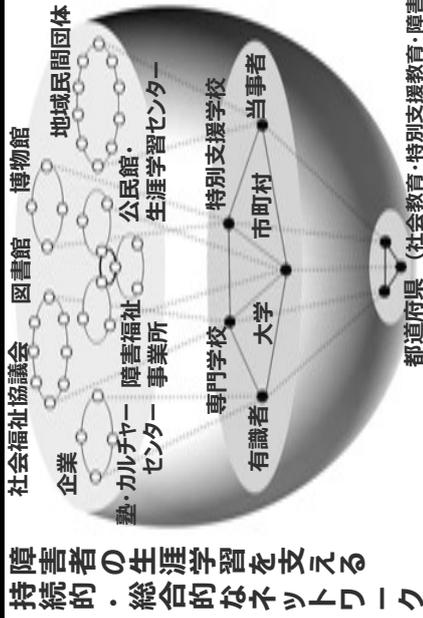
うち、本事業予算は委託先3~4箇所×約9百万円を予定



取組内容の概要

- ◆ 学校卒業後の障害者の学びの場を拡充するため、**地方公共団体（主に都道府県）が教育部局と福祉部局の垣根を越えて中心となり、大学等の高等教育機関や社会福祉法人、地域の企業、NPO団体等が連携した、障害者の生涯学習のための「地域連携コンソーシアム」**形成の**モデル構築**を行う。
- ◆ **参画する機関がそれぞれ得意とする役割を担う**ことで、**地域全体として持続可能な障害者の生涯学習を推進する体制づくり**をねらいとする。
- ◆ **社会教育施設や大学等の教育機関、社会福祉法人等が協力し、障害者が参加できる学びの場の提供**や、**大学等による履修証明制度の活用**など、**障害者の自立や就労も見据えた新たな学習プログラムの開発・実証**等の取組を進める。
- ◆ 学びの場づくりの拡大や質の向上に資する**人材育成の研修プログラムの開発・実証**等を進める。
- ◆ **障害のあるなしに関わらず参加できる講座等の情報収集と提供を可能とする仕組みを構築**するとともに、**関係機関や障害当事者等が参加するコンファレンス等の開催を通じて、本事業の成果の普及・啓発**を進める。

地域連携コンソーシアムの構成イメージ



- 地方公共団体… 全体調整（事業の事務局）、コンソーシアム会議の設置、事業計画の策定、教育部局と福祉部局の連携による域内の情報集約と提供。コンファレンスの開催等による普及・啓発等
- 高等教育機関… 講座の企画・助言、講座開設（オープンカレッジ開設）、履修証明プログラム等の作成、講師・指導者の派遣、学生ボランティアの派遣・養成等
- 民間企業等 … 寄附講座の提供、障害者雇用に向けた講座の企画・助言、障害者雇用の推進協力（マッチング協力）等
- 地域民間団体… 講座の企画・ノウハウ共有・助言、多様な障害者の学びのニーズ対応（講座提供）、障害当事者・保護者の学びのニーズの把握と共有等
- 社会福祉法人… 障害者福祉サービスを通じた講座の提供、大学等の講座の運営支援、障害者の就労支援、ボランティア人材の養成協力等

期待される成果（アウトプット）

- 持続的・総合的な学びの支援の仕組みを構築する
- 関係機関に人的・金銭的な課題がある中で、学びの場を支える**持続的な支援を実現**する。
- 関係者の**縦割りを超えたネットワーク構築**に向けてコンソーシアムが**自律的に運営**される。

期待される成果（アウトカム）

- ◎ 各地域で障害のある人の**社会参加と活躍を推進**
- ◎ 各地域における**支援人材の増加と障害への理解を増進**
- ◎ 障害のあるなしに関わらず**生きやすい共生社会の実現**へ

- 障害者が**様々な学びの機会に参加**できる
- 障害者が**参加可能な学びの場が拡大し、学びの成果を示す**ことができるようになる。
- **学びの場に関する情報が収集・展開**されることで、**障害者の学びへの参加が促進**される。

令和2年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」

採択団体実施主体別・障害種別取組一覧（計20団体） ★＝令和2年度新規団体、◎＝地域連携コンソーシアム形成事業

北海道 府県

★◎北海道教育委員会 ※北海道コンファレンス
〈地域連携コンソーシアム形成事業〉

◎秋田県教育委員会
〈地域連携コンソーシアム形成事業〉

★◎宮崎県 ※九州・沖縄コンファレンス
〈地域連携コンソーシアム形成事業〉

◎兵庫県教育委員会 ※近畿コンファレンス
〈地域連携コンソーシアム形成事業〉

千葉県教育委員会
【知的障害】

市町村

(1件)

★国分寺市教育委員会（東京都）
【知的障害】

大学

(4件)

国立大学法人筑波技術大学（茨城県）
【知的障害・発達障害・精神障害・視覚障害・聴覚障害・肢体不自由】

学校法人日本社会事業大学（東京都）
【視覚障害・聴覚障害】

国立大学法人愛媛大学（愛媛県）
【重度障害】 ※四国・中国コンファレンス

国立大学法人長崎大学（長崎県）
【発達障害・精神障害】

医療・

医療法人稲生会（北海道）

【肢体不自由・重度障害・難病等】

社会福祉

法人等
(3件)

一般財団法人福祉教育支援協会（埼玉県）
【知的障害・発達障害・精神障害・重度障害・難病等】
※関東甲信越コンファレンス

社会福祉法人一麦会（和歌山県）

【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由】

NPO

NPO法人障がい児・者の学びを保障する会（東京都）
【知的障害】

法人

(7件)

NPO法人PandA-J（東京都）

【知的障害・発達障害】

特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所（神奈川県）
【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由】

NPO法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会（愛知県）
【発達障害】 ※東海・北陸コンファレンス

特定非営利活動法人エス・アイ・エヌ（広島県）
【知的障害・発達障害】

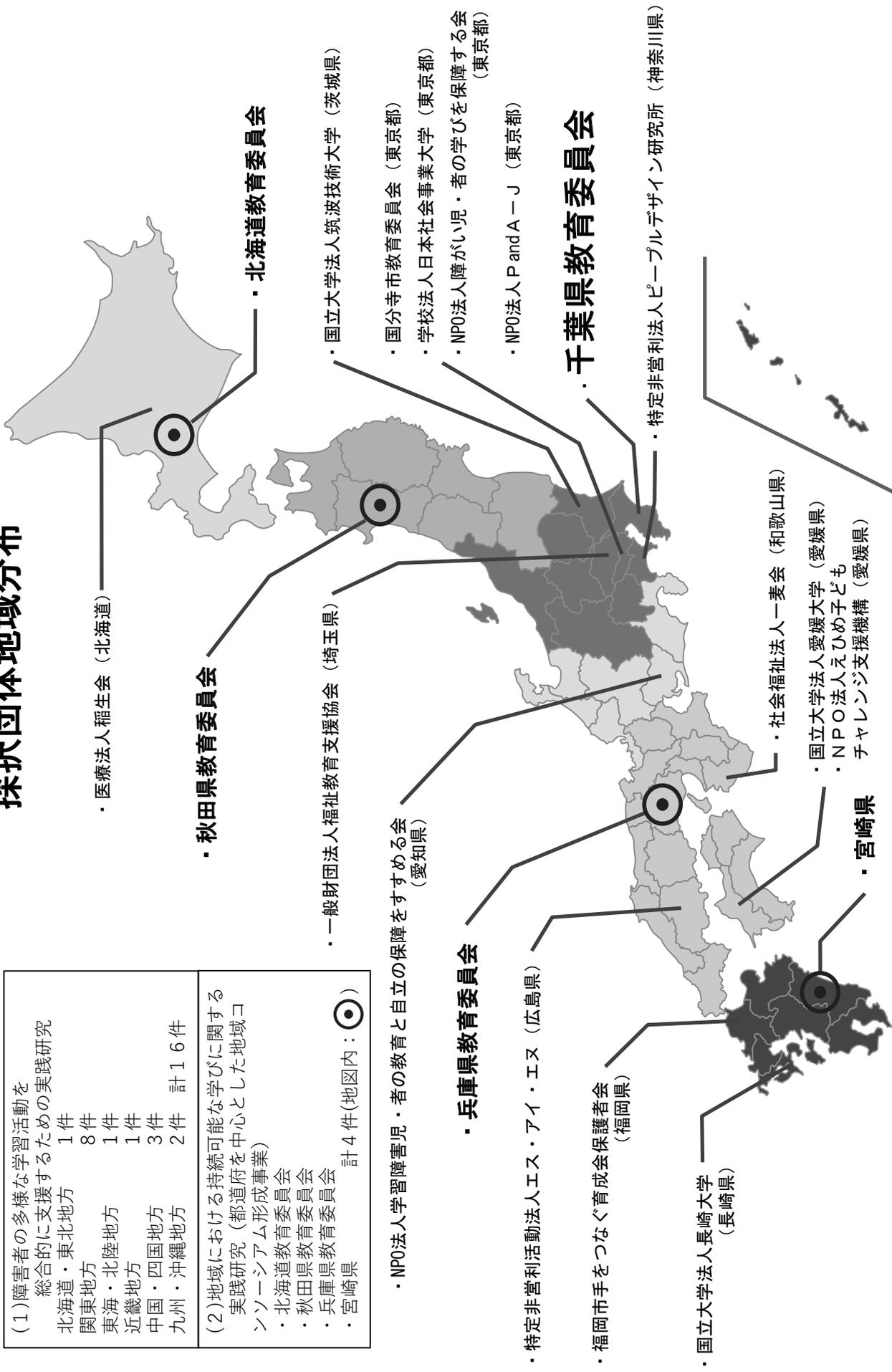
★NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構（愛媛県）
【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由】

保護者の 会(1件)

福岡市手をつなぐ育成会保護者会（福岡県）
【知的障害】

令和2年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」 採択団体地域分布

(1) 障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究	
北海道・東北地方	1件
関東地方	8件
東海・北陸地方	1件
近畿地方	1件
中国・四国地方	3件
九州・沖縄地方	2件
	計16件
(2) 地域における持続可能な学びに関する実践研究（都道府府を中心とした地域コンソーシアム形成事業）	
北海道教育委員会	
秋田県教育委員会	
兵庫県教育委員会	
宮崎県	
	計4件(地図内：◎)



令和2年度

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

令和3年3月

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号

電話 043-223-4072